

JEITA講座「IT最前線」報告書

2011年3月

社団法人 電子情報技術産業協会
情報政策委員会
JEITA講座運営WG

はじめに

若年層の理科離れや大学生の就職先として電子・情報産業が敬遠される傾向が続いている等、わが国の成長を支えてきた電子・情報業界において、将来の発展を担う優秀な人材の不足が懸念される状況となっており、人材育成への取り組みが急務となっている。

(社)電子情報技術産業協会(JEITA)においても、各部会で、人材育成に関する様々な取り組みが行われている。また、JEITA全体として、2007年度に総合政策部会の下に人材育成タスクフォースを設置して、中高生を対象とする「中学生・高校生のためのITエレクトロニクス講座」を実施する等の活動を推進しているが、その出発点になったのがJEITA講座である。JEITA講座は、JEITAに加盟する企業から大学の講座に一流の技術者・研究者を講師として派遣し、オムニバス形式で、各企業の研究・開発の現場で実際に経験したことを直接学生に講義する、という形で2002年度にスタートした。

当初は、3大学で3年間の試行ということで実施されたが、幸いにも大学の先生や学生、企業講師の方々の間で大変評判がよく、試行期間後も毎年開講することになり、大学も9大学に増えて現在に至っている。単に技術的な内容を講義するだけでなく、産業界が必要としている人材像、技術者としての姿勢、創造の厳しさ・喜びなど、企業講師の生の声を直接学生に伝えることを狙いとした。学生にとって、大学で勉強する際の心構えや将来の進路に関するヒントが得られるということが高く評価されているものと思われる。

JEITA講座に関する報告書は、当時活動を支えていた方々によって2003年、2007年度に作成されたが、今回、2010年度の実施状況を中心に、受講生の皆さんのアンケート結果、協力頂いた講師や先生方の所感等をまとめて、活動の集大成として3年ぶりに報告書を作成することになった。

大学の先生をはじめ、関係各位に本報告書をお読み頂き、電子・情報産業界の人材育成のために、産業界と大学が連携して活発な取り組みを推進する一助になれば幸いである。

2011年3月

社団法人 電子情報技術産業協会

JEITA講座運営WG

主査 河内 浩明

2010年度JEITA講座運営WG委員名簿

(敬称略・順不同)

主査	河内 浩明	三菱電機(株)
委員	伊藤 隆司	沖電気工業(株)
”	松尾 稔	セイコーエプソン(株)
”	小西 麻里	TDK(株)
”	藤本 克彦	(株)東芝
”	青木 正博	東芝ソリューション(株)
”	谷口 浩一	日本アイ・ビー・エム(株)
”	大山 裕	日本電気(株)
”	岩崎 孝志	日本ユニシス(株)
”	草野 諭	パイオニア(株)
”	中 基 孫	パナソニック(株)
”	檀原 可一	(株)日立製作所
”	川高 美由紀	(株)FUJITSUユニバーシティ
”	藤岡 隆	横河電機(株)
事務局	一條 倫子	(社)電子情報技術産業協会
”	大塚 豊	(社)電子情報技術産業協会
”	志村 昌宏	(社)電子情報技術産業協会

目 次

1. JEITA講座「IT最前線」概要	1
1.1 講座開設の経緯	1
1.2 講座の目的	2
1.3 これまでの活動状況	3
1.4 講座開設の条件	3
1.5 講座開設の実績	4
1.6 JEITA講座のスキーム	6
2. 2010年度JEITA講座実施報告	7
2.1 東京大学	7
2.2 立命館大学	8
2.2.1 立命館大学 前期	8
2.2.2 立命館大学 後期	10
2.3 電気通信大学	11
2.4 慶應義塾大学	13
2.5 東京農工大学	14
2.6 横浜国立大学	16
2.7 東北大学	17
2.8 岐阜大学	19
2.9 北陸先端科学技術大学院大学	21
3. 講師所感	22
4. 受講生へのアンケート実施結果	24
4.1 総合評価	25
4.2 東京大学	26
4.3 立命館大学	28
4.4 電気通信大学	30
4.5 慶應義塾大学	32

4.6	東京農工大学	34
4.7	横浜国立大学	36
4.8	東北大学	38
4.9	岐阜大学	40
4.10	北陸先端科学技術大学院大学	42
5.	今後の課題	44
6.	おわりに	46
付録1	学生アンケート自由記述	
付録2	2010年度JEITA講座講義テーマ	
付録3	JEITA講座実施要領(2010年1月作成)	

1. JEITA 講座「IT 最前線」概要

1.1 講座開設の経緯

「産業界の視点から、日本の将来を担うに足る人材育成を考える」というミッションを持つ人材育成委員会が、2000年に当協会の前身である(社)日本電子工業振興協会に設置された。この委員会は、1990年代を通してマスコミなどで語られて来た「人材の理系・技術系離れ」「学力の全般的低下」という論調の真意を調査し、それが事実であるならば、電子・情報業界という観点からどのような対策をとるべきかを検討することを目的としていた。委員会における議論では、

- ・大学生の能力・資質と企業が必要としているものとの差が広がっており、企業にとって、学生の早期戦力化が困難な状況になりつつある。
- ・一方で、大学生が社会に出る前に、実社会を見る機会が少ないために、就職先での夢を描きにくくなっている。
- ・就職しても夢が語れず、実現への方法が見つからないまま過ごす社員が増えており、企業の活性化を阻害する一因ともなっている。

というような意見が出され、電子・情報産業を支える優秀な人材の不足が重大な問題であることが確認された。

これに対処するため、2000年12月に委員会の下部組織に大学連携WGを設置し、産業界と大学が積極的に協力し、国際競争力のある産業を支える人材を育成するための具体案について議論を行った。WGは2001年3月に、「次代を担う技術系人材育成のための電子・情報業界と大学との連携方法に関する報告」を取りまとめ、インターンシップ制度の強化拡充、大学講座への企業からの講師派遣、大学教官の企業への受け入れ、大学生への企業からの教育プログラムの提供等の具体策を答申した。この答申を受け、2001年5月、情報システム部会の下に人材育成アクションプラン検討WGが設置された。そして、大学と産業界との連携を強化するモデル事業の一つとして、JEITA講座(大学講座への企業からの講師派遣)を2002年度から実施することを目指し、具体的な取り組みが開始された。JEITA講座への取り組みを優先させたのは、

- ①業界が一体となって活動するにふさわしいこと
- ②産業界に人材を供給している大学との連携を最初に考えるべきであること
- ③学生に電子・情報産業に対して興味を持ってもらうことが重要である

という理由による。

JEITA 講座の開設に当たっては、場所（大学、企業）、人（担当教官、企業講師）、内容（カリキュラム、テーマ）を探ることが最大の課題であった。色々な方法で探した結果、早稲田大学、東京大学、東京工業大学の3つの大学で、受講学生の単位認定を伴う正式講座として受け入れが認められた。テーマ及び講師に関しては、WG 参加9社（沖電気工業、シャープ、東芝、日本アイ・ビー・エム、日本電気、日立製作所、富士通、松下電器産業、三菱電機）が協力し、各社が得意とする分野を中心に2～3件のテーマと講師を推薦するという形で、約30テーマを集めることができた。この中から、各大学とWGが協力して、半期で実施する12～14個程度の講義テーマを取捨選択し、各講師がオムニバス形式で講義を行うJEITA 講座「IT 最前線」が2002年度からスタートした。

1.2 講座の目的

これまでも、個別の企業等による寄附講座や講師派遣等の事業は行われてきたが、技術的な内容を重点に、大学の先生では教えられないような部分を企業講師が代わって講義するということが多かった。JEITA 講座では、これとは視点を異にし、技術そのものではなく「技術の面白さ」を伝えることによって、学生が大学時代に何を学んだらよいか、気づきを与えるとともに、電子・情報産業で働くことの楽しさを理解してもらうことを狙いとした。そのため、講座の趣旨・目的を次のように設定した。

企業の第一線で活躍する技術者・研究者が、企画・研究・開発・設計など実際に体験したことを中心に講義し、その中で、産業界が必要としている人材像、技術者としての姿勢、創造の厳しさ・喜びなどを自らのことばで直接学生に伝え、交流を図ることによって、高度化・多様化する産業界で将来活躍できる人材を育成すること。

単独の企業ではなく、様々な企業における実際の設計や開発の現場の様子が語られるので、受講生にとっては、自身のキャリアパスを描く際の参考にもなると期待される。

講義テーマに関しては、「IT 最前線」というサブタイトルが示すように、計算機アーキテクチャ、IT ソリューション、ソフトウェア、情報セキュリティ、画像認識等の IT 関連技術が中心となっている。これは、当初 JEITA の情報システム部会が活動母体になっていたことが理由であるが、参加企業の事業領域が広いことから、通信、センサネットワーク、半導体デバイス、ロボット等、IT 周辺領域のテーマも含んでおり、かなり広範な内容となっている。また、現在は情報・産業社会システム部会となって、計測・制御関係の講義も含まれる等、徐々にレパートリーが広がっている。

1.3 これまでの活動状況

2002年度から開設されたJEITA講座は、当初3年間の試行としてスタートしたが、大学の担当教官、受講生、また企業講師の間でも大変好評であったため、延長して毎年実施することが決まり、現在に至っている。その間、参加大学や参加企業が拡大し、2010年度末時点では次のような陣容になっている。

- ・参加大学（9大学）

東京大学（隔年開講）、立命館大学、電気通信大学、慶應義塾大学、東京農工大学、
横浜国立大学、東北大学、岐阜大学、北陸先端科学技術大学院大学

- ・参加企業（14企業）

沖電気工業、セイコーエプソン、TDK、東芝、東芝ソリューション、
日本アイ・ビー・エム、日本電気、日本ユニシス、パイオニア、パナソニック、
日立製作所、富士通、三菱電機、横河電機

本WGも当初は人材育成アクションプラン検討WGとして、講座趣旨の設計、講座を開講する大学の選定、講座を構成するテーマの選定、講座を担当する講師の選定等の作業を行ってきた。その後、講座が軌道に乗るにつれて、これらの作業がルーチンワーク化してきたことから、JEITA講座運営WGと改組し、できるだけ少ない労力で最大の効果を発揮できるよう、JEITA事務局の支援を継続して行っている。

また、長期に渡って実施しているとどうしてもマンネリ化する傾向があるため、WG委員が講義を傍聴したり、担当教官からのヒアリングや学生・講師の方々へのアンケート調査等を行うことによって講義内容や講義方法をフォローし、講義レベルの維持・向上に努めている。

1.4 講座開設の条件

JEITA講座は、次のような条件で実施している。

- (1) 学生が真剣に受講するよう、単位認定を伴う正式講座とする。
- (2) 講師に対する謝金及び旅費は、大学の規程に応じて、大学が各講師に支払う。
- (3) 企業講師がスライド等を利用して講義を行い、質疑応答によりディスカッションすることを基本的なスタイルとする。各講義には、本講座の担当教官が同席する。
- (4) 講師に対するインセンティブとして、大学の規程上可能であれば、非常勤講師としての処遇を行う（名刺に非常勤講師の肩書きを許可する等）。
- (5) 成績評価は大学側で行う。出席点及びレポート／試験による評価を原則とする。

- (6) 講義会場のセッティング、講義資料の配付、学生の出席確認等の講義に付随する作業は、大学側が行う。そのため、必要に応じてティーチング・アシスタントを配備する。

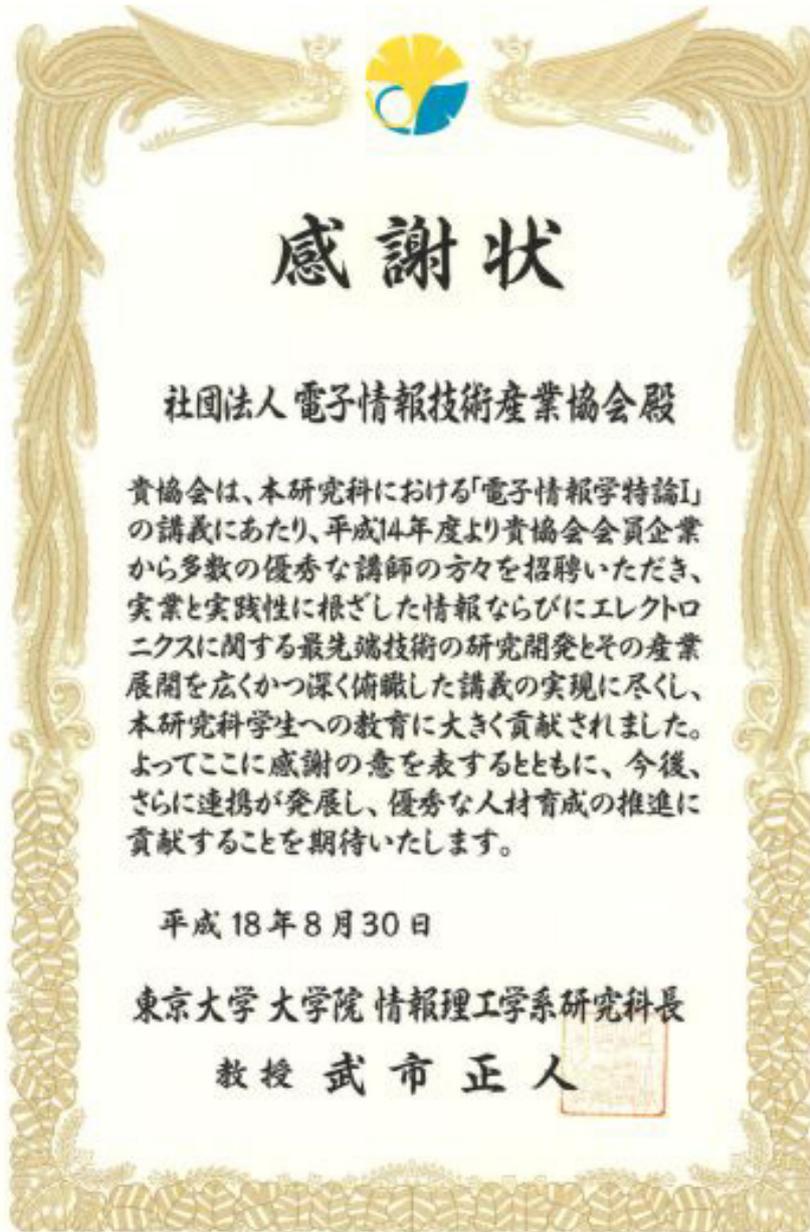
1.5 講座開設の実績

これまでの JEITA 講座の実施状況は以下のとおりである。

大学	講座名	対象	開講期間	備考
東京大学	協力講座 (電子情報学特論 I)	大学院情報理工学系研究科電子情報学専攻の修士課程ならびに博士課程 他	2002年度～	隔年開講 前期
早稲田大学	JEITA寄附講座 「IT最前線」	理工学部及び大学院理工学研究科 電気電子情報系 他	2002年度～ 2004年度	前期
東京工業大学	総合科目C: IT最前線	大学院情報理工学研究科 他	2002年度～ 2003年度	ケーススタディ 講座方式 後期
立命館大学	企業連携講座	情報理工学部3回生、1回生	2003年度～	前期、後期
電気通信大学	情報システム学基礎1 「IT最前線」	大学院情報システム学研究科 他	2003年度～	遠隔教育 後期
慶應義塾大学	21COE/G-COE教育プログラム(情報・電気・電子分野)	COE研究員 (博士後期課程の学生)	2004年度～	前後期 2名/1回
東京農工大学	科学特論VI「JEITA」 講座	大学院工学府	2006年度～	後期
横浜国立大学	先端電子情報工学	電子情報工学科3年生	2007年度～	前期
東北大学	情報科学特別講義(I およびII)	ASIST参加学生(国費留学生) 及び一般の希望学生で、学年は、大学院修士1年生がメイン。	2008年度～	後期
岐阜大学	学際科目「先端情報技術特論」	工学研究科の全専攻の学生	2009年度～	前期
北陸先端科学技術大学院大学	イノベーション セミナー I	知識科学研究科、情報科学研究科、マテリアルサイエンス研究科の博士前期及び後期課程学生	2009年度～	前後期

なお、2006年8月30日に、東京大学大学院情報理工学系研究科武市科長から JEITA に感謝状が授与された。この感謝状は、JEITA 講座「IT 最前線」(東京大学の講座名は「電子情報学特論 I」)による同大学研究科学生への教育に大きく貢献した事が高く評価され贈られたものである。

また、2009年6月3日に、これまで JEITA 講座で実践された産学連携による高度 IT 技術者の人材育成の功績が評価され、第1回電子情報技術産業協会会長賞を受賞した。



東大から授与された感謝状

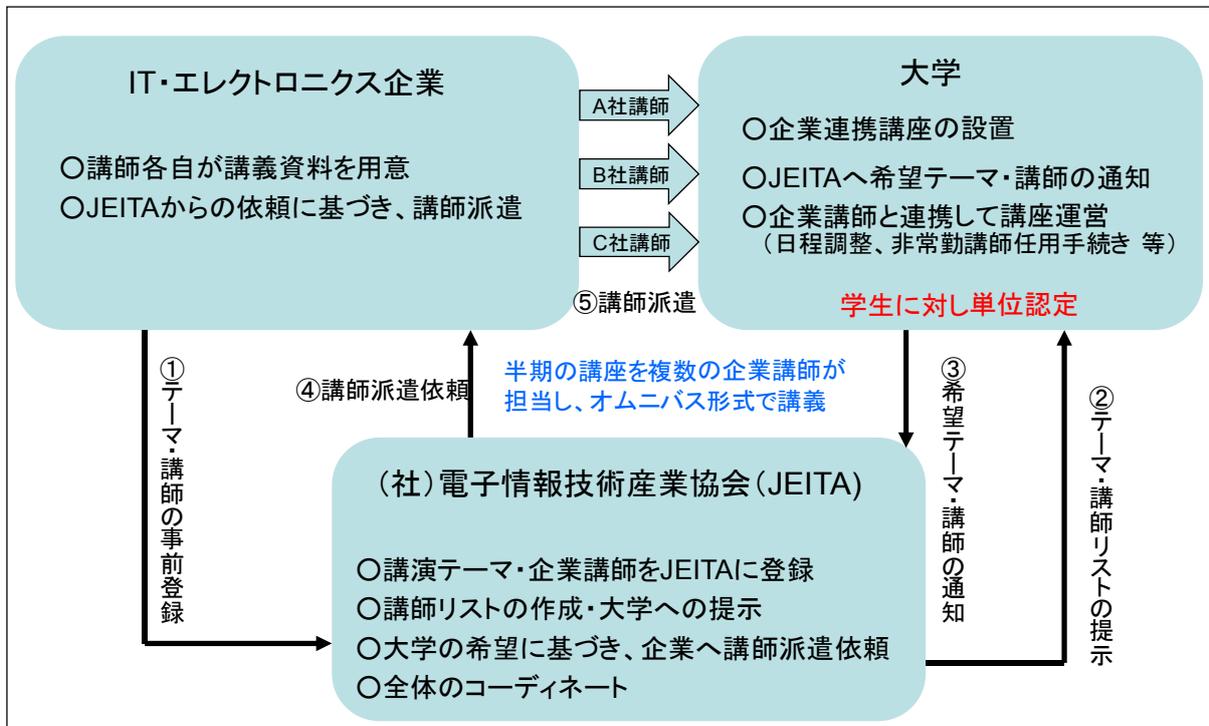
1.6 JEITA 講座のスキーム

JEITA 講座のスキームは以下のとおりである。JEITA 講座の実施大学、参加企業である IT・エレクトロニクス企業および JEITA 事務局において、以下の手順により、講師派遣を実施している。

- (1) テーマ・講師の事前登録 (参加企業 → JEITA)
- (2) テーマ・講師リストを提示 (JEITA → 大学)
- (3) 希望テーマ・講師の通知 (大学 → JEITA)
- (4) 講師派遣依頼 (JEITA → 参加企業)
- (5) 講師派遣 (参加企業 → 大学)

産学協力による大学等における企業連携講座(JEITA講座)

～大学等に企業の技術者・研究者を派遣して行う授業等の実施～



2. 2010年度JEITA講座実施報告

2010年度はJEITA講座の講師派遣リストへ運営WGメンバー14社から85テーマの登録があり、東京大学、立命館大学、電気通信大学、慶應義塾大学、東京農工大学、横浜国立大学、東北大学、岐阜大学、北陸先端科学技術大学院大学の9大学で延べ103の講座が開設された。開設状況は以下の通り。

2.1 東京大学

(1) 講座概要

担当教授：大学院 情報理工学系研究科 江崎 浩 教授

講義期間：2010年4月19日（月）～ 2010年7月12日（月）

履修者数：121名

受講学生の所属：大学院 情報理工学系研究科、大学院 工学系研究科

(2) 講義スケジュール

講義日	講義名	講師名	会社名
4月19日	情報セキュリティの基盤技術 暗号技術の最新動向 -こんなに身近になった暗号-	松 井 充	三菱電機(株)
4月26日	インターネットプロバイダーで活用されるIT技術とその最新動向	岸 川 徳 幸	NECビッグロブ(株)
5月10日	画像認識技術	谷 口 恭 弘	(株)東芝
5月17日	センサネットワーク最新動向	山 内 雅 喜	沖電気工業(株)
5月24日	高速・大容量無線通信	田 邊 康 彦	(株)東芝
5月31日	次世代自動車（電気自動車、ハイブリッド車、燃料電池車）の電源システム	前 山 繁 隆	TDK(株)
6月 7日	大規模ICTシステム開発に必要な基本知識・原理原則	福 富 秀 則	富士通(株)
6月14日	時空間ユーザーインターフェースと情報システム	河 田 慶 三	日本ユニシス(株)
6月21日	日本社会におけるセキュリティリスクとセキュリティ対策技術	大津留 史 郎	日本アイ・ビー・エム(株)
6月28日	組込みシステムとは何か？	中 村 祐 一	日本電気(株)
7月 5日	自然言語処理技術の業務への応用～業務文書の整理分類、内容チェック～	守 安 隆	東芝ソリューション(株)
7月12日	光ファイバセンシングの原理と応用 -光ファイバを測る！ 光ファイバで測る！-	足 立 正 二	横河電機(株)

(3) 担当教授所感

1.授業の様子（学生の態度）はどうでしたか？

概ね良好。

2.本講座は意義があると思いますか？（はい）

（理由）産業界における実状に基づいた、実践的な講義内容は、学生の未来の姿を想像することができる。大学の教員では、教育することが難しいことを、皮膚感覚で話していただける。

3.本講座の運営方法に対するご意見はありますか？（改善点等）

運営方法は、負荷が低く、助かっている。

4.来年度も講座を開講したいと思いますか？（はい）

（理由）実際には、再来年度であるが、学生からの評価も高く、是非継続したい。

5.その他（自由にご記入ください）

英語での講義、あるいは、グローバル化に向けた講師も希望したい。

2.2 立命館大学

2.2.1 立命館大学 前期

(1) 講座概要

担当教授：情報理工学部 情報システム学科 池田 秀人 教授

講義期間：2010年4月16日（金）～2010年7月9日（金）

履修者数：148名

受講学生の所属：情報理工学部2・3回生

(2) 講義スケジュール

講義日	講義名	講師名	会社名
4月16日	ソフトウェア開発技術	山本 里枝子	富士通(株)
4月23日	情報セキュリティの基盤技術 暗号技術の最新動向 -こんなに身近になった暗号-	松井 充	三菱電機(株)
4月30日	企業における情報共有 ~コラボレーション2.0の世界~	行木 陽子	日本アイ・ピー・エム(株)
5月 7日	画像認識技術	谷口 恭弘	(株)東芝
5月14日	センサネットワーク最新動向	山内 雅喜	沖電気工業(株)
5月21日	ロジカル/フィジカル・アクセスセキュリティ向け指静脈認証技術	酒井 康夫	(株)日立製作所
5月28日	システム開発 ~プロジェクトの現場から~	河内 巖	(株)富士通関西システムズ
6月 4日	次世代ネットワーク (NGN)の動向とNGNにより広がるユビキタス情報社会	堀田 巖	(株)日立製作所
6月11日	組込みシステムとは何か?	中村 祐一	日本電気(株)
6月18日	あなたはなぜ就職活動で失敗するのか (発想力と気づき)	濱田 真輔	富士通(株)
6月25日	音声認識	金澤 博史	(株)東芝
7月 2日	技術者視点からみたIT企業における技術者キャリア (スキル) アップについて	宮脇 亨	日本ユニシス(株)
7月 9日	次世代PC動向	大町 隆夫	NECパーソナルプロダクツ(株)

(3) 担当教授 (池田教授) 所感

1.授業の様子 (学生の態度) はどうでしたか?

ほとんどの学生は興味を持って聞いていました。特に、就職に関わる内容の講義は、関心が強く、何かいい情報はないかを聞き出そうと必死のようです。ただ、「単位のとりやすい講義」の感触を持っており、技術やビジネスの関わる部分に対しモチベーションが低い学生が、私語、中途退場をするのは残念です。

2.本講座は意義があると思いますか? (はい)

(理由) 技術的な話は普通の講義でも聞けるのですが、企業の中での取り組み、働き方は普通の講義では教えられません。特に、自分の就職したい企業の人に来てくださったときは、当該学生は真剣です。

講師の先生が、通常の講義で、知識や技術をしっかり勉強してくることが重要だといわれることは、学生の日ごろのモチベーションを上げる上で重要な役目を果たしていると思います。

3.本講座の運営方法に対するご意見はありますか？（改善点等）

学生たちの知識や経験が少ないからと言って、あまり基礎的なことや学問的最先端ばかり話すと、学生たちはがっかりします。初歩の通常の講義で教えていますし、学問的最先端は大学の教員の得意とするところですので、実社会やビジネスとの接点を紹介するつもりでやっていただくことがいいと思います。

4.来年度も講座を開講したいと思いますか？（はい）

（理由）大学の通常の講義ではカバーできない部分、特に学生に対する勉学、技術習得の動機付けに関して重要な役割を果たしているから。よろしくお願いします。

2.2.2 立命館大学 後期

(1) 講座概要

担当教授：情報理工学部 メディア情報学科 樋口 宜男 教授

講義期間：2010年10月6日（水）～2010年11月24日（水）

履修者数：61名

受講学生の所属：情報理工学部1回生

(2) 講義スケジュール

講義日	講義名	講師名	会社名
10月6日	ソフトウェア・プロというキャリアー カナダ赴任経験を交えてー	村田 すなお	セイコーエプソン(株)
10月13日	生活支援ロボット	松日楽 信人	(株)東芝
10月20日	ITと地球環境ー持続可能な社会の実 現に向けてー	功刀 昭志	富士通(株)
10月27日	ヒューマンインタフェース	福井 美佳	(株)東芝
11月3日	システムエンジニアの仕事ー地球シ ミュレータの構築を通してー	撫佐 昭裕	日本電気(株)
11月24日	ビジネスとITシステムーモノ作りの 観点からー	茂木 強	三菱電機(株)

(3) 担当教授（樋口教授）所感

1.授業の様子（学生の態度）はどうでしたか？

1回生を対象にしているため、まだ専門技術に対する意識が低く授業中居眠りをする学生もいましたが、反対に非常に強い関心を示し、講義終了後、長時間にわたって講師の方を取り囲んで熱心に質問する学生も相当数いました。

2.本講座は意義があると思いますか？（はい）

（理由）現場で活躍されている講師の方々のお話には強い説得力がありました。

特に大型プロジェクトをまとめるプロジェクトリーダーの役割などに関しては学生の関心が極めて高く、理想とする人物像を具体的に描くことができたことを最終回のグループ発表会で発表したグループが複数ありました。なかなか具体的な職業イメージが作りにくいITの分野において、具体的な理想の人物像ができ、勉学に対する意識が変わったことは大変大きな成果と言って良いと思います。

3.本講座の運営方法に対するご意見はありますか？（改善点等）

本学では同じ講師の方に複数年本学の講義を担当して頂くようお願いしており、実際にそのような形で運営しています。これは1回生が対象であるということで、受講生の知識レベルに対する講師の方々の認識が実際の受講生のそれと微妙にずれていることを複数年かけて修正しているためです。実際、1年目より2年目、2年目より3年目と受講生の知識レベルに合わせて頂いているのが担当教員にも良く分かりますし、受講生の評判も良くなっています。

このような観点から、今後も是非複数年にわたって同じ講師の方をお願いできるようなご配慮を頂ければありがたいと思います。

4.来年度も講座を開講したいと思いますか？（はい）

（理由）1.および2.で書いた通り、意識の高い学生にとっては非常に新鮮な驚きと感銘をもって現場の経験談が受け止められており、学部における初年次教育として大変意義があると考え、来年度もご協力をお願いした次第です。

5.その他（自由にご記入ください）

特にはありませんが、お忙しい本務の合間に情報理工学部の初年次教育の意義をご理解頂き、受講生の知識レベルに合わせた講義をご準備頂いた講師の方々に深くお礼を申し上げます。

2.3 電気通信大学

(1) 講座概要

担当教授：大学院 情報システム学研究科 田野俊一 教授

講義期間：2010年10月26日（火）～2011年2月8日（火）

履修者数：79名

受講学生の所属：情報システム学研究科 博士前期課程 1年および2年

(2) 講義スケジュール

講義日	講義名	講師名	会社名
10月26日	時空間ユーザーインターフェースと情報システム	河田 慶三	日本ユニシス(株)
11月 2日	次世代PC動向	大町 隆夫	NECパーソナルプロダクツ(株)
11月 9日	大規模ICTシステム開発に必要な基本知識・原理原則	福富 秀則	富士通(株)
11月30日	地球温暖化と電子デバイス業界における課題と対応	南百瀬 勇	セイコーエプソン(株)
12月 7日	対話によりユーザの真のニーズを見える化する「ラダリング型検索サービス」	村田 稔樹	沖電気工業(株)
12月14日	組込みシステムとは何か？	中村 祐一	日本電気(株)
12月21日	情報セキュリティの基盤技術 暗号技術の最新動向 -こんなに身近になった暗号-	松井 充	三菱電機(株)
1月11日	次世代自動車（電気自動車、ハイブリッド車、燃料電池車）の電源システム	前山 繁隆	TDK(株)
1月18日	ITパラダイムシフトとITアーキテクトの役割(SOA, Cloud ComputingそしてEnterprise Architecture)	山下 眞澄	日本アイ・ビー・エム(株)
1月25日	計測トレーサビリティ概論	荻田 英治	横河電機(株)
2月 1日	反復型ソフトウェア開発プロセスの概要	四野見 秀明	(株)日立製作所
2月 8日	情報ネットワークと危機管理	遠藤 直樹	東芝ソリューション(株)

(3) 担当教授所感

1. 授業の様子（学生の態度）はどうでしたか？

講義毎にばらつきがあるが、おおむね真剣に受講していた。

自分の研究に近いテーマだと QA が活発になる。

2. 本講座は意義があると思いますか？（はい）

（理由）学生にとって、特に「実社会で技術がどのように生かされるのか」が理解できるので、今後の学生自身の研究教育の動機付けの点で有意義である。

3. 本講座の運営方法に対するご意見はありますか？（改善点等）

企業によっては、講義が固定化しているところがある。各企業、新たな講義を準備して頂きたい。

（全体では、新しい講義が増えていることは理解しています）

下記5に関連しますが、講師の学位の有無をお知らせ頂くことは可能でしょうか。

4.来年度も講座を開講したいと思いますか？（はい）

（理由）私自身、有意義だと考えていますし、受講した学生の指導教員にも高い評価を頂いています。

5.その他（自由にご記入ください）

日本の学生の学修意欲が落ちていると感じています。そのために、次回からは、講師の方々には、

(1)技術内容に加えて

(2)研究者・技術者としてどのような能力が必要で、日頃から研鑽しておくべきか、

(3)特に博士前期課程、後期課程でどのように学び、研究すべきか、

についても触れて頂き、意欲を増すようにさせたい。上記(2)と(3)を熱く語れる講師を紹介して欲しい。上記3ではその意味で、「講師の学位の有無」が一つの指標になるかと考えました。

本講義を、「スーパー連携大学院」の「イノベーション博士」の「志」を育成する講義として活用することを考えています。これまで同様に、電通大の連携大学にeラーニングで配信します。

2.4 慶應義塾大学

(1) 講座概要

担当教授：理工学部電子工学科 津田裕之 教授

講義期間：2010年6月7日（月）～2010年7月5日（月）

履修者数：45名

受講学生の所属：総合デザイン工学専攻、開放環境科学専攻、基礎理工学専攻
博士課程1～3年

(2) 講義スケジュール

講義日	講義名	講師名	会社名
6月7日	システムエンジニアの仕事 ―地球シミュレータの構築を通して―	撫 佐 昭 裕	日本電気(株)
6月7日	高速・大容量無線通信	田 邊 康 彦	(株)東芝
6月21日	地上デジタル放送とワンセグ受信技術	加 藤 明	日本電気(株)
6月21日	スマートフォン(iPhoneやAndroid)の動向と拡張現実(AR)での活用	中 川 靖 士	日本ユニシス(株)
7月5日	携帯電話におけるマルチメディアとセンシング技術「ヒューマンセントリックケータイへの取り組み」	中 条 薫	富士通(株)
7月5日	画像認識技術	谷 口 恭 弘	(株)東芝

(3) 担当教授所感

1. 授業の様子（学生の態度）はどうでしたか？

概ね興味深く聴講している。受講している学生（博士課程）の専門分野と講義内容がマッチしないと理解しにくい場合もあるようである。学生主体の議事進行を行っているが、司会の学生によって、質問も活発に行われている。

2. 本講座は意義があると思いますか？（はい）○印記入

（理由）広い分野の知見が得られるので有用である。研究開発の仕事の現状が分かると、学生のキャリア設計に有用である。

3. 本講座の運営方法に対するご意見はありますか？（改善点等）

電子デバイス・材料、プロセス関連の講師がもう少し増員出来ると良いと思う。

4. 来年度も講座を開講したいと思いますか？（はい）○印記入

（理由）グローバル COE プログラムの一環として講座を開講していること、博士課程学生の教育に有効であるから来年度も開講したい。

2.5 東京農工大学

(1) 講座概要

担当教授：大学院 共生科学技術研究院 システム情報科学部門 北嶋 克寛 教授

講義期間：2010年10月6日（水）～2011年1月26日（水）

履修者数：32名

受講学生の所属：情報工学専攻、電気電子工学専攻、物理システム工学専攻、

機械システム工学専攻、応用化学専攻、生命工学専攻

(2) 講義スケジュール

講義日	講義名	講師名	会社名
10月6日	センサネットワーク最新動向	山内 雅喜	沖電気工業(株)
10月13日	ITと地球環境－持続可能な社会の実現に向けて－	功刀 昭志	富士通(株)
10月20日	地上デジタル放送とワンセグ受信技術	加藤 明	日本電気(株)
10月27日	音声認識	金澤 博史	(株)東芝
11月10日	次世代ネットワーク (NGN) の動向と NGNにより広がるユビキタス情報社会	堀田 巖	(株)日立製作所

11月17日	ITパラダイムシフトとITアーキテクトの役割	山下 眞 澄	日本アイ・ビー・エム(株)
11月24日	バイオメトリックシステム	溝口 正 典	日本電気(株)
12月 1日	最新LEDプリンタ用書込みヘッド技術	中村 幸 夫	(株)沖デジタルイメージング
12月 8日	携帯電話におけるマルチメディアとセンシング技術「ヒューマンセントリックケータイへの取り組み」	中条 薫	富士通(株)
12月15日	次世代PC動向	大町 隆 夫	NECパーソナルプロダクツ(株)
12月22日	スーパーコンピュータ入門	撫佐 昭 裕	日本電気(株)
1月12日	ソフトウェア工学の実践 –ソフトウェア開発における「改善」–	芝田 晃	三菱電機(株)
1月19日	画像認識技術	谷口 恭 弘	(株)東芝
1月26日	インターネットプロバイダーで活用されるIT技術とその最新動向	岸川 徳 幸	NECビッグロープ(株)

(3) 担当教授所感

1.授業の様子（学生の態度）はどうでしたか？

おおむね、真面目に聞いているが、なかには寝ている学生もいる。

残念ながら、本学では、情報系の学生の登録がほとんどなくなり、電気電子系の学生がほとんどとなっています。私のテーマの選択に問題があったのかもしれませんが。

2.本講座は意義があると思いますか？（はい）

（理由）大学の教員の講義とは異なり、企業における最新の実践的、実用的な研究や開発の動向について聞くことができるのは、学生（M1）にとって有意義であると思います。

3.本講座の運営方法に対するご意見はありますか？（改善点等）

運営方法というより、講師（特に新人の講師）に対するガイダンスのようなものを行っていただきたい。2.で述べたような、大学側が期待する内容とは程遠い講義を行う講師がときにいることも事実である。

4.来年度も講座を開講したいと思いますか？（はい）

（理由）来年度から担当委員が変わりますが、当然、続ける意向である。

2.6 横浜国立大学

(1) 講座概要

担当教授：工学部電子情報工学科 吉川信行 教授

講義期間：2010年4月19日（月）～ 2010年7月21日（水）

履修者数：118名

受講学生の所属：工学部 電子情報工学科

(2) 講義スケジュール

講義日	講義名	講師名	会社名
4月19日	生活支援ロボット	松日楽 信 人	(株)東芝
4月26日	安全・安心を支えるセンサ技術	小 田 直 樹	日本電気(株)
5月17日	情報通信技術が切り拓く金融ビジネス・モデル	田 村 雅 靖	富士通(株)
5月24日	コンタクトセンター最新技術動向	行 木 照 雄	日本アイ・ピー・エム(株)
5月31日	高速・大容量無線通信	田 邊 康 彦	(株)東芝
6月 7日	最新LEDプリンタ用光書込みヘッド技術	中 村 幸 夫	沖デジタルイメージング
6月14日	光ファイバセンシングの原理と応用 －光ファイバを測る！ 光ファイバで測る！－	足 立 正 二	横河電機(株)
6月21日	プログラム解析技術概説と応用	四野見 秀 明	(株)日立製作所
6月28日	情報セキュリティの基盤技術 暗号技術の最新動向 －こんなに身近になった暗号－	松 井 充	三菱電機(株)
7月 5日	次世代ネットワーク(NGN)の動向とNGNにより広がるユビキタス情報社会	堀 田 巖	(株)日立製作所
7月12日	スーパーコンピュータ入門	撫 佐 昭 裕	日本電気(株)
7月21日	ヒューマンインタフェース	福 井 美 佳	(株)東芝

(3) 担当教授所感

1.授業の様子（学生の態度）はどうでしたか？

今年度は、若干受講者数が減少傾向でした。また、例年に対して遅刻する学生が少し多いようでした。講義の後での質問が少なかったのも問題です。

来年度はこれらについて対策を検討する必要があると考えています。

2.本講座は意義があると思いますか？（はい）

（理由）学生は本授業に対して以下のことを期待していると思います。

- ・大学で勉強している学問や知識が企業の製品開発においてどのように役立つのかを知ること。
- ・企業の研究者、技術者が学問や技術をどのように理解し、製品開発に用いているのかを知ること。

・企業の研究者、技術者が、どのような姿勢で研究、製品開発に取り組み、どのような視点で物事を見ているのかを知ること。

・企業での製品開発や開発研究が実際にどのように行なわれているかを知ること。

いずれの授業でもこれらの点について平易に授業をして頂いたので、大変意義のある講義であったと思います。

今後も、これらの点についてより詳しいお話をお聞かせいただきたいと思います。

3.本講座の運営方法に対するご意見はありますか？（改善点等）

本学科が取り扱うカリキュラムが電気、電子、情報、通信の広範囲にわたりますが、ご紹介いただいた講義テーマのリストと、お願いしたい講義テーマに少し食い違う面があります。特に電気と電子に関する講義内容の充実をお願いしたいと思います。

4.来年度も講座を開講したいと思いますか？（はい）

（理由）上述のように本授業は通常の大学の講義では得られない有意義な知見が得られます。また、大学で実施している学生アンケートでは、本授業は満足度の高い授業です。

2.7 東北大学

(1) 講座概要

担当教授：大学院情報科学研究科 中尾光之 教授

講義期間：2010年11月4日（木）～ 2011年1月27日（木）

受講学生の所属：ASIST参加学生（国費留学生）及び一般の希望学生

(2) 講義スケジュール

講義日	講義名	講師名	会社名
11月4日	自然言語処理技術の業務への応用 ～ 業務文書の整理分類、内容チェック～	守 安 隆	東芝ソリューション (株)
11月11日	時空間ユーザーインターフェースと情報システム	河 田 慶 三	日本ユニシス(株)
11月18日	プログラム解析技術概説と応用	四野見 秀 明	(株)日立製作所
11月25日	ソフトウェア工学の実践 –ソフトウェア開発における「改善」–	芝 田 晃	三菱電機(株)
12月2日	システム開発における要件定義の重要性とモデリング技術	若 杉 賢 治	富士通(株)
12月9日	システムエンジニアの仕事 –地球シミュレータの構築を通して–	撫 佐 昭 裕	日本電気(株)

12月16日	ITシステムのセキュリティ設計技術	島田 毅	東芝ソリューション(株)
1月6日	ITパラダイムシフトとITアーキテクトの役割(SOA, Cloud ComputingそしてEnterprise Architecture)	山下 眞澄	日本アイ・ビー・エム(株)
1月13日	情報セキュリティの基盤技術 暗号技術の最新動向 -こんなに身近になった暗号-	松井 充	三菱電機(株)
1月20日	NGNが実現するユビキタス社会 ~次世代のネットワークはどこへ向かうのか?~	今井 恵一	日本電気(株)
1月27日	ITと地球環境 ~持続可能な社会の実現に向けて~	功刀 昭志	富士通(株)

(3) 担当教授所感

1.授業の様子（学生の態度）はどうでしたか？

比較的熱心に聞いていたように思う。特に、クイズ形式を取り入れておられたりして、何らかの工夫がある講義は受講しやすかったようである。講義後に講師とのフリートークを実施したが、毎回数名の参加があり、大いに盛り上がった。

2.本講座は意義があると思いますか？（はい）

（理由）講義で学んだことの実践の状況やキャリアに対する考え方を確立するうえで役に立つと思われる。

3.本講座の運営方法に対するご意見はありますか？（改善点等）

- ・単に事例的な話の列挙ではなく、技術的な背景がまずあって、事例へと繋がるような進め方がよいかもしれない。
- ・現在では全体を統一的なテーマの下に講義を構成することは難しいように思われるが、ある程度内容を絞ったパッケージ化も必要かもしれない。

4.来年度も講座を開講したいと思いますか？（はい）

（理由）上記のような意義を認めるから。

5.その他（自由にご記入ください）

今年度より、講義後、学生とのフリートークを実施し、場合によっては講義時間よりも長くお話しに加わっていただく場合もありました。快く応じてくださった講師の方々に感謝したいと思います。これは電子情報通信学会の東北大学生 brunch の活動の一環として後期課程学生にも手伝ってもらって実施しました。

2.8 岐阜大学

(1) 講座概要

担当教授：工学部 応用情報学科 速水 悟 教授

講義期間：2010年4月14日（水）～ 2010年7月21日（水）

履修者数：99名

受講学生の所属：工学研究科の全専攻の学生

(2) 講義スケジュール

講義日	講義名	講師名	会社名
4月14日	電子カルテが拓く未来の医療	鈴木 淳 夫	富士通(株)
4月21日	生活支援ロボット（人間共存環境下でのロボット技術）	松日楽 信 人	(株)東芝
4月28日	情報セキュリティの基盤技術 暗号技術の最新動向 -こんなに身近になった暗号-	松 井 充	三菱電機(株)
5月12日	ITパラダイムシフトとITアーキテクトの役割(SOA, Cloud ComputingそしてEnterprise Architecture)	山 下 眞 澄	日本アイ・ビー・エム(株)
5月19日	地上デジタル放送とワンセグ受信技術	加 藤 明	日本電気(株)
5月26日	NGNが実現するユビキタス社会～次世代のネットワークはどこへ向かうのか?～	今 井 恵 一	日本電気(株)
6月 2日	スマートフォン(iPhoneやAndroid)の動向と拡張現実(AR)での活用	中 川 靖 士	日本ユニシス(株)
6月 9日	ソフトウェア工学の実践 -ソフトウェア開発における「改善」-	芝 田 晃	三菱電機(株)
6月16日	光ファイバセンシングの原理と応用 -光ファイバを測る! 光ファイバで測る!-	足 立 正 二	横河電機(株)
6月23日	地球温暖化と電子デバイス業界における課題と対応	南百瀬 勇	セイコーエプソン(株)
6月30日	自然言語処理技術の業務への応用～業務文書の整理分類、内容チェック～	守 安 隆	東芝ソリューション(株)
7月 7日	脈波センシング技術への期待	天 野 和 彦	セイコーエプソン(株)
7月14日	あなたはなぜ就職活動で失敗するのか(発想力と気づき)	濱 田 真 輔	富士通(株)
7月21日	インクジェット技術で広がるカラーイメージングの世界	鋤 田 直 樹	セイコーエプソン(株)

(3) 担当教授所感

1.授業の様子（学生の態度）はどうでしたか？

たいへん、熱心に受講していました。企業の方から、実体験にもとづいたお話を聴ける貴重な機会であると、学生も、良く認識していたと思います。工学研究科の全専攻の学生が対象のため、専門分野の異なる学生には、やや難しい内容が含まれていましたが、努力して、理解しようとしているように思いました。

2.本講座は意義があると思いますか？（はい）

（理由）さまざまな分野のテーマについて、非常に良く準備された講義を提供していただき、感謝しております。また、企業活動の中での実体験にもとづく講義は、学生に共感を与え、内容を、より深く理解できることにつながると期待しています。教員にとっても、とても参考になります。また、自分たちだけでは、カバーできない専門的な内容を、高い水準で、講義していただき、大学の運営上の利点もあります。

3.本講座の運営方法に対するご意見はありますか？（改善点等）

講師の方も大学の教員の側も、なかなかできないことですが、講義の間の連携や講師間の情報共有を支援する仕組みがあると、良いと思いました。大学の e-learning のシステムの利用などが、候補として考えられます。

4.来年度も講座を開講したいと思いますか？（はい）

（理由）是非、来年度も、講座を開講していただきたいと希望します。近年、学生の就業力支援についての取り組みの必要性が認識されており、こうした講座は、貴重な機会と考えます。

5.その他（自由にご記入ください）

講義終了後、ご都合のつく講師の方には懇談の時間をとっていただき、学生が企業の方の様々なご意見をうかがえる良い機会となっています。毎週、水曜日の開講でしたが、水曜日には就職関連のイベントが多く、参加できない学生が多数あることから、来年度も開講していただける場合には、月曜日に変更する予定です。講師の方と大学の事務との間の手続きも、これまでの経験から、よりスムーズになるように改善につとめていますので、よろしくお願い申し上げます。

2.9 北陸先端科学技術大学院大学

(1) 講座概要

担当教授：キャリア支援センター長 富取 正彦 センター長

講義期間：2010年6月16日（水）～ 2010年9月27日（月）

履修者数：49名

受講学生の所属：知識科学研究科、情報科学研究科、マテリアルサイエンス研究科の
博士前期及び後期課程学生

(2) 講義スケジュール

講義日	講義名	講師名	会社名
6月16日	次世代型エンジニアの心得とモチベーション向上法	関 弘 充	富士通(株)
7月21日	技術者視点からみたIT企業における技術者キャリア（スキル）アップについて	宮 脇 亨	日本ユニシス(株)
9月27日	多様化する社会で求められるマルチキャリア	山 下 浩一郎	富士通(株)

(3) 担当教授所感

1. 授業の様子（学生の態度）はどうでしたか？

1回あたり90分と時間が短かったですが、どのテーマとも学生がとても興味を持ち、様々な質問が出るなど、真剣でした。終了時のアンケートの結果を見ても、内容に満足しているようです。

2. 本講座は意義があると思いますか？（はい）

（理由）学生が自身のキャリアプランを考える上で、また、就職を希望する学生にとっては仕事とはどういうものかを知る上で、企業の第一線で働く方の話を聞くことは意義があると考えます。

3. 来年度も講座を開講したいと思いますか？（はい）

（理由）情報技術に詳しくない研究科の学生も対象に、技術そのものの話ではなく、技術を利用する方法等を、キャリア形成支援の一環として開講出来ればと考えています。

3. 講師所感

2010年度は延べにして103名の講師の方に講義を行なって頂いた。毎回講義終了後、講師の方にアンケートを行っており、ここでは、アンケート結果を元に講師から見た“JEITA講座”を探ってみた。以下アンケートの質問項目にそって纏めてみた。

(1) 授業の様子はどうか

「熱心」、「真面目な授業態度」を挙げた講師が多かった。また質問も数多く来て講義による達成感を得たという講師も多かった。質問をするとポイントが貰えるシステムの大学もあり自然と質問が増える場合もあるが、講義終了後に教室外で質問攻めに遭うなど、学生の積極的・自主的に“知りたい”という姿勢を強く感じた講師が多かったようだ。また、講義終了後に学生と懇談の機会を設定している大学もあり、活発な意見交換が行われている。

(2) JEITA 講座は意義があるか

講師の大多数が意義があると答えている。

アンケートから判断すると、学生が、現場エンジニアの生の声を直接聞くことによって、「普段勉強している内容が本当に実社会に出て仕事をした時に役に立つのか」という不安、疑問を少しでも緩和し、優秀な学生をものづくりの現場に引き入れるという JEITA 講座の目的と講師の意識は合っている。

(3) 来年度も講師を引き受けたいと思うか

この質問も大多数がやりたい（やってもよいというよりも、もう少し強いニュアンスで）と答えている。理由としては「これから世の中に出て行く人材に、自分の経験や知識などを伝える機会をいただけることは光栄です」、「IT 分野の職業に就く面白さ、遣り甲斐、責任を是非多くの学生の方々に理解して戴き、是非ともこの分野に就職し、活躍し、日本の IT 産業をさらに発展させて戴きたい」といった日本の IT 業界発展のため人材育成に貢献したいという高邁な見地によるものが目立つ。また若い世代と触れ合える良い機会と捉えている人も多かった。

(4) JEITA 講座運営に関する意見

主な意見は以下の通り

- ・講義の内容についてフィードバックがあると助かります。
- ・本講座は、学生と企業の技術者をつなぐ大変貴重な機会だと思います。企業側の講師は研究開発

現場の雰囲気や自分の思いを伝える事が可能です。学生側が知りたいことは事前に講師に伝えるように出来たら良いと思います

- ・学生の興味を湧くようなテーマ（その大学の専門・学科に応じた）を選んで講座を開催した方がいい。もしくは誰にでもメジャーな企業もしくは製品もしくは今話題の技術のほうが、とっつき易いかもしれない。

- ・講義に際して、できれば実際に目で見える/手で触れるもしくは教材がビジュアルで動きがあるものの方が学生の興味を引くのではないかと考える。

4. 受講生へのアンケート実施結果

各大学での講座終了後に、受講生に対して JEITA 講座全体についてのアンケート調査を実施した。アンケート調査項目は以下のとおりである。

(1) 受講した個々の講義についての感想。

「講義内容」、「講義資料／講義の仕方」の2項目について、5段階での評価

(2) JEITA 講座の全体を通じた感想

以下の3点について5段階での評価

①役に立ったか

5：役に立った、・・・、1：役に立たない

②将来、電子・IT業界の仕事に就きたいと思うかどうか

5：就きたい、・・・、1：就きたくない

③全体の満足度

5：満足、・・・、1：不満足

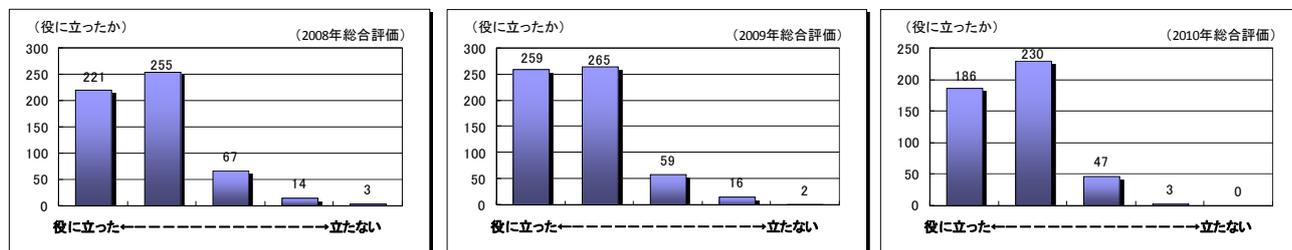
(3) 特に印象に残った講義とその理由（自由記述）

(4) 今後聞いてみたいテーマ（自由記述）

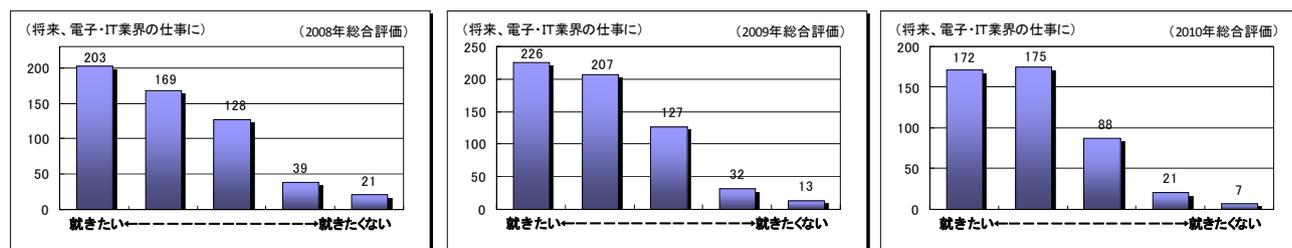
(5) JEITA 講座に対する意見・要望（自由記述）

4.1 総合評価

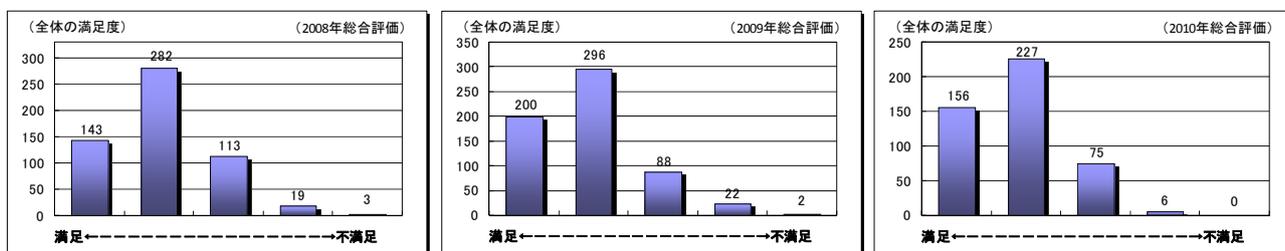
実施全受講生による総合評価（2008年度、2009年度、2010年度）は以下の通り。



「役に立ったか」の設問についての2010年度の平均評点は4.3であり、また、受講生の約90%が5段階評価の4点以上をつけていることから、JEITA講座が受講生にとって大いに役に立ったことがわかる。3年間の時系列で見ても、JEITA講座の役割はたいへん高いことが窺える。

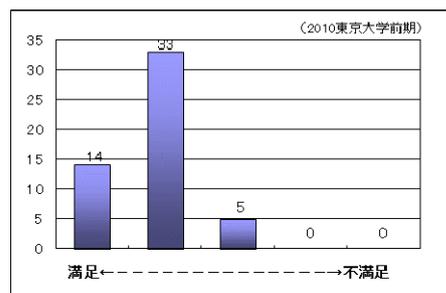
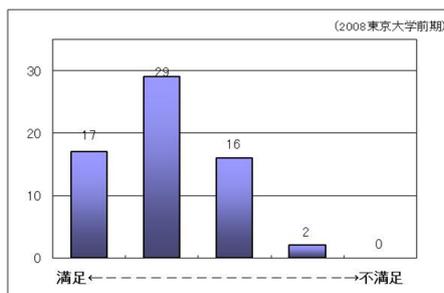
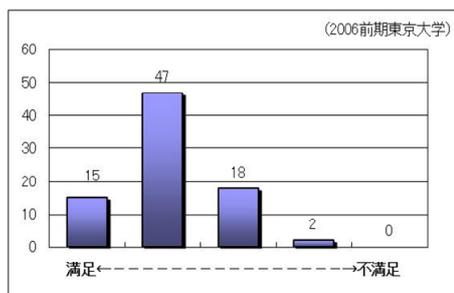
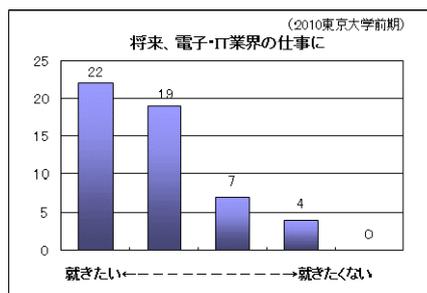
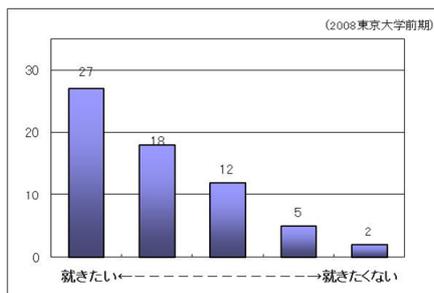
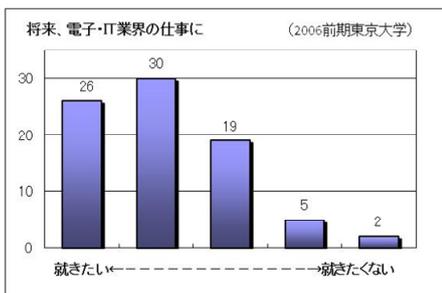
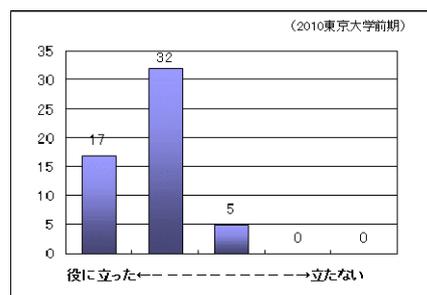
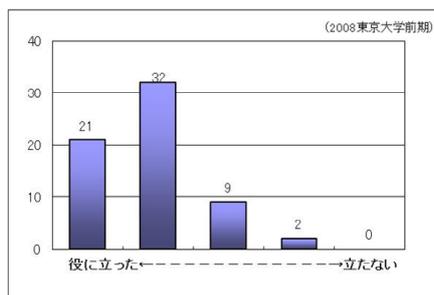
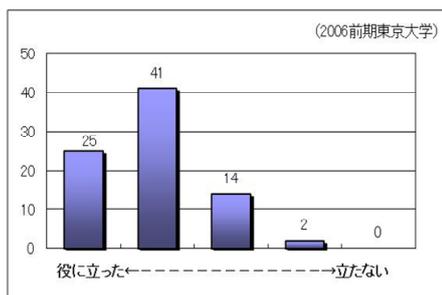


「将来、電子・IT業界の仕事に就きたいか」の設問についての2010年度の平均評点は4.05。各大学の受講者層にバラツキがあり、評点にも影響していたものの、受講生の約75%が5段階評価で4点以上をつけており、電子・IT業界のアピールはできているものと考えられる。時系列で見ても、電子・IT業界への就職意欲は安定していることが窺える。



「全体の満足度」については、2010年度の平均評点が4.15。82.51%と、約5人中4人までが、満足度に4点以上の評点をつけていた。このことから本講座が受講生たちに満足のいくものであったと判断することができる。

4.2 東京大学

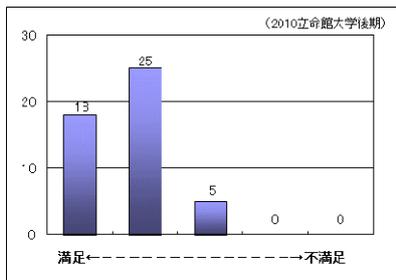
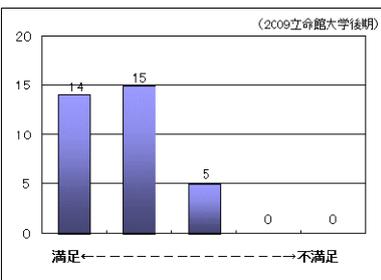
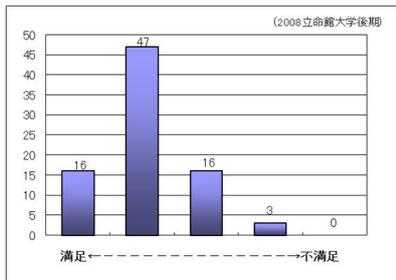
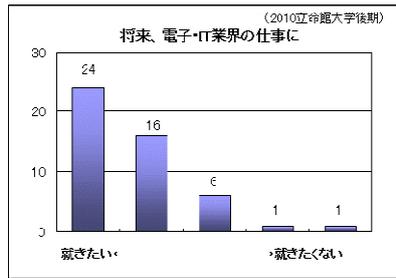
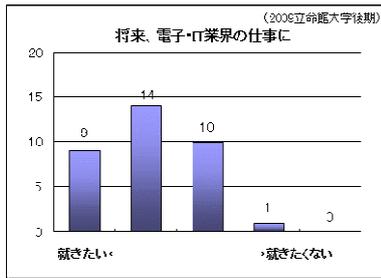
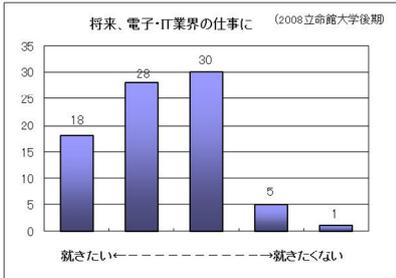
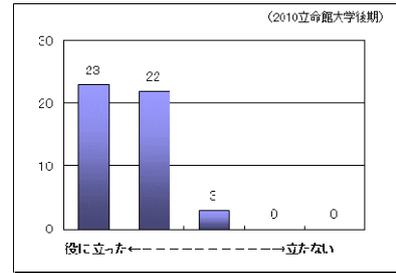
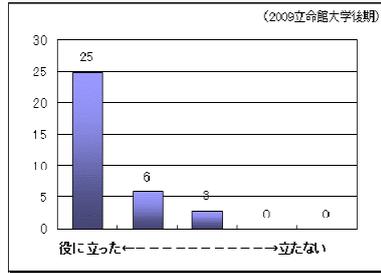
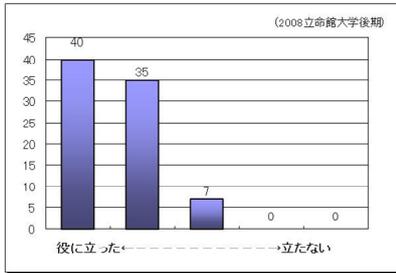


対象の学生は情報理工学系研究科、工学系研究科の学生が中心。「役に立ったか」、「将来、電子・IT業界の仕事に就きたいか」、「全体満足度」の2010年度の評点は、それぞれ4.22、4.13、4.17であり、評点4.0以上の割合は、90.74%、78.85%、90.38%となっている。東京大学では、「将来、電子・IT業界の仕事に就きたいか」の評点が年を追うごとに高まってきており、本講座がその一助となっていれば幸いである。

「特に印象に残ったテーマ」としては、「画像認識技術」「組み込みシステムとは何か」「日本社会におけるセキュリティリスクとセキュリティ対策技術」「センサネットワーク」などが多く挙げられていた。

また、JEITA 講座に対する意見・要望については、「現場の声は非常に伝わりやすい。今後も続けるべきだと思います」「一線で働いている人の話を聞けるのが面白かったです」というものや、同時に、「もっと専門的に絞った話で実際に行われているシステムについても知りたいです」、「大学院生に対してちょっと簡単すぎるというイメージを持っています」といった講義内容への要望が挙がっていた。

4.3 立命館大学



情報理工学部の複数の学科が対象。後期は1年生が対象。「役に立ったか」、「将来、電子・IT業界の仕事に就きたいか」、「全体満足度」の2010年度の評点は、4.42、4.27、4.27であり、評点4.0以上の割合は、93.75%、83.33%、89.58%となっている。

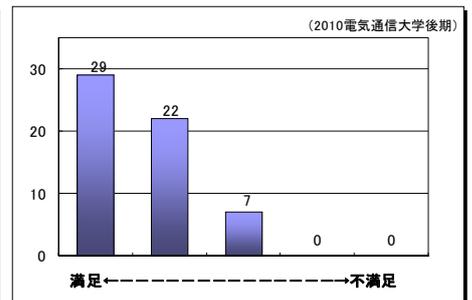
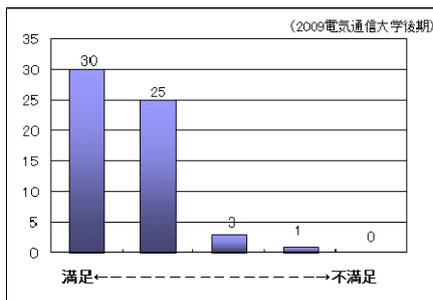
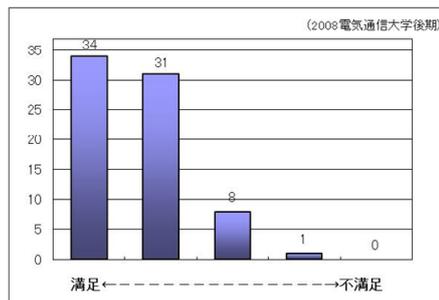
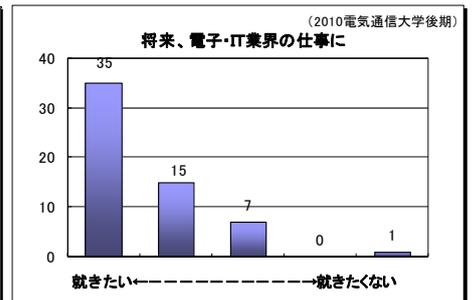
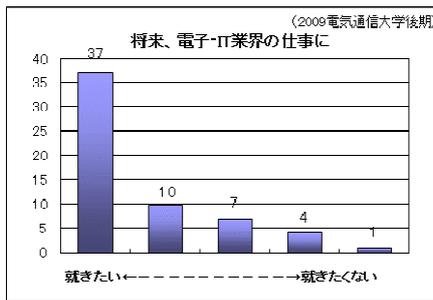
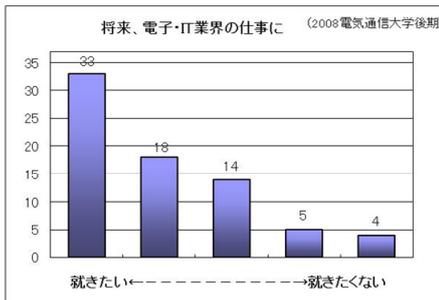
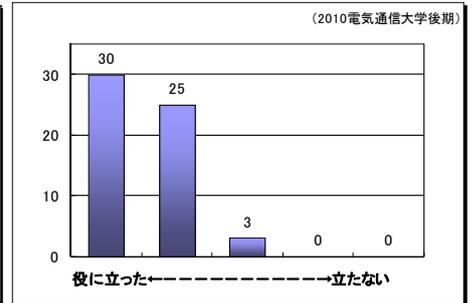
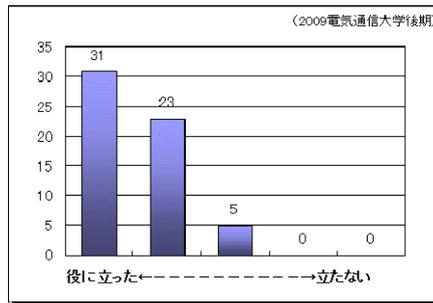
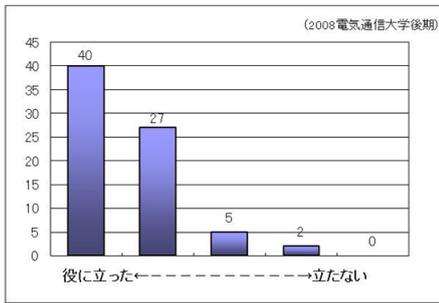
「特に印象に残ったテーマ」としては、「システムエンジニアの仕事—地球シミュレータの構築を通して—」が圧倒的に多く、その他に「ヒューマンインタフェース」「生活支援ロボット」などが多く挙げられていた。自分の興味分野および就職先として意識する企業に対して、その関連の講義を興味深いと回答する例が比較的多い。

また、JEITA 講座に対する意見・要望としては、概ね好評であったが、「普段会う事の難しい人々の話が聞けたり、質問できたりした点はうれしかった」、「企業の方の実体験を含め、様々な角度からの情報を聞いて非常に有意義でした」、「実際現場にいる人の生の声を聞き、知らない分野の講義を受けることが出来たので、とても自分の中で大きなものになりました」、など実際に現場の生の声を聞くことができ良かったとの意見が多数見受けられた。

将来、電子・IT業界の仕事に就きたいという意見が年を追う毎に高まっており、1年生向けの講義でこれからの大学生活にも影響を与えるような講座であったとの高い評価を得た。

特に本大学では、自分のキャリア養成についてのアンケートも実施しており、その中では「今回のこの講座に関しては、先輩からも薦められていたため、本当に取って良かったと今思っています。まだまだこういう講座はあると思うので、どんどん生かしていきたいと思います。」との積極的な意見が見られた。

4.4 電気通信大学



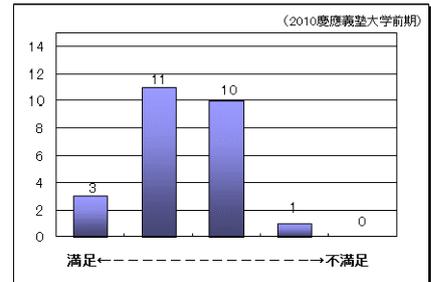
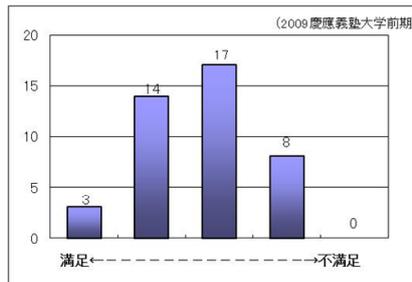
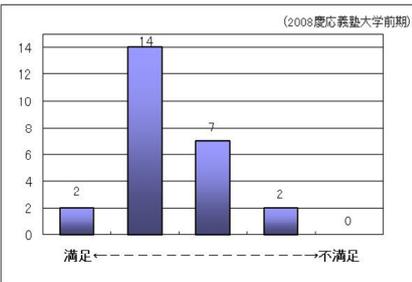
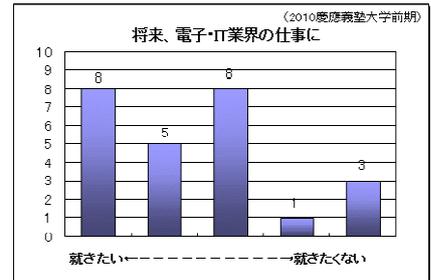
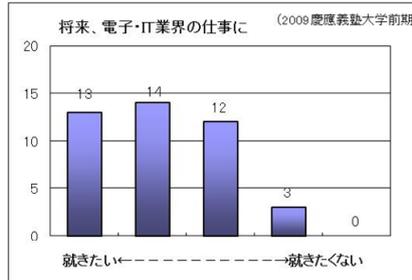
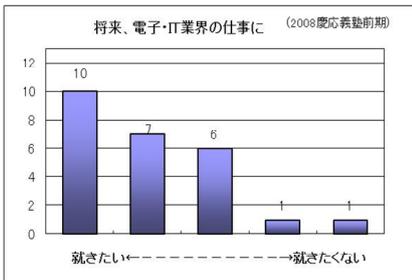
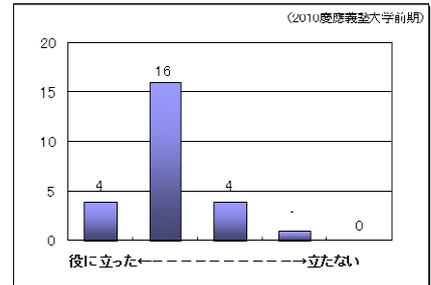
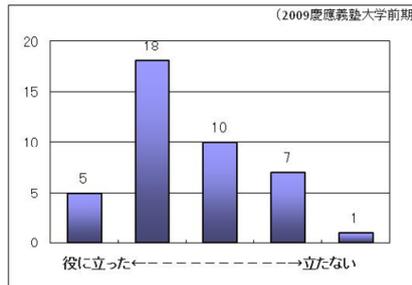
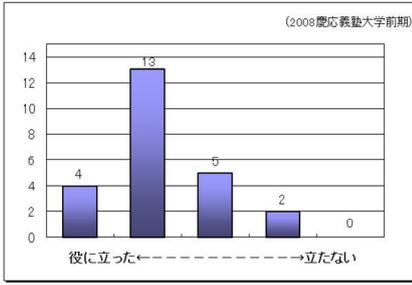
情報システム学 研究科博士課程1・2年生が中心。「役に立ったか」、「将来、電子・IT業界の仕事に就きたいか」、「全体満足度」に関する2010年度の評点は、それぞれ4.47、4.43、4.38であり、評点4.0以上の割合は、94.83%、86.21%、87.93%といずれも高い評価を得ている。特に、受講者の80%以上が「将来、電子・IT業界の仕事に就きたい」に4以上をつけていることは、本大学が情報・電気・通信の分野を中心とする研究と教育を行っていることが理由と思われる。

「特に印象に残ったテーマ」としては、「組込みシステムとは何か」「計測トレーサビリティ概論」「情報セキュリティの基盤技術」などが多く挙げられていた。

JEITA 講座に対する意見・要望としては、「実際の企業の方に来ていただいて、新たな知識を得る良い機会となったので、この講義を今後も続けて行ってほしい」という意見が多く見られた。反面、「IT最前線という名にふさわしい最新の研究テーマについての講義も聞きたい」という意見もあった。

ITや通信を専門とする大学の特徴から、本講座に対する好意的な意見が多く寄せられ、また電子・IT業界の仕事に就きたいという意向も非常に強く、学生の教育・研究活動に大きく貢献をしていることが窺える。

4.5 慶應義塾大学

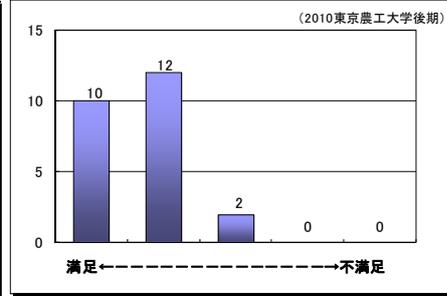
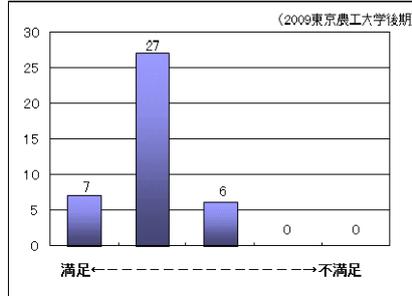
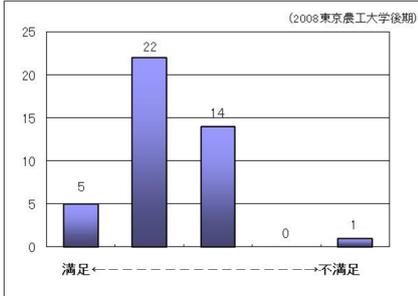
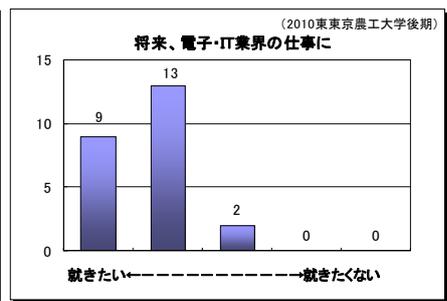
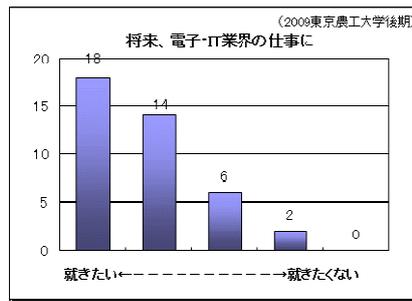
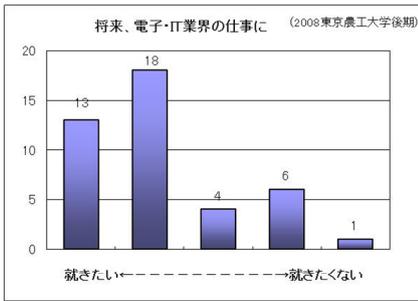
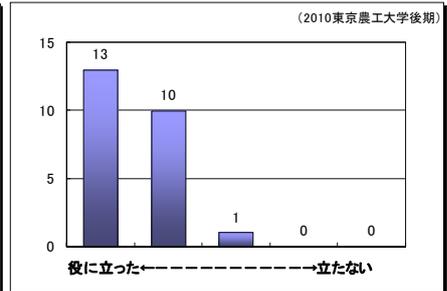
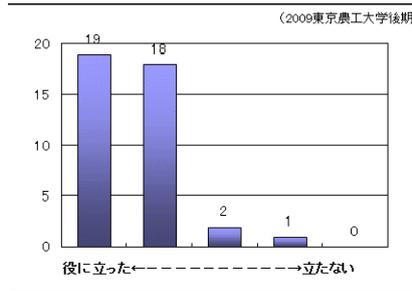
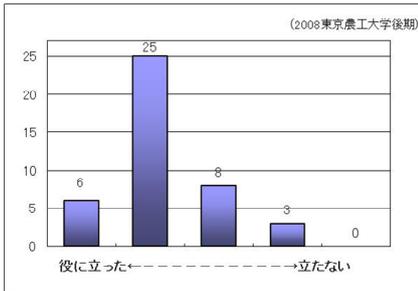


開放環境科学や総合デザイン工学を専攻する大学院博士課程の学生が対象。「役に立ったか」、「将来、電子・IT業界の仕事に就きたいか」、「全体満足度」に関する2010年度の評点は、3.92、3.56、3.64であり、評点4.0以上の割合は80%、52%、56%となっている。「将来、電子・IT業界の仕事に就きたいか」と「全体満足度」の評点が各大学の中で最も低いが、3つの項目の中では、「役に立ったか」の評点が比較的高いという特徴がある。IT系のみならず幅広い専門分野の博士課程の学生が対象であるため、必ずしも学生の専攻分野と講義内容が一致しないケースが多いが、幅広く知識を習得したいという意欲が見られ「役に立ったか」の評点が高くなったと考えられる。本大学では、留学生の割合が約40%と高く、英語による講義資料の作成を行っているが、今後英語による講義の実施が課題となっている。

「特に印象に残ったテーマ」としては、「スマートフォンの動向と拡張現実での活用」、「地上デジタル放送とワンセグ受信技術」などが挙げられた。

その他、学生より「エンターテインメント業界」「ホームネットワーク」「スマートグリッド」等について今後聞いてみたいとの希望が寄せられており、タイムリーな講義テーマを選定し、電子・IT業界の魅力を上げていく配慮が必要であると考えている。

4.6 東京農工大学



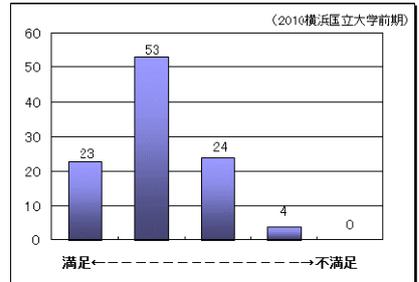
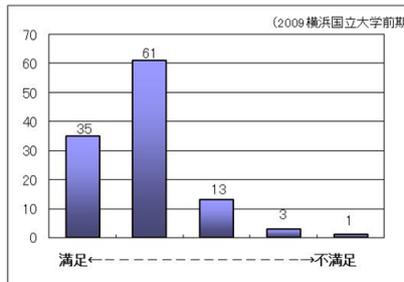
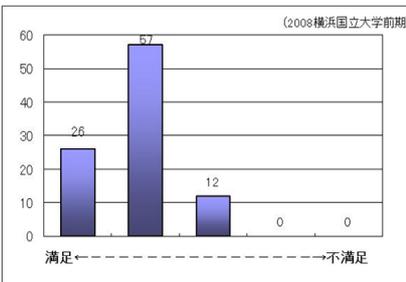
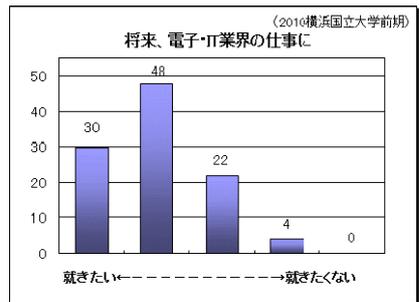
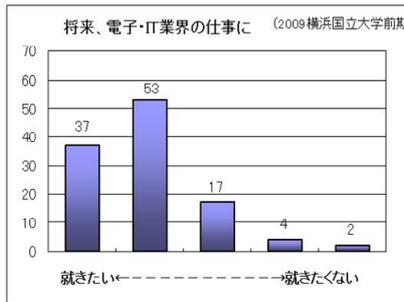
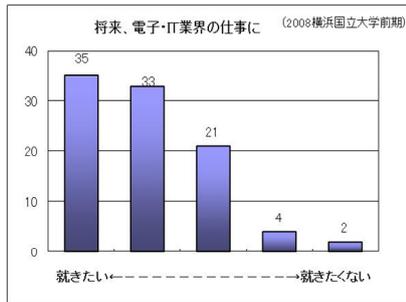
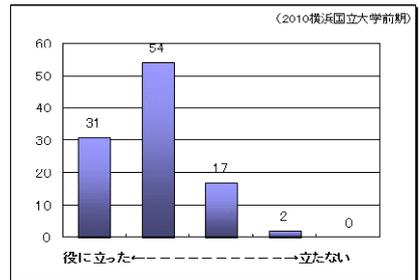
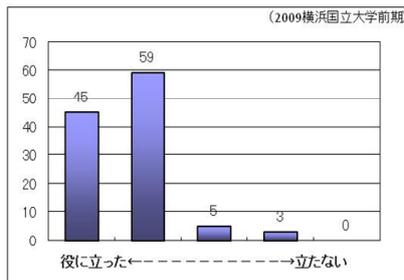
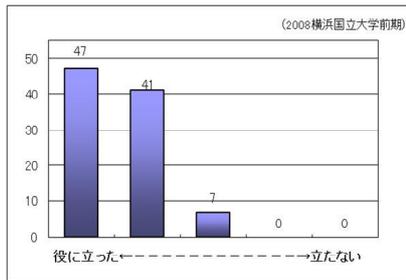
情報工学、電気電子工学、物理システム工学、機械システム工学、応用化学、生命工学と幅広い専攻の修士1年生が中心。

「役に立ったか」、「将来、電子・IT業界の仕事に就きたいか」、「全体満足度」に関する2010年度の評点は、それぞれ4.50、4.29、4.33であり、評点4.0以上の割合は、95.83%、91.67%、91.67%となっており、高い評価を得ている。

「特に印象に残ったテーマ」としては、「最新LEDプリンタ用書き込みヘッド技術」、「画像認識技術」、「バイオメトリックシステム」などが多く挙げられている。

また、JEITA 講座に対する意見としては、「ハードウェア設計における高位合成技術についてお聞きしてみたいと思います」、「医療機器を開発しているメーカーさんの話を聞いてみたいと思いました」、「自動車についての話を聞きたいです」といった意見が挙げられており、本講座への意欲がたいへん高いことが窺える。広範な講義テーマを提供できるようにすることが今後の課題である。

4.7 横浜国立大学

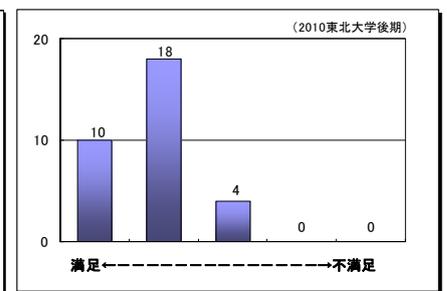
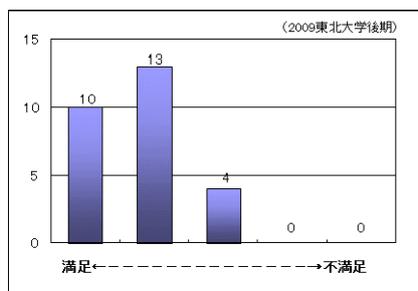
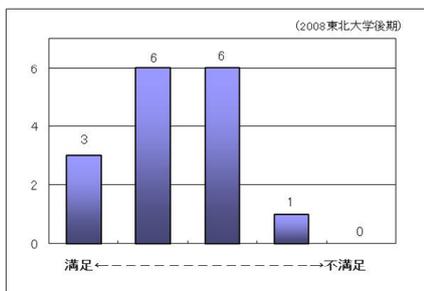
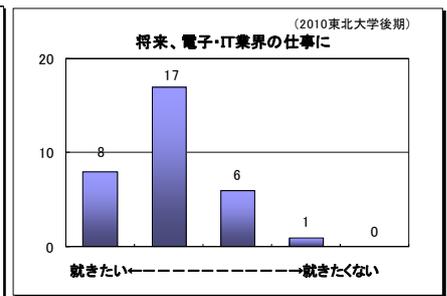
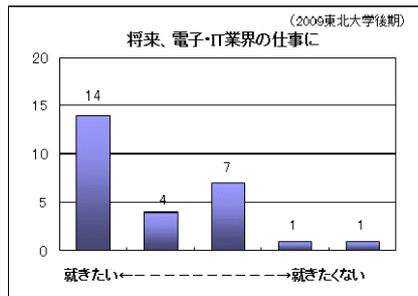
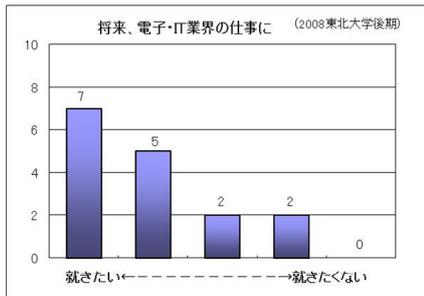
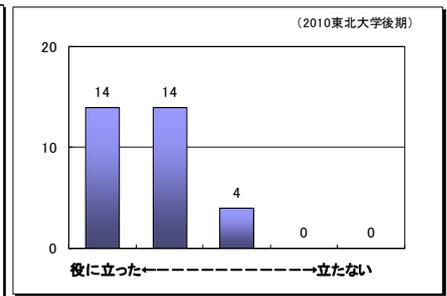
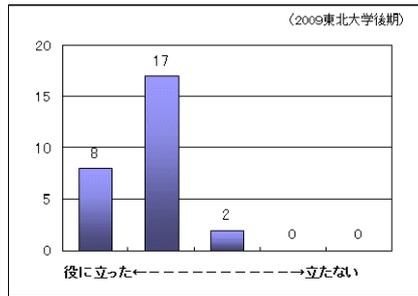
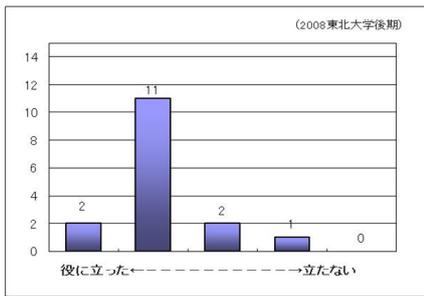


先端電子情報工学科の3年生が対象。「役に立ったか」、「将来、電子・IT業界の仕事に就きたいか」、「全体満足度」に関する2010年度の評点は、それぞれ4.10、4.00、3.91であり、評点4.0以上の割合は、81.73%、75.00%、73.08%と、全体的に高い評価を得ている。このように、本学内ではJEITA講座の人気は高く、多数の学生に聴講して頂いている。

「特に印象に残ったテーマ」としては、「ヒューマンインタフェース」、「スーパーコンピュータ」、などが多くの学生から挙げられている。

JEITA 講座に対する意見としては、「多くの企業から、実際に現場で働いている人の声を聞くことができ、貴重な機会であった」、「先端電子工学に触れられる機会はあまりないので、いい経験になった」と高評価を得ており、また、「将来の就職について考える良い機会になりました」というように、電子・IT業界に対する興味・関心を高める一因になっていることが窺える。

4.8 東北大学

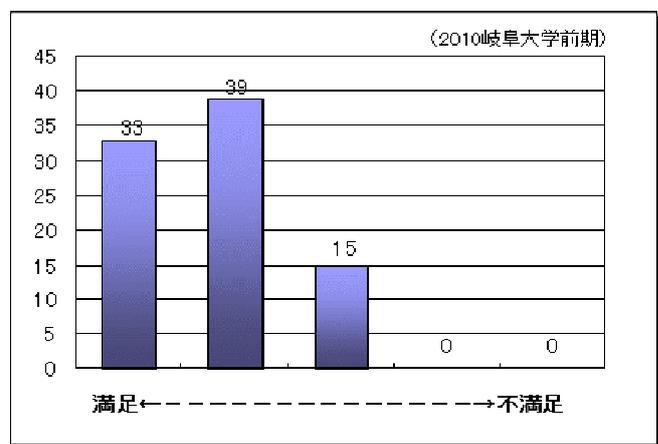
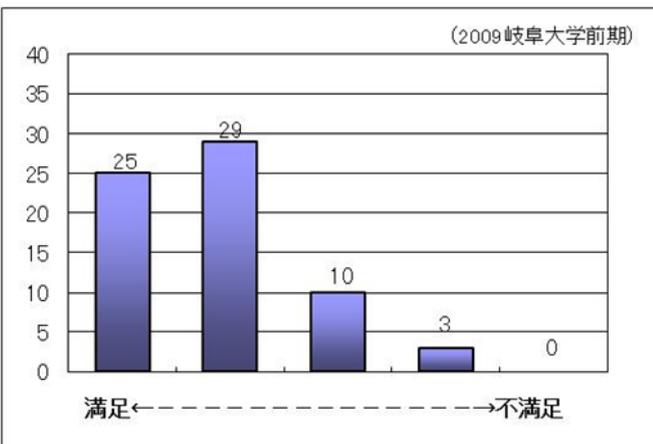
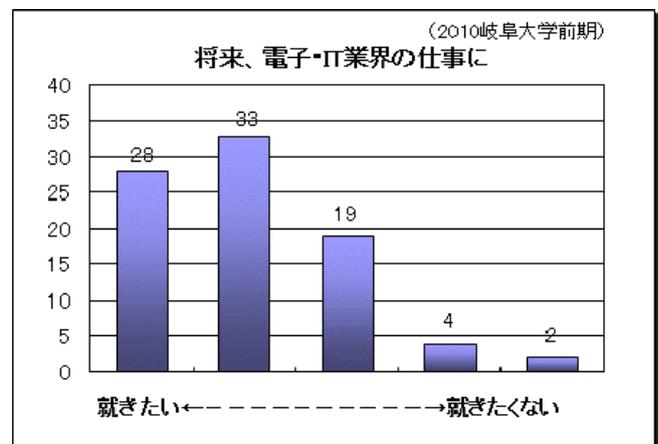
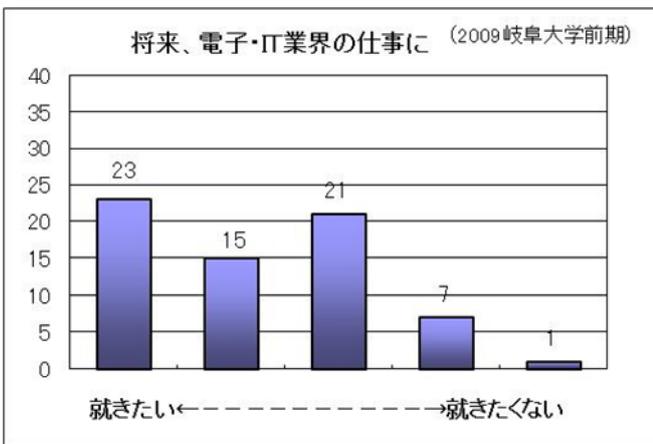
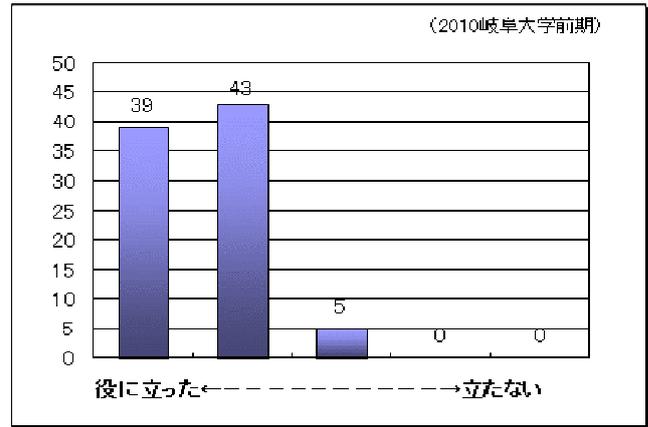
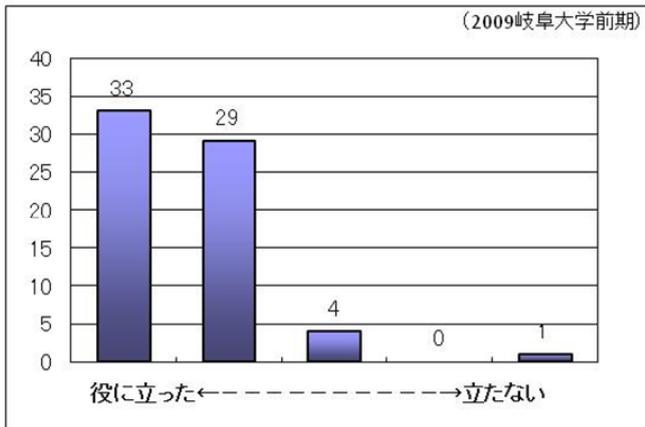


対象の学生は、ASIST（経済産業省・文部科学省「アジア人財資金構想」）参加学生、大学院修士課程の学生が中心。「役に立ったか」、「将来、電子・IT 業界の仕事に就きたいか」、「全体満足度」に関する 2010 年度の評点は、それぞれ 4.31、4.00、4.19 であり、評点 4.0 以上の割合は、87.50%、78.13%、87.50%となっている。JEITA 講座に対する評価の全体的な傾向も年を追う毎に良くなってきている。

「特に印象に残ったテーマ」としては、「IT システムのセキュリティ設計技術」「IT と地球環境」「システム開発における要件定義の重要性とモデリング技術」などが挙げられていたが、特定の講義に集中することなく、全ての開講講義に学生は興味を示していた。

また、JEITA 講座に対する意見・要望については、「普段私たちが研究している内容がどういった形で世の中に出ているのかがわかりました」といった高い評価も見られたが、一方で、「発表されている方の細かいプロジェクト内容などはそんなに興味の湧かない事が多々あったので、より企業や技術あるいは手法そのものに集中した講義の方が正直聞きやすかったです」、「研究者・技術者の方だけではなく、意志決定層の方の話を知りたい」といった要望が出された。

4.9 岐阜大学



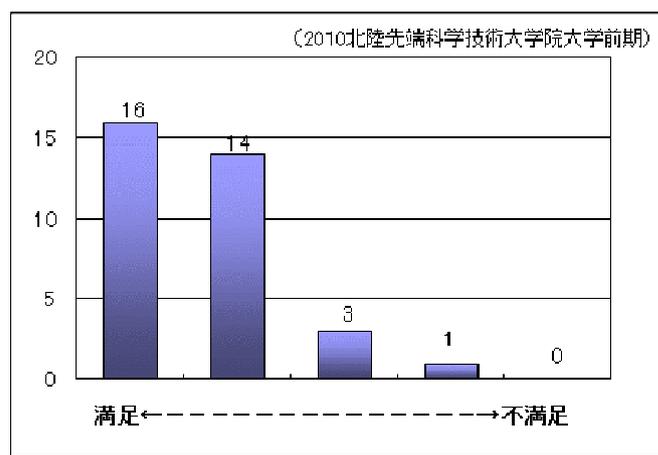
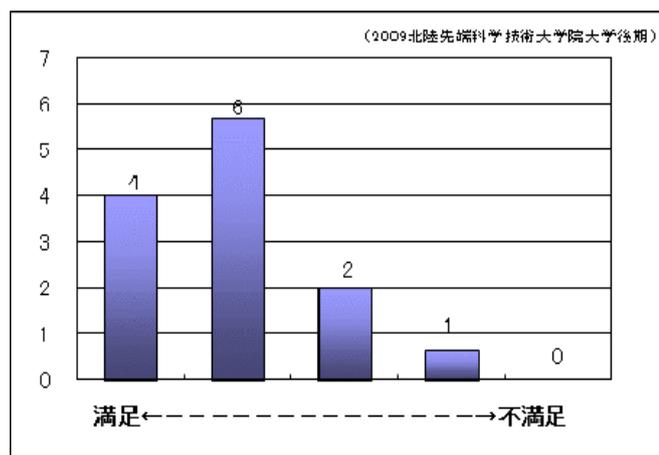
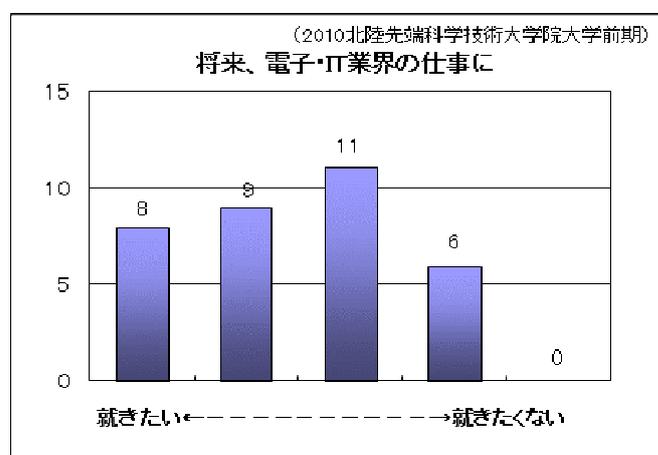
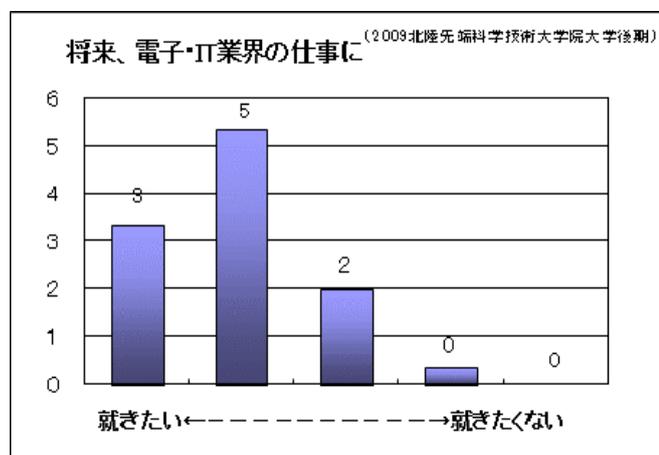
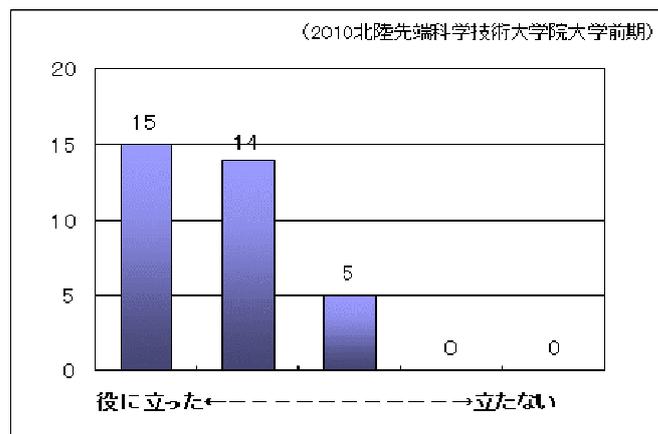
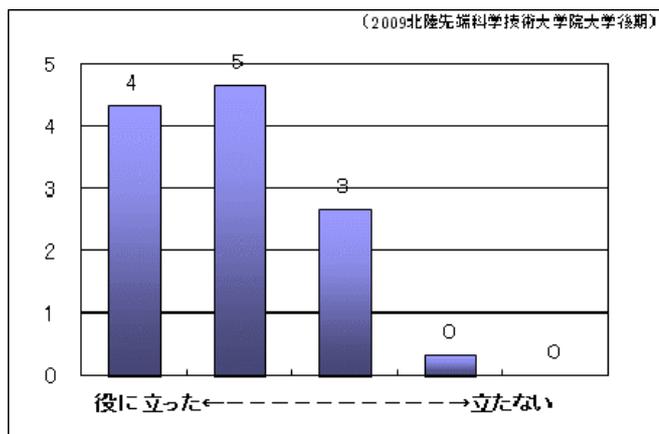
対象の学生は工学研究科の全専攻の学生。「役に立ったか」、「将来、電子・IT 業界の仕事に就きたいか」、「全体満足度」に関する 2010 年度の評点は、それぞれ 4.39、3.94、4.21 であり、評点 4.0 以上の割合は、94.25%、70.93%、82.76%となっている。「将来、電子・IT 業界の仕事に就きたいか」の評点は多少低いが、幅広い専攻分野の学生が集まっているからと思われる。前年度より改善の兆しが見えており、継続的に JEITA 講座を実施することにより、この傾向をさらに高めていきたい。

「特に印象に残ったテーマ」としては、「あなたはなぜ就職活動で失敗するのか」、「スマートフォン」等が参加型講義により人気が高く、その他「生活支援ロボット」、「電子カルテ」、「脈派センシング技術への期待」など幅広く関心を集めた。

また、JEITA 講座に対する意見・要望については、「実際に企業の方の話や研究開発についての話や情報を聞けるのは、日常ではめったにない機会なので強い関心を持って話を聞くことができました」

「大学で勉強している事が応用されて製品やシステムが作られている事を実感できた」という高い評価を得ている。本大学では、講座終了後に講師との懇談の場を設けており、学生からの現場の生の声を聞くことのできる機会として人気も高い。

4.10 北陸先端科学技術大学院大学



対象の学生は知識科学研究科、情報科学研究科、マテリアルサイエンス研究科の博士課程の学生が中心。「役に立ったか」、「将来、電子・IT 業界の仕事に就きたいか」、「全体満足度」に関する 2010 年度の評点は、それぞれ 4.29、3.56、4.32 であり、評点 4.0 以上の割合は、85.29%、50.00%、88.24% となっている。受講人数の関係もあるが、全大学中で「将来、電子・IT 業界の仕事に就きたいか」の評点が最も低いことから、当業界の魅力向上のための施策がさらに必要であると考えられる。

また、今後JEITA講座で聞きたいテーマについては、「エンジニアの方々の苦労話、経験」、「企業が学生に望むこと」、「優良企業・成長企業の見分け方」等が挙げられており、就職先の選定やキャリア形成支援の一環としてのJEITA講座に対する期待が高い。

5. 今後の課題

情報系を中心とする工学系の大学生及び大学院生を対象に開講しているJEITA講座は、関係者から非常に高い評価を頂いているが、スタートから9年が経過し、色々な課題も出てきている。担当教官、受講学生、企業講師の方々の意見も参考にして、以下では、これらの課題について概観し、対応策を検討する。

(1) 講義テーマの拡充

JEITAの情報・産業社会システム部会の中での活動であるため、企業側から提供できるテーマはIT関連が主体となっている。JEITA講座のスタート当初は、情報系の学科に所属する学生を対象にしていたが、その後実施大学が増えるにつれて、電気・電子系を中心に機械、物理、化学等の幅広い工学系学生を受け入れるような講座も出てきている。自分の専攻以外の講義を受ける意義も大きいですが、学生アンケート等でも専攻に近い分野のテーマを希望する意見があり、幅広いニーズに対応した講義の提供が期待されている。大学の担当教官には、JEITAが提供するテーマの他に、大学独自のルートで適切な講師の方々を補充して頂くこともお願いしている。今後、JEITAとしても、より広範な講義テーマを提供できるよう、JEITA講座に参加する企業の拡大等を検討していきたい。

(2) 講義の質の向上

JEITA講座の狙いは、技術そのものの内容を細かく講義することではなく、学生が大学で学んでいることが社会ではどのような形で役に立っているのかを示すこと、また、企業講師の経験から、IT業界で働くことの楽しさを伝え、学生自身の研究に対する動機付けをすることである。しかし、中には、自社の宣伝に終始したり、大学の授業で学ぶような一般的な技術の内容を淡々と講義する講師もいるため、以下に述べるような対策を検討する。

①学生に伝えるべき内容の再徹底

- ・企業の製品開発等、実社会で技術がどのように生かされるのかの例示
- ・研究者・技術者として必要な能力と日頃の研鑽の仕方
- ・研究者・技術者が研究や製品開発に取り組む姿勢、物事の見方
- ・企業における研究、製品開発、企画、マーケティング等の実際

②講義テクニックの向上

スライドによる一方的な講義だけでは、学生も眠くなりがちである。次のような対策を実施し、講師の講義テクニックを向上させる必要がある。

- ・受講生に対して効果的に質問する。

- ・実習／実演を取り入れる。
- ・製品の現物やビデオの利用

③講義間の連携

JEITA講座は、オムニバス形式で各講師が独立に講義を行うが、学生アンケートを見ると、内容が重複するケースもあるとのことである。また、現在のところ各講義には関連性がないが、もし講師間で内容の調整を行い講義間の連携が取れるようになれば、有意義であろう。企業講師が一堂に会して検討するのは難しいので、岐阜大学の速水先生ご提案（2.8 岐阜大学参照）のように、各大学のe-Learning等を活用することも考えられる。

(3) 大学のグローバル化への対応

近年、博士課程等を中心に留学生が増加している。そのため、英語による講義を行うことができれば、留学生のみならず、グローバル化への対応という観点で日本人学生にとっても有意義であろう。現在、英語による講義に対応できる人材が限られているが、各社に講師の推薦を依頼する際に、この視点も加味できるよう検討する。

(4) 統一的なテーマをもつ講座への対応

上述した「講義間の連携」とも関係するが、ある統一的なテーマをもつ講座を開講することができれば、同一のテーマについて様々な企業の状況を知ることができ、学生はより深く理解することができるであろう。現在、100近くの個別テーマを含む講義リストを大学に提出し、その中から担当教官が適切な講義を選択するという方式を採っている。そのため、統一的なテーマに関する講義の選択はある程度可能であるが、今後、大学から「統一テーマ」を提示してもらい、その分野に造詣の深い講師を別途募集するような方法も取り入れていきたいと考えている。

(5) 実施規模について

2010年度は9大学でJEITA講座を開講したが、現状では、10校程度の実施規模が適切ではないかと思っている。その理由として、各大学には各々の事情があり、JEITA事務局／JEITA講座運営WGと各大学の担当教官との密接な連携が、継続してJEITA講座を提供するために必要だからである。今後、事務手続き作業の効率化等、色々な工夫をすることで、多少とも実施大学を拡大していくことを検討したい。

6. おわりに

JEITA 講座『IT 最前線』が電子・情報分野の業界をあげた初の取り組みとして 2002 年度にスタートして、早くも 9 年が経過した。その間、東京大学、東京工業大学、東京農工大学、横浜国立大学、早稲田大学、慶応義塾大学、立命館大学、電気通信大学、東北大学、岐阜大学、北陸先端科学技術大学院大学の計 11 大学の多数の学生に対して電子・情報産業に係わる最先端の講義を行ってきた。

2010 年度の JEITA 講座の実績については、参加企業 14 社が提供する 85 テーマの講座について、東京大学、立命館大学、電気通信大学、慶応義塾大学、東京農工大学、横浜国立大学、東北大学、岐阜大学、北陸先端科学技術大学院大学の 9 大学で講座を開設した。講座の実施状況は、各章で詳細に述べられているので割愛するが、大学でも大変人気の高い講座の一つとして定着してきた感がある。さらに、講座終了後の学生アンケート結果を見てみると、「役に立ったか」という設問に対して約 9 割の受講生が 5 段階評価で 4 点以上を付け、「将来、電子・IT 業界の仕事に就きたいか」という設問に対しては、約 7 割の受講生が 5 段階評価で 4 点以上を付けるなど、JEITA 講座をスタートする際の「一人でも多くの学生に日本の電子・情報産業を理解してもらい、一人でも多くの優秀で意欲的な学生を電子・情報産業に招き入れる」という目的は確実に達成できていると自負しているところである。

今後の JEITA 講座については、電子・情報業界と大学が連携して推進する人材育成の取り組みとして更なる充実を目指していくつもりである。また、登録講座の分野、内容についても更なる充実を図るため、講座を提供する企業数の拡大も目指していく予定である。

昨今、学生達が電子・情報業界に持つイメージは実にネガティブである。曰く「きつい、帰れない、給料が安い」の“3K”に加えて、「規則が厳しい、休暇が取れない、化粧がのらない、結婚できない」の“7K”とまで言われているそうだ。ことここに至ってしまった責任は、我々電子・情報業界にも多々あると思っているが、電子・情報業界でモノ作りに従事してきた者として、学生の皆さんに伝えたい。決して「帰れない」のではなく、「楽しくて帰らない」、「帰ることも忘れてしまう」という人達も大勢いるのである。やはり、我々電子・情報業界が積極的に学生と対話をしてこなかったことが、そのようなネガティブイメージを学生に与えてしまった一つの要因になっているのではないだろうか。その意味でもこの JEITA 講座を電子・情報業界と学生の対話の場として、またモノ作りの楽しさや醍醐味、素晴らしさを学生に伝える場としてより発展させ、電子・情報業界・大学の双方にしっかりと定着させていくことが大事であり、そのためには我々運営 WG メンバーとしても努力を惜しまないつもりである。

2010年度は多くの実績をあげることができたが、これもひとえに各大学の担当教授の皆様と講師の皆様の大なる協力があったことは言うまでもない。この場を借りて、ご協力頂いた皆様に感謝の意を表したい。

JEITA 講座運営 WG 委員 一同

付録1 学生アンケート自由記述

学生アンケート自由記述

付録1 学生アンケート自由記述

1. 東京大学（各行は同一受講生のコメントを見開きで示したもの）

特に印象に残った講義と、その理由について記入ください。	今後、聞いてみたいテーマがございましたらご記入ください。
5月10日の「画像認識技術」や6月21日の「日本社会におけるセキュリティリスクとセキュリティ対策技術」が印象に残りました。「画像処理技術」については、私自身の研究でカメラによる画像処理を行っており、画像の計測手法や認識手法について知っていることもあり、分かり易く、勉強になりました。「日本社会におけるセキュリティとセキュリティ対策技術」についても普段から関心があったということでもあったとともに、本夏期に別の講義でもセキュリティ対策技術やセキュリティリスクによるプライバシーについて取り組み、考えていたこともあって、親しみやすかった。	画像認識についてもう少し、テーマを取って聞いてみたいと思いました。またロボット関係がなかったので、ロボット関連の技術やロボットの関連分野について聞いてみたいと思っていました。
画像認識技術：This lecture introduced a lot of advanced technologies, and the applications on Robotics give me many hints about how to use image recognition technology to develop a robot Who is able to handle many fine tasks.	
The most impressed lecture is about the High-speed Wireless Network. The lecture is Well-organized and the content is very interesting. This technology will be applied into real use in the near future.	① Security problem on cloud computing ② In order to be a software/IT engineer, What skills the students should learn ③ The whole process of a design and development of an IT product. ④ AI techniques
(1)「組み込みシステムとは何か？」である講義で、先生は各国の携帯を持ってきて、皆様に配れました。各国の携帯を拝見できて面白いと思います。また、中国やインドの消費感も言いました。(2)「画像認識技術」である講義にて、画像認識技術が少し理解できて、凄く良かったです。(昔この辺の知識はあまりないです)。	今後、聞いてみたいテーマとしては、まず、最新の4Gの技術LTEを聞きたいです。そして、リモートセンシング技術も聞きたいです。
一番、印象に残ったのは、センサネットワークに関する講義です。今後、IPv6によって、センサごとに個別のIPアドレスを持つことになり、データの蓄積・運用が可能になると思われ、それに伴い、多岐にわたる活用方法が考えられるため、様々な企業の考え方を聞いてみたいと常々思っていたから。	講義内容が多岐にわたっていて非常におもしろかった。私としては、大容量記憶デバイスなどの話も聞きたかった。
情報セキュリティの講義です。とくにサイドチャンネルアタックについては耳目一新しました。	グーグルのシステムについて聞きたい
次世代自動車の電源システム ・内部の構造が詳しく知れた ・自分の分野と離れていた	・大規模分散処理 ・スーパーコンピューター
「インターネットプロバイダーで活用されるIT技術とその最新動向」理由：クラウドコンピューティングなどの最新話題の話しを聞いて面白く感じました。	データマイニング
自分の研究分野である画像認識技術の講義（東芝の谷口恭弘さま）や、個人的に興味がある次世代自動車の講義（TDKの前山茂隆さま）が特に面白かった。谷口さんは現在主流となっているSIFTやSURF特徴量を用いる画像認識だけではなく、画像認識がここ20年の間にどのような研究が行われて、どのような分野に応用されてきたか、またこれからビジネスになる分野について、詳しく説明していただきまして、大変勉強になった。また、前山さんは、電気自動車の普及の壁となる本質的なところや、や各社のハイブリット車の異なる仕組みについて、面白い裏話を含めて、分かりやすく説明していただき、楽しくお聞きすることができました。	電子情報学に関するテーマだけではなく、電子情報学と密接な関係があるほか分野（バイオ系や社会交通学など）の講義を聞いてみたいと思います。
6月28日の組み込みシステムの話。講義の内容がおもしろかった。	
三菱電機の松井氏の講義が最も印象に残っています。日本で世界標準の技術を発信した方の話を聞くことができたのは非常に印象的でした。	
組み込みシステムについての講義。発表のし方がとてもよかった。	ビジネスにどうやってつなげるかについて
情報セキュリティの分野の研究をしている関係でセキュリティを扱った二つの講義は印象に残った。三菱電機の講義では、KASUMIという暗号が携帯電話に使われていることを知り、日本の技術力を感じた。日本IBMの講義は、リスクとその対策を中心とした話で、特に、技術的セキュリティ概説の話が勉強になった。どちらも密度が濃かった。その他、印象に残った講義は大規模ICTシステム開発に必要な基本知識・原理原則である。最後の日本のITC人材不測の話が情報系に進んだ身として色々考えさせられた。	ITコンサル、ITソリューションなど、企業の経営課題をITでどのように解決していくかというテーマ。マイクロソフトのwindowsの開発の話。Googleのクラウドの話。
組み込みシステムの講義でいくつもの事例を紹介しながら講義をしてくれたので面白く開けた	光通信について聞きたい
画像認識に関する講義の、動画なども見ることができ、ビジュアルで大変おもしろく聞くことができました。	オーディオ・ビジュアル製品などの身近な電子機器について話が聞ければと思います。

<p>JEITA 講座に対する意見・要望等、自由にご記入下さい。</p>
<p>他研究科の学生にも取りやすいようにしてほしいと思っています。 どの講義を取れば良いのか取得の方法や仕組みなどを分かり易くして頂ければと思います。</p>
<p>introduce more latest technologies. If possible, show some real stuff using these technologies, which can give students deeper impression.</p>
<p>① If possible, English lecture is expected, especially for international student. ② Lecture going into more details of the techniques is expected.</p>
<p>JEITA 講座は良いですが、いくつかの講義の内容は凄く詰まらないです。ほぼ大学で勉強した内容です。大学院生に対してちょっと簡単すぎるというイメージを持っています。</p>
<p>特になし</p>
<p>外部の人のお話がきけるのはとてもよい機会だと思います。</p>
<p>企業の方から、臨場感のある話が聞ける貴重な機会をいただき、感謝しています。学校内での研究だけではなく、社会的要求によるニーズや技術的な進歩状況、さらに展望が一目瞭然にわかりました。個人的には、このような授業を増やしていただきたいです。</p>
<p>実際に企業で働いている人の話を聞ける機会はなかなか無いので、良いと思う。</p>
<p>ありがとうございました。</p>
<p>アンケートを任意で集めてその回答を資料配付ページに公開したら面白いと思う。(学内ネットワークからのみなどの制限は必要になると思うが...)</p>

特に印象に残った講義と、その理由について記入ください。	今後、聞いてみたいテーマがございましたらご記入ください。
第3回画像認識技術 技術そのものに関しては、講義や論議にて、聴いていたが、どういった部分に活用されているかに関してを重点的に話されているのは初めてであり、何のための技術かということが、具体的に形あるイメージとして、作ることができた。	光関連の機器の開発の話を開いたら良いと思う。
次世代自動車 自分も核融合というエネルギー問題に携わる身で、興味があつた。 私は5月24日に行われた、高速・大容量無線通信に関する講義が最も強く印象に残っています。 理由といたしましては、学部時代の研究内容が無線通信ということもあり、講師の先生が話して下さった内容に対して、単に耳を傾けるだけではなく、しっかりと理解し、問題の提起に関しては自らも積極的に頭を働かせ自分の意見を持つといった姿勢で講義に臨むことができたからです。	なし
画像認識技術 デジカメの顔認識機能などで、画像認識技術には元々興味があり、その技術の応用の広さと面白さが記憶に強く残ったため。	日本人に限らなくてもよいので、ある分野において世界でも最も力を持つ企業の方の講義、コンピュータの分野では Intel の方がどういった考えを持ち、プロセッサからチップセット、無線通信用のモジュールの研究開発に取り組んでいるのかという講義を聞いてみたいです。
5月10日の画像認識技術の講義。 顔認識によって、PCの認証などが行えるようになっていくことに驚き、興味を持って聞くことができました。	平成16年にあつたが、オープンソースやLinuxについての講義。また、クラウドコンピューティングについても聞いてみたい。
「組み込みシステムとは何か」 内容が面白いだけではなく、発表者の方が聴衆を引きつけるような魅力を持っていたから。	ITの金融分野への応用 等
6/28 組み込みシステムとは何か？ 勉強として接することの少ない業界としての話や、講師の方の趣味の話など、聞き易い工夫のされた講義であったことが印象的。	標準化の動向（次世代DVDなど）
センサネットワーク 元から興味がありホットな話題でもあつたので現在の動向がきけてためになった。	コンピュータアーキテクチャの動向をしりたい 特にフラッシュメモリ、MRAM、RRAM、PRAMなどの不揮発性メモリについてしりたい。
6月28日講義の「組み込みシステムとは何か？」は講義の先生の熱烈な講義スタイルに引き込まれた。講義の内容も私にとって非常に興味深いものだった。	今回の講義ラインナップのように様々な分野の方の話が聴けるとよいと思います。
組み込みシステムについて講義をして下さった中村先生は説明がとてもうまく、素人の私でもおもしろく感じる事ができました。	
組み込みシステムは実際に携帯に触れたり、話に引き込んだりして面白かった。	
光ファイバの講演です。 光センシングについて全くの無知な状態で聞きましたが、わかりやすくすごく面白かったです。少し自分で勉強してみようと思いました。	音声信号処理を研究されている方の講演が聞きたいです。(NTTの方とか特に)。ただ音声信号を用いたセキュリティ技術がそこまでであるのかと言われると...
組み込みシステムの講義で、検証についての話を聞くことができ、それが印象に残っています。ソフトウェアでのデバッグ技術に興味があり、ハードウェアにもそのような技術があることがわかり、興味深かったです。	やはり流行の3D技術について聞いてみたいです。
組み込みシステム・電気自動車 自分の研究と関わりのある分野であり、普通ではわからないような話を聞けたから。	半導体関係の話 限界が近いとされるムーアの法則にどう立ち向かっていくか、など。
最も印象に残ったのは6月28日の「組み込みシステムとは何か？」です。内容が興味深かったという点もありますが、先生の講義の仕方が非常に上手く、海外の携帯電話を実際に触らせていただくなど、貴重な体験をさせていただきました。	ヒューマンインターフェースに関する話、特にデザインに関する話を聞けると良いです。 研究開発の現場でデザインというものがどのように扱われているのか、非常に興味があります。
6/28 組み込みシステムとは何か？ 講義そのものというよりは雑談が印象に残りました。 第一線で働いている人の話を聞けるのは面白いです。	
In my opinion, I think this course is very useful. I can image the trend of knowledge or technologies not only topics related to my major but also other interested field. Moreover, I think it is very helpful for me in the future in case of working or researching. I think it's very good for inviting presentators having a long experience in that field from good companies. Because I can feel their achievement and success, I seem to get energetic to do my work to acheive my goal as well.	-Experiments in Space By JAXA(Any field) -Aircraft Technologies of Japan in World War -Submarine Technologies -Sensor Technologies in Japan Military -etc.
「次世代自動車（電気自動車、ハイブリッド車、燃料電池車）の電源システム」です。 最近とても話題になってるので、印象に残りました。	日本のロボットについて聞きたいです。
「組み込みシステムとは何か？」の講義が印象に残りました。理由は、先生の講義でコミュニケーションが多く、難しい現象や抽象的な概念が上手く説明されています。講義中挙げられた例は面白く、実用的であり、講義後の生活中でも、応用できます。特に、先生が展示した携帯のコレクションは印象深いです。よい勉強になりました。又、先生の話し方と講義中の用語は私にとって一番分かりやすかったです。もし次の機会が有るならばまたこの先生の講義を受けたいです。	技術経営戦略とか、私たち技術者の学んだ知識や開発したシステムをどの様に人々の生活に結びつくかについての講義を受けたいです。

JEITA 講座に対する意見・要望等、自由にご記入下さい。
とても内容の濃いものであったと思います。
なし
東大内に限らず、他の大学でも興味深い講義が行われているなら積極的に受講してみたいなと思います。よって、講座一覧などの紹介がよりわかりやすい形で行われているとよいなと思います。
色々おいそがしい中、講義をしていただくのは、大変難しいことだと思うがぜひ続けてほしい。
特にありません。
(特に無し)
今後も企業で活躍する人の話をききたい。
非常に有意義な講座であった。企業の方たちとの触れ合いのある講義はもって多くともよいと思う。
知らない内容が多くて困ることもあったが、その分いろいろなことを知れて楽しかった。現場の声は非常に伝わりやすい。今後も続けるべきだと思います。
色々な会社の方のお話を聞くことができ、とても楽しかったです。ありがとうございました。
特にありません。1学期間、ありがとうございました。
上の内容とも重なりますが、一線で働いている人の話を聞けるのが面白かったです。
To be honest, in my opinion, I like this kind of course study. It should be continued for next students who are interest in this course.
非常によい講義だと思います。

特に印象に残った講義と、その理由について記入ください。	今後、聞いてみたいテーマがございましたらご記入ください。
<p>6月21日 日本社会におけるセキュリティリスクとセキュリティ対策技術 The examples included in the lecture make even listeners without according knowledge easy to grasp the points. And the cases from daily life are really interesting and persuasive.</p>	
<p>日本電気の中村祐一様の「組み込みシステムとは何か?」。 最も学生と距離を縮めて、親しみやすい講義でした。 おかげで内容も頭に残っています。</p>	音声認識の現状と今後の展望。
<p>5/31の次世代自動車の電源システム —EVの各種特徴を網羅してくれたのがよかった。なんとなく電気自動車というイメージしかなかった。</p>	
<p>6/21 日本社会におけるセキュリティリスクとセキュリティ対策技術(日本IBM) 実際にどのような問題があって、どのように解決していったのか、という話がセキュリティの意識づけや、守る方の大変な努力を感じるのにとても印象的でした。</p>	人工知能的なテーマがあればはきいてみたいと思います。
<p>6月28日の中村祐一さんの講義が印象に残った。 自分自身が組み込みシステムに興味があったというもあるが、中村さんの話し方がうまくてどんどん話に引き込まれた。</p>	
<p>「組み込みシステムとは何か?」の講義が一番印象に残りました。よく目している身近な製品についての話が多かったため、イメージしやすく面白かったです。少し専門的な講義を聞いてみたいと思いました。</p>	センサネットワークの中でも、特にファシリティネットワークの実際に用いられているシステムについて聞いてみたいです。
<p>This class provided so many detail that comes from experiences of the lecturers in different fields of study regarding to Information and Communication Engineering since not only basic information about each topic were provided but also about what they are doing, lecturers' career path, etc. Moreover I think some talks also inspired students to try to learn more or can guide and give the idea to the students about their future career because I think sometimes it might be difficult for students to imagine about what do they do in the real business world or what might be the future trend in the market. These are some points which I feel that this class is very useful.</p>	I would like to listen to some lectures which talk about information security in the aspect of economics as I think it is very important in this current situation where communication via the electronic network is very important and being one of the main channels. Regarding to this topic, matters about current situation on information security, problems and concern points, how they manage and solve the problems are the topic which I'm really interested. Moreover the topic related to the research and development for environment is also interesting since there are more regulation in this issues. I think as there are many effects from the use of technologies in the past and now we try to concern about this topic more than what we did in the past, more talks regarding to this topic will be very useful.
<p>いろいろ教えていただきありがとうございました。いろいろな先端技術や今の技術の状態を教えてくださいました。特に私はコンピュータビジョンを研究していますので、谷口恭弘さんからの画像認識技術の発表はとても面白いと思います。</p>	私はパターン認識が面白くおもしろいとおもいますので、今度音声分析や音声認識を教えてくださいたいと思います。
<p>私は福富秀則様(富士通ミッションクリティカルシステムズ)の講義が印象に残りました。ICT開発は現場経験が必要となってくる職業だと思っていますが、実際の講義は実際の事例を数多く紹介していただいてそのような現場経験でしか得られないものを少しでも知ることができたと思います。</p>	私はITの上流工程に興味があるので、要求工学や設計に関する話を聞いてみたいと思っています。
<p>画像認識 自分の興味のある分野に近かったこと。 具体例が多かったこと。</p>	画像・動画処理 3次元映像、etc
<p>NECの中村祐一さんの「組み込みシステムとは何か?」の講義が印象に残りました。 他国の携帯電話を手にしたのは初めてだったし、日本企業が閉鎖的なものを「ガラパゴス」とよく悪い意味で例えられるが、他国の影響をからこそ独自の長所を伸ばし、ビジネスを展開できるという話が印象的でした。</p>	SIMロックフリーや「android」の話や、またそれに対する企業や市場の動きについて聞いてみたい。
<p>Among all lectures, my most impressive lectures are image recognition technology by Toshiba and information security technology by IBM. The image recognition class had very interesting and friendly explanation with a lot of examples such as videos. On the other hand, the explanation in the information security class was easy to understand and the slide was well-organized.</p>	It will be great if there is a lecture about data mining technology, how it is used in real world business and which direction it will be developed in the future.
<p>画像認識技術に関する講義は興味深いものがあった。プレゼンテーションそのものが分かりやすく、またデモンストレーションを交えた内容であったため、実世界のどのような場面でのどのような技術が活用されているかが深く理解できた。またアプリケーションだけではなく、基盤となる基本技術の概要も併せて示されていたため、学術的に技術動向についても知ることができた。質疑応答の中においても、画像認識技術の実用化に対する困難性がどこにあるのかが具体的に述べられており、今後の参考になるものであった。</p>	生体認証技術に関するテーマに興味がある。過去のアジェンダを確認したところ、何度かこのテーマが取り上げられていたようだが、本年度の講義になかったのが残念である。生体認証技術は、画像処理技術やセンサ技術の応用例として現在広く注目されている技術の一つであり、その市場規模は益々広がっていくと思われる。学術的なテーマと産業的なテーマとが有機的に融合した好例であり、学生の興味も高いのではないかと。
	組み込みに関連して、航空機での情報処理技術の使い方や、鉄道車両、鉄道システムでの情報処理の使い方など

JEITA 講座に対する意見・要望等、自由にご記入下さい。
As a foreign student, I found many lectures standing on the point that to present Japanese views to Jpanese students. It is a good thing, however, maybe not so good sometimes. as fresh ideas from the outside usually bring more inspiration.
各専門分野の方のプロのお話が聞けて、非常に満足のいく内容でした。
質疑の時間を長くしてくれるのは良いと思います。
毎回とてもおもしろい話がきけて、すごく役にたちました。 特に、実際の企業で起こっていることが感じられるという意味でとても良い講義だと感じます。
全体観の講義もちろん興味深いですが、(4)で述べた内容のように、もっと専門的に絞った話で実際に行われているシステムについても知りたいです。
As a foreign student, I think this course is very useful to understand and gain more information about Japanese IT company and also manufacturer in this field. And also about the trend in the IT field. I think the scope of current course is good since students can receive the general idea but I think it might be good if some topics such as lecture regarding to database management or some topics in communication/telecommunication in the level which related to the department should also be provided.
この講座はとても役に立つと思います。いろいろ技術を紹介していただいてありがとうございます。今回はいろいろなパターン認識を紹介していただきたいと思います。
内容が広く浅くなっているため、もう少し分野を絞って深い話題に触れると面白いと思った。
It is very good opportunity to learn various of information technologies from experienced people. However, some lectures are still difficult to understand. I think it will be helpful if speakers cut unnecessary contents from slides to make them more concise.

2. 立命館大学（各行は同一受講生のコメントを見開きで示したもの）

本講座全体の感想をご記入下さい。	特に印象に残った講義と、その理由について記入ください。
とてもためになった。	“SEの仕事について” 自分の将来に一番近いと思ったから。
様々な企業で活躍している人の話が聞いて良かった。不鮮明だったSEの概要、ITの果たす社会での役割について話を聞くことができよかった。	NECの地球シミュレーターが特に印象に残りました。スーパーコンピュータを用いて演算を行うことで地球の未来を予測することができるということにすごく興味を持ちました。
自分の将来について、様々な道があるのだなと実感できる内容ばかりで非常に楽しかったです。	地球シミュレーターの話が、私にとって将来のイメージが非常につきやすく、非常に大白い内容なので一番印象に残りました。
分かりやすかった。 分かり易過ぎた。 もっと「意味が分からなかった」といえるような話も聞きたかった。 主にSEの仕事、役割について詳しく話が聞けました。	NECさんの地球シミュレータ。IT技術のまさに頂点だと感じた。 ソフトウェアプロ 理由：インターシップなど身近なことについて聞いて、参考になったから。
少しねむたかった。	SEについて（理解できたから）
非常に将来について、ためになったと思います。	特に印象に残った講義は日本電気の撫佐さんの「システムエンジニアの仕事—地球シミュレータの構築を通して—」です。 理由はとても講義がおもしろく、システムエンジニアについてイメージをもつことができたからです。
企業の方の話聞いたことで、自分の中で大きく就職に対する考えが変わりました。	私の中では、生活支援ロボットの話が、とても将来性を感じ日常生活はいくらでも変わることを知り、興味を持ちました。
様々な職業の人の講義を聴くことが出来、大変為になった。	ロボットに興味があったので、生活支援ロボットの講義が印象に残った。
とてもためになった。良かったと思います。 これからの人生の参考していきたいと思います。	
IT業界でもさまざまな分野の人から講義を聞いてよかった。	システムエンジニアの仕事についてで、一口にシステムエンジニアといっても色々な仕事があるのかと分かった。
企業でのリアルなお話や、グループワーク等ができて、就活でためになる経験ができたと思う。	第6回の講義。地球シミュレータの話に興味もてたから。
専門家の人が来てくれて、自分の将来について考えさせられることが多かった。 いろいろな仕事を聞いて、興味がわくものもあったので、IT業界にいくのも悪くはないと感じた。	
この講座はためになりました。基礎的な知識から専門的な知識まで、分かりやすく伝えてくれて理解しやすかった。また日常で考えていることは昔はこういうことをしていたなど、本講義には直接関係ないことまで幅広く伝えて下さり、とてもためになった。	SEについての話が一番好きです。 学生生活の道しるべや、体験談、地球環境シミュレーター、全てに興味を持つことができました。
普段合う事の難しい人々の話が聞けたり、質問できたり、した点はうれしかった。 ただ、講師には向いていないのでは？という人もちらほらいたのが残念だった。	システムエンジニアの仕事 人への伝え方が上手で、講義内容もおもしろいし、質疑応答にも特に熱心に答えて頂けたから。
社会に出なければ、分からない事などを知ることができる貴重な講座でした。	「システムエンジニアの仕事」の講座では、SEについて深く知ることができました。 また、大学生活をどのように過ごしたらいいのかなどのお話も聞いて、とても有意義でした。
どんな会社がどんな事をしているのかを知りたかったので現場を知る良い機会になりました。	活躍できるIT技術者になるには、一番共感もてた。
すごく良い経験になりました。今までよりも会社での仕事というのがどういふものなのか、知ることができました。	特に印象に残った講義は第6回、日本電気株式会社 撫佐昭裕先生の講義でした。 IT技術者の仕事について詳しく聞くことが出来て、お話もとても分かりやすかったです。
電子・IT業界でどのようにプログラムなどが作られているのか会社でどんな能力が必要なのか、よくわかった。	印象に残った講義は、「ソフトウェア・プロというキャリア」です。なぜなら、その中でプロジェクターに興味を持ちました。プロジェクターで動かしたり、書きこめたりできて、すごいと思ったからです。
プロジェクトは顧客の何が欲しいかということから始まり、試行錯誤を繰り返してそれを製品にし、市場に出すまではとても長い時間とお金がかかるということを改めて知った。だけど顧客が喜んでもらえ、世間の中に便利な物を作るということはとてもやりがいのある仕事だと思った。そういったものを造るチャンスが情報理工学部にはあるので、そのチャンスを活かしていきたい。	自分が一番印象に残った講義は第6回のシステムエンジニアの仕事です。 理由は自分は情理に入ってプログラミンが苦手で就職してもずっとプログラミンの仕事をやらないといけないのかと思ったけど、実際は違って、顧客の意見などを参考にし、新しいものを造り出す仕事もあるということがとても魅力的に思えたからです。

自分のキャリア養成についての感想をご記入ください。	今後、聞いてみたいテーマがございましたらご記入ください。	JEITA 講座に対する意見・要望等、自由にご記入下さい。
早いうちからいろいろ考えて行動することが大切だと思いました。		
まだ自分がどういうことをしたいのかがはっきりと分からなく、今回の講義を聞いてイメージを少しずつつかめてきたところです。もっと意欲的に学んで、キャリアについて、しっかり考えられるようになっていきたいというのが正直な感想です。	携帯電話の開発、通信方式など	
今の自分に求められているのが、様々な知識や、専門の基礎知識、アクティブに行動することだと感じたので、それを実行して、キャリア養成していこうと思います。	自動車関連の企業の話が聞いてみたいです	特になし。
もっと多くのことを知らないのだめだなと思った。	クラウドコンピューティング	
SE はシステムを作るだけでなく、顧客とうまくコミュニケーションして要望しなければいけない。	CG クリエイターなどの創作するような仕事。	内容が少し被っている講座があったりしたので、もう少し考慮して欲しかった。特に SE についてが少し多すぎた。
1 回生だしまだまだだと思う。	特になし	特になし。
	音響のシステム等にたずさわっている人や、車のシステムにたずさわっている人の話。	
これからの大学の講義で、情報社会で通じるようにプログラミングを上達させていきたいです。		
活躍出来るような人物になるためには、物事への取組み方が大切だと改めて感じたので、何事にも積極的に取り組んでいきたい。	自動車関連の仕事	
就職についてだけでなく今後の大学生活にも影響を与えてくれた。		
情報分野以外の知識を身につけて、さまざまな分野に対応できる技術者になりたいと感じた。	銀行で求められる情報系の人材の話。	話された方の生い立ちや学生時代に意識していた。話が一番ためになりました。
自分は甘いと感じた。大学生学を有意義にすごし、最低限の知識を身につけたい。		
SE が今のところ一番自分になってみたい職業なのではないかと思えます。	google について	特になし。
初めはコードを書いているだけでもそれなりにやっているとっていたが、やはり上級 SE 等人を使う立場になっていく方が良いと思った。	ソニー、松下、任天堂等ゲームハードを作った経験のあるメーカーによる「ゲームとインターネットの関わり方」	二回以上、同じメーカーから講師が来ていることがあるが、大丈夫か？
キャリアを築くためには、将来を見すえて「今」なにをすべきかを考えさせられました。	「本田技研のロボットについて」	
もっと知識を身につけなければいけない	様々な分野への情報系の関わり方例えば、宇宙業界へどのようにして関わるかなど。	
今までどんなところでプログラムなどがつかわれて、どのような企業が IT を使っていて、どのようにプログラムを作るなど知らないことだらけだったが、今回の講義のおかげで、多くの事を知ることができてよかったです。	普段使っている車や電車や飛行機などのシステムやゲームなど日常で使うプログラム開発について、またそのために必要な能力など	
今回様々な講義を通して今までの就職やその内容についての自分の思っていることは多々違っていることがわかり、そのために大学で学ぶことや挑戦しておかなければならないことが評しくわかったし、今までの価値観などが完全にかわった。	今 3D テレビが人気だけど、3D のメリットは実際自分がその場にいるような感じになれるということに対し、デメリットは気分が悪くなる、目が疲れる、視力の低下などがあるらしい。メリットとデメリットが釣り合わないのになぜ 3D にそこまで人気があるのかを知りたい。	

本講座全体の感想をご記入下さい。	特に印象に残った講義と、その理由について記入ください。
ためになる講義が多く、とても役に立ちました。	東芝さんの生活支援ロボットについての講義が印象に残っています。元々、生活支援ロボットや、そのシステムについて、興味があったので本当によかったです。
IT 業界における様々な分野で仕事をされている企業の方達から、参考になるお話を聞くことができて良かったです。	NEC の撫佐さんの講義が一番印象に残っています。大学生活で何をすべきかも知ることができ、考えることもできました。
他では聞けない話だと思いました。	11/3 の地球シミュレータの講義 コンピュータに詳しくなるだけが全てではないと強く感じました。
様々な企業の方々に来て下さって、今まで自分の興味がなかった分野にも興味を持つことができました。	生活支援ロボット 最近ニュースによくなっていて、身近なことなので興味があったため。
今まで職業について全く知らなかったのに、この講義によって、どのような職業があるかを聞いて良かったです。	11 月 3 日に行われた、システムエンジニアの仕事ということでの講義が印象に残りました。 なぜかという自分が知っている（耳にしたことある）職業であったこと。また具体的にこういう人もいれば、あいう人もいる、その人になるためにはこうすることが必要だと思うとはっきり言ってもらえたからです。
企業というイメージがもちやすくなった。	
全ての方がそれぞれ自身の経験談を語っていただけていたので、色々な社会における知識・能力の必要性というものを感ずることができました。	富士通（株）さんの講義はできる限り詳しく分かりやすくユニークにいただけていたので、分かりやすく理解しやすかったから印象に残りました。
企業の方の実体験を含め、様々な角度からの情報を聞いて非常に有意義でした。	東芝さんのヒューマンインタフェースの回は人付き合いの話をしていて、そういうことも必要と知れたから。
実際現場にいる人の生の声をきき、知らない分野の講義を受けることが出来たのでとても自分の中でも大きなものになりました。	「10 月 13 日の（東芝）生活支援ロボット」はとくに印象に残りました。理由は、想像の世界を実現することが出来ることに魅力がありました。
システムエンジニアという職が、どのようなものか、わからなかったが、講義のおかげで様々な分野にも IT が関わっていることがわかった。	・ SE の仕事・地球シミュレータの構築を通してー ・他の講義では、機械が動くような動画だったが、地球シミュレータということで、これからの地球の温度の変化というシミュレーションが見ることができ、どういふものを造るのか創造できたから。
すごくためになる講座でした。 受講できて良かったと思います。	システムエンジニアの仕事 どのようなことを考え、仕事を行っているかの雰囲気がつかめた。
企業からいらっしゃった現場の技術者さん達の考えやそれまでの経緯は自身のこれからを考える上で役立つ事ばかりでした。	NEC からいらっしゃった SE の方の講義が最も印象に残りました。その理由は、SE という職業の可能性などを示してくれたからです。
様々な企業の話聞いて、IT は様々な分野に活用できるということを知る良い機会となった。	EPSON 話が分かりやすく、ソフトウェアによる顧客価値創造のプロジェクター一例などすごくなるほどと思い、印象に残っており、インターンシップの話もすごく興味を持てたから。
・知らない世界に触れることができた ・授業では聞けないリアルな話に興味を持てた	・IT と地球環境⇒便利ですぐれたものを作ること、それだけが IT 産業ではないのだと思いました。まわりに目を向ける事の大きさ。
SE は本当に様々な人がいるんだと感じた。 そのうち情報技術は、数学や物理のような、理系なら誰でもあつかえるようなものになるのだろうと予測できると思った。 もう少し深い内容にも解るように踏みこんでほしい。	NEC-地球シミュレーター SE として仕事をする事のほこり、熱意、達成感などをもっていると感じた 2 人目の人だった（1 人目は筑馬大学の登さん） インターフェースで実際にインタビューをされたこと。 実体験など、勉強になるものはない。
自分が知らなかったことが知れて良かった。実際の職場がどのようなものか、また IT 技術者に必要なことなども分かった。	～生活支援ロボット～ ロボットの能力の高さに驚き、将来はどのようなのだろうと興味をもてたため。
すごく為になった。自分の将来に活かせるようにしたいと感じた。	富士通さんの講義がよかった。わかりやすい内容でイメージができた。
全体的にわかりやすく興味のもてる講座が多かったがやはり興味のあるものがないもの講義では少しつまらないさを感じてしまいました。	ヒューマンインタフェースについての話です。 元々そちらの方面に興味があったこともありおもしろい話でした。 ユーザーがどのような商品を調べ分析しそれを作り、またユーザーのほしいものを調査という流れがどれだけ大変なのかよく分かりました。
普段では聞くことの出来ない話を間近で聞け、将来図についてイメージを持つことが出来た。	第 6 回のシステムエンジニアの仕事ー地球シミュレータの構築を通して、システムエンジニアには色々な仕事をしていることを知ることが出来たからです。
有意義な時間だった	ヒューマンインタフェース 製品開発についてどのような考え方を学ぶか学んだ

自分のキャリア養成についての感想をご記入ください。	今後、聞いてみたいテーマがございましたらご記入ください。	JEITA 講座に対する意見・要望等、自由にご記入下さい。
この講義のおかげで、前より更にキャリア養成への意欲がわきました。	人工知能など	特にありません。
講義で考え直すことができました。	どんな話でも聞いてみたいです。	一回生向けにやさしくしなくても良かったと思います。どれももう少し詳しく教えてほしいかったです。
講義が始まる前は、ドキュメントばかり書くことが IT の技術者の仕事ではないと思っていたことが少し変わりました。	プログラマーの人の話	その人が具体的に何をしたのか、あるいは開発の中でどんな出来事が起こったのかということを入れてほしいかったです。
今回のこの講座に関しては、先輩からもすすめられていたため、本当に取って良かったと今思っています。まだまだこういう講座はあると思うので、どんどん生かしていきたいと思えます。	SE については人それぞれの意見があるというのを聞いたので、もっとたくさんの SE の方からの話をきいて、SE という仕事がどのようなものなのかを、もっとたくさん聞いてみたいと思いました。	
自分のキャリアについて明確な目標をもてた		
自身が高校から考えていた以上に色々なことをしておくことが一番大切であり、学生生活を楽しむための 1 つの方法ではないかというように思いました。	ラジオや TV などのオーディオ機器のスピーカーの製作などについて聴かせていただきたいです。	
まだまだ知識不足で、もっと広い視野を持つことができるので、色々な経験をしないとイケないなと思いました。	あまり視野に入っていない分野のテーマがあれば受けたい。	とても良い講座で受けずに時が過ぎていたら、限られた選択の中からのみ夢をみていたと思います。
SE と聞いて、プログラミング作りしか、イメージできなかったが、顧客と直接話をするなど、SE という分野の幅が広がった。		
情報分野の専門とした時の仕事がどのようなものになるのかの雰囲気をつかむことができた。		
1 回生の段階で考えるのは難しい事も多いと感じました。たくさんの講義を聞いて今は方向をさだめつつあります。良く悩み、聞き、質問する事ができてためになりました。	ゲームメーカーの話も聞きたいです。	
この講義を受け、自分の今まで思っていた IT の活用の仕方がせまいものだと感じ、様々な活用の仕方があるんだと知ることができ、これからの活用の仕方があるのか調べて行きたいと思う。また、英語の大切さを改めて知る事ができ、頑張ろうと思った。		
まだ見えないモノがたくさんあるので・・・。		
IT を正課で学習しつつ、副専攻で様々な教養を身につける。Lv3 応用技術者を取得した Lv4 スペシャリスト系に挑戦したい。	セキュリティメインの開発者の話。	
基礎的な知識が必要だと思った (専門外を含めて)	IT 屋の労働環境	今後も新しい可能性発見の為、講座を開いていってください。
IT 分野のみをみかいてもダメなことが、今回の連携講座で分かったので、さまざまな分野における知識をつけていきたいと思った。		今後も続けてほしい
将来のことではっきりとしたビジョンがないけれど、考えるよい機会になった。		
多くの方が言われていたように大学の内にキャリアをいかに養成するかが重要だと思いました。プログラミング・英語の能力、コミュニケーション力、興上心等を上手に身につけていきたいと思えます。	ネットセキュリ等の話も聞いてみたいです。	良い講座をありがとうございます。今後の目標立てや自分のしたいこと目処が立ちました。今後とも頑張ってください。
システムエンジニアとは、プログラムの設計者と思っていなかったが、色々なことをしている役職だとイメージが変わりました。	今まで来ていただいた方々は、上級システムエンジニアの人が多かったため、下級システムエンジニアの方々の仕事について聞いてみたいです。	画像、動画があることにより、講義の内容がとても分かりやすかったです。
予定を立て、実行して行こうと思う。	開発環境の作成について	

本講座全体の感想をご記入下さい。	特に印象に残った講義と、その理由について記入ください。
様々な分野、様々な観点から IT 業界に触れてよかった。	第 5 回ヒューマンインタフェースです。ユーザの要求を知るためにはどのようにアンケート調査をしなければいけないかを実際やって、意志を伝える大変さ、意志を読み取る大変さを知りました。
結構深いところの話をしていただき、よく知ることが出来た。	富士通さんの講義はとてもおもしろくて興味がわいた。
はじめて知ることも多くあり、為になりました。	ヒューマンインタフェースのアンケート/インタフェースの開発が身近に感じました。
全体的に資料が少し古かったと思う。最新のものがもっと多かったらもっと良かったと思う。	特になし

自分のキャリア養成についての感想をご記入ください。	今後、聞いてみたいテーマがございましたらご記入ください。	JEITA 講座に対する意見・要望等、自由にご記入下さい。
実際に社会で働いている人の話を聞いて、自分の中のイメージとは違う部分も多くあった。また、勉強以外にもどのようなスキルが必要かわかった。	特になし 自動車のテーマがあったので良かった。	特になし。
今まで知らなかったことを知ることができて、つきたい仕事のはばがふえた。	IT を利用した車関係のことを聞きたい	ありがとうございました。
将来の指針となったと感じています。 とてもためになりました。	TOYOTA などの自動車メーカーの人の話	
これからどのようにすれば良いのか、ある程度見えるようになった	特になし	特になし。

3. 電気通信大学（各行は同一受講生のコメントを見開きで示したもの）

特に印象に残った講義と、その理由について記入ください。	今後、聞いてみたいテーマがございましたらご記入ください。
TDKさんのハイブリッド自動車の話が分かりやすく良かった。 横河電機さんの話も具体的な事例とかが面白かったです。	Googleさんのお話
日本ユニシス 研究と関連していた	ARとかヒューマンインタフェース
情報セキュリティ。 理由は自分がセキュリティに関係しているのもあり理解しやすかった。	ユーザインタフェースの最先端の研究について話をききたい
沖電気さんの「対話によるユーザの真のニーズを見える化する「ラダリング型検索サービス」がとても印象深かった。	携帯電話などヒット分野の話を聞いてみたい。
「組込みシステムとは何か」講義時間があっというまに過ぎてしまった。	ユーザインタフェースの話が聞きたい
組込みシステムについての講義が印象に残りました。 現在の情報機器にはほとんど搭載されていることを知り、今後も組込みの技術発展がIT・エレクトロニクス分野の発展にはかかせないものだ実感しました	・トラフィック制御方式 ・各社の環境問題対策 ・面白いコンテンツを提供するまでの過程
2月8日の「デジタル情報家電の基盤技術」の講義が印象に残った。 講義内容もさることながら講演者の方が非常に楽しそうに話されていたのが好印象だった。	
次世代自動車 自動車が好きで将来に自動車産業に就職したいので講義中で一番興味を持っていた	宇宙関連のテーマを聞いてみたい。
組み込みシステムの話はおもしろかったです。 色々な話が聞けてためになりました	クラウド関係についてもっとたくさん聞いてみたいです。
次世代自動車動向と電源システム。 将来、絶対に主流になるであろう電気自動車の電源について、実際に作っているTDKさんから話が聞けたから。社会全体の問題である環境保全にもつながってくるため興味深い。	通信インフラ系、家電メーカー
次世代自動車に関する講義 今まで一くりに考えていたハイブリッド自動車もいくつか種類があることがわかり面白くなったと思ったのと、それらの自動車の普及の為の課題などについて技術的な所も含めて理解することができたので、聞いていてよかったです。	
組み込みシステムとは何か？ 制限があることによって逆に、有用性や能力が発生することがある良い例を教えてください、とても感心した。	
NECの組み込みシステム iphoneやAndroidとからめて、わかりやすかった。	
デジタル情報家電の基盤技術 Androidの話題があったため。	スマートフォンについて
「デジタル情報家電の基盤技術」個人的に興味のある内容だったので。	NGN、スマートグリッド
「ラダリング型検索サービス」 自身の希望している研究テーマに近く、対話のための言語オントロジの構築の難しさを知り、自身はどのようなアプローチをとるべきかということを考え直す良い機会となりました。	企業独自のアイデアによる、WEBサービスの紹介など。
反復型ソフトウェア開発プロセス 自分の研究に関係しているから	
「ITパラダイムシフトとITアーキテクトの役割」 自身の研究テーマと近く、大変勉強になった。	企業のソフトウェア開発の実情についてさらに興味を持ちました。(ソフトウェアの研究をしているが、実務経験がないため)
沖電気工業さんのラダリング型検索エンジンの内容が研究室のテーマと似ていて印象に残った。	
組込みシステム：話の内容が面白かった為 ITアーキテクト：アーキテクトの重要性や技術者としての視点についてなど今後参考にできそうな内容でした。 地球環境を守る、ハイブリッド車	
「次世代PC動向」(NEC)、「デジタル情報家電の基盤技術」(船井電機)身近な事柄からその応用技術まで、幅広い視野を持った講義内容だった。	いわゆる「重厚長大産業」(重工業など)のシステム分野
組込みシステムとは何か？の講義が印象に残った。 理由は、内容もさることながら、講義のやりかたが学生のきょうみをもつようにくふうされており、最初から最後まで面白く聞けたから	
第15回デジタル情報家電の基盤技術 とてもフランクな話口で大変興味を持って聞くことができた。	知的財産権関係

JEITA 講座に対する意見・要望等、自由にご記入下さい。
これからも続けてください。
面白いのは面白い
とてもいい講義でした。ぜひ続けてください。
各回の講義とも最新の技術概要・取組を扱っていたので、とても勉強できました。ただ、講義のみであったので、実習などを取り入れると体感できるので、その点が要望です。
今後もっと色々な分野の方の講義が聞きたいです 実際に企業の方に来て頂けて貴重な話を聞けてよかったと思いました。
今後も各企業さんに協力いただき、続けてもらいたいです。
大変面白い講座でした。WEB 動画があったのも良かった。
大変勉強になりました。こういう授業が増えてほしいと感じました。
毎回刺激のある講義でした。
半年間にわたり、非常にためになる講義をしていただき、ありがとうございました。

特に印象に残った講義と、その理由について記入ください。	今後、聞いてみたいテーマがございましたらご記入ください。
11月16日のセイコーエプソン（株）様の講義。 環境問題への取り組みという制約の多いプロジェクトの中で、いかに工夫したかなど、現場に居た方だからこそのお話が聞けてワクワクした。 経済性だけを追求するとひどければ軽視されがちな分野で積極的に活動され、経済的な面でも成果を出されているところに感動した。	具体的な組み込みシステム開発における課題やその解決策など、Android、iphone などに関連した実際の開発におけるエピソードなど。
TISの講義 私自身、現在クラウドに興味を持っていたため、大変おもしろかったです	
第8回の情報セキュリティの基盤技術 公開鍵と秘密鍵の転換することに興味を持っています。 この前はセキュリティの重要せいだけ知っています。	なし
セキュリティ。特に12/21の暗号の話。 自分が研究しているから	とくになし
計測トレーサビリティ概論はITの分野で少し離れている内容だが、標準化などの重要さを興味深いエピソードをふまえて説明していただき、分かり易かった。	大規模ネットワークを支える技術
IBM, 船井	ネットワークについて、CPUなどチップ間や、光ファイバや無線通信など
12/14の「組み込みシステムとは何か？」が一番印象的であった。プレゼンターの話し方が面白く引きこまれた。	技術についてのものが多かったが、ビジネスモデルの話とかお金の流れ、世の中の仕組みについての講義があれば面白いと思う
計測トレーサビリティ概論	
9回目の組み込みシステムという講義をとて印象に残りました。 先生の話し方がとてもおもしろくて、わかりやすいためです。	「制御システム」に関する内容を聞いてみたいと思います。
とくになし	cluster、mainframe、Android Platform について聞いてみたいです。
①情報セキュリティの基礎技術 暗号技術の最新動向—こんなに身近になった暗号— 理由は私の専門は暗号の方向ですから、興味があります。 ②次世代PC動向 理由は私は次世代PC大好きです。	携帯電話の通信安全の方向を聞いてみたいです。そのあと、IMの安全とonline GAMEのパスワードの安全
次世代PC動向という講義は特に印象に残りました。講義で扱う分野や内容に興味がありました	P2P技術
「組み込みシステムとは何か？」 自分の研究にかんけいしているから、とても印象に残った。	Data Miningと光通信
1月18日ITアーキテクトの講義、普通の絵にもアキテクチャーがあるなんて、思わなかった。	
「計測トレーサビリティ概論」です。 この講義では、播話集を用意していただき、大変たのしかったです。 播話集の内容に通じて、私は講義を理解しやすくなったと思います。	情報セキュリティに興味を持っています。
計測トレーサビリティ概論に特に印象がありました。 新しい分野です。この前ぜんぜ 知らません。	なし
デジタル情報家電の基礎技術＝合同輪講の時読んだ論文と関連しているから	もっと Web Application についての話を聞きたいんです。
12月14日の NEC の講義が印象に残った。 理由として、参加型の講義を行っており、話し手の一方通行な講義ではなく、分かりやすかった。また、多少の雑談を入れることで楽しく聞けた。	セイコーエプソン、TDKなどのグリーンIT・産業
組み込みシステムとは何か データの提示とともに分かりやすいように実物を見せたのがよかった。	無線をテーマにしたもの
第9回組み込みシステムとは何か？ 1つのテーマだけではなく、日本の高品質思考の問題点などを分かり易く講義してくれたから。	仮想化技術について
最も印象に残った講義は第12回日本アイ・ピー・エム（株）の山下さんのお話である。 アーキテクチャについて、その設計の良し悪しによってその後の機能の拡張等に影響を及ぼすというのが今まで知らなかった知識だったからである。	コンピュータウイルスをテーマにした講義を聞いてみたい。
NEC パーソナルプロダクツ。 プレゼン能力が他の人と比べ段違いにうまかった。 組み込みシステムの話がおもしろかったです。	無線通信
特に印象に残った講義は第13回目の「デジタル情報家電の基盤技術」である。夢を持つことは大切だと知った。	他業種の人の話を聞いてみたい

JEITA 講座に対する意見・要望等、自由にご記入下さい。
とても満足だと思っています。意見がなし。
とくになし
調べれば分かるようなことでなく、企業独自の工夫などをもっと多く聞きたい。 最前線の授業なので、NECのように、NHKのビデオ程度のもを流すのはやめてもらいたい。
IT 最前線という名にふさわしい講義を行ってほしいと思った。
お忙しい中、電気通信大学まで足を運んで頂きありがとうございました。 特にありません
特になし
全部の講座は強いですけど、意見がなし。今日本で留学生は多くなりました。でもこの講座、全部は日本語です。英語の資料があるのに、外国人もこの講座を聞いてみたいです。以上です。
今後は P2P 技術について最新動向の講座をお願いします
とてもおもしろかった。いろいろ勉強になりました。
とても勉強になりました。
学生として、将来就職する業界をもって理解したいと思っています。 JEITA 講座に通じて、様々な業界情報を取って、自分の成長に大変助けます。ありがとうございます。
なし
質問を1人1回義務づけるともっと質疑応答で議論になると思います。
なし
メーカー系の人からしか話が聞けなかったのが残念だった。IT 技術を使っている側の方面からの話を聞きたかった。
新たな知識を得る良い機会となったので、この講義を今後も続けてほしい。
企業の最近の研究テーマについてもっと聞きたいです。 特になし。

4. 慶應義塾大学（各行は同一受講生のコメントを見開きで示したもの）

特に印象に残った講義と、その理由について記入ください。	今後、聞いてみたいテーマがございましたらご記入ください。
6/21、7/5の携帯電話に関する講義が印象に残った。理由は、専門外ながら携帯という身近なデバイスに関する話で単純に興味深かった。また、これからの社会システムがどうなるかについても一番しゃべっていた分野だと思う。	ホームネットワークなどで、異なるデバイス間で共調動作するような話を聞きたい。ホームネットワークに限定しませんが、多種多様なデバイス間（できればベンダーフリーで）で協力してすごい事をする、といった事に関する内容があれば聞きたいです。
6/21 スマートフォンの動向と拡張現実での活用 iPhoneなど現在一般に普及しているデバイスを元にした講演だった為、研究の現状と今後の展望が理解しやすかった。	
日本電気の方、話し方が良かった。話題が面白かった	光関係
Content of some presentations are too weak, very small technical contribution especially. The lecture from Fujitsu.	Smart Grid, Green technology.
地上デジタル放送とワンセグ放送 標準化の苦勞を踏まえた実用化の現状を知ることができた	
ワンセグ通信についての講義 今後の通信に関して興味深いことが聞けました。	ロボット工学に関する事
スマートフォンの動向 携帯電話は実生活に深く関わっていきながら、つかっていない機種に関してはあまり知見がないので参考になった。	
最も印象に残ったのは地球シミュレータに関する講義 その理由は、自分の研究に関する情報が講義中に出てきた事と自分の研究に関する新しい知識が何点か手に入ったから。	
6月21日の講義 話がわかりやすかった。	脳科学
地球シミュレータ 天気予報より精度が高いと知ったから	ロボット制御
高速・大容量無線通信 無線技術の原理と動向が分かりやすくとまっていた	パワーエレクトロニクス、3次元キヨリセンサ、小型電動機、の話。
地球シミュレータに関する講義で、実は気象庁の予報よりも地球シミュレータの計算結果の方が正確であるという話が印象に残りました。	制御、ロボティクス、機械システム等の研究開発について。
学位請求時期とかぶったため6/21の回のみでしたが、実用的な話を聞けて良かった。	
特になし 専門分野ではないので、印象に残りにくかったです。	産業界から求められている新規のデバイスや性能などについて。 例えば磁性の電圧制御が高性能になることで、メモリの読み取りが向上するとか。 ネットワーク関係については素人なので、もう少し初等的なイントロダクションがあると分かりやすいです。
日本電気(株) 6月7日 身近な内容であり、問題点と解決策が明確でわかりやすかった。	特に思いつきません
画像認識技術 説明に動画が多く、実感がわきやすかった為、印象に残った。	エンターテインメント業界
6/21 地上デジタル放送とワンセグ受信技術 自らの研究テーマに近い ただし、講義後OFDMについての質問が出たことから、OFDMについての基礎知識が少ない者にとっては難しい講義であったと思います。	衛星通信技術、ミリ波モジュール技術についての講義を聞いてみたいと思います。
NEC、ワンセグ技術： 実際の仕事内容、現場での話が聞けて非常に参考になった。	ストレージ技術関係
	P-01、P-02分野の医療応用。
6/7 高速・大容量無線通信 理由：講義がとてもスムーズじゃなかった印象があります。	Multi View 動画の最新動向
High throughput and high capacity wireless communication system. Because of very related to my field.	More lecture with enough speaking is necessary.
	微小デバイス（工学デバイス・MEMS）等の作成手法、その効率的利用方法に関して興味があります。

JEITA 講座に対する意見・要望等、自由にご記入下さい。
英語ではなく日本語の講座が多く、ある意味会社の実情（英語がそれほどしゃべれなくてもやっていける？）が分かるような気もしますが、できれば英語で聞きたかった。（勉強のため）
(3) に上げた講演に限らず、具体的で明瞭に解説されていて理解しやすかった。
とくに無し
他分野の紹介の場合、専門的な話を聞いても分からないので、概要説明にとどめてほしい。
研究開発において戦術的な内容ではなく、もっと戦略的な広い視点での内容を聞いてみたいと思います。
詳細な技術ではなく、実用的な所を知りたい。
専門外なので、用語がわからず内容がみえないことがある。
あらかじめ、発表資料等を受講生にわたしておくことができれば、予習も可能になり、より講座への理解を深めることができます。
各社のご協力に心から感謝いたします
Most of thing are good. No.5 so much to tell.

5. 東京農工大学（各行は同一受講生のコメントを見開きで示したもの）

特に印象に残った講義と、その理由について記入ください。	今後、聞いてみたいテーマがございましたらご記入ください。
<p>最新 LED プリンタ用書き込みヘッド技術（沖デジタルイメージング）</p> <p>私自身が材料系の学生であり、本講座の中では唯一材料技術に関する内容が含まれていたため、興味深く聴講することができた。電気電子、情報系というソフトウェア的なアプローチがよくとられるが、ハードウェアの材料技術的なアプローチについても聴くことができたのは新鮮でよかった。</p>	<p>(3) の理由より、電子情報を支える材料技術について。例えば、光ファイバーなどのインフラ系、半導体プロセス、端末のパッケージング技術、製造技術など</p>
<p>2010年12月8日の講義 他の講義でも身近なテーマのものがいくつもありましたが、この回のテーマは「携帯電話」についてということで興味を持ちやすく、また、説明内容も分かりやすかったので、印象に残っています。</p>	<p>市場が注目している分野の最新技術についての話を聞いてみたいです。 最近でしたら、3Dに関連したテーマの講義を聞いてみたいです。</p>
<p>画像認識技術の講義が印象に残りました。これは、自分の研究に関係した内容とさらに詳しい内容が紹介されおり、特に内容に興味を持っていたからです。また、企業がどの様な画像処理に取り組んでいるのか知らなかったの、紹介される一つ一つが面白かったです。 講師の先生の話すテンポが良く、声の大きさも丁度良かったので楽しく受講できました。実験結果を動画で見せて頂いたので、視覚的に捉えられ、分かり易かったのも理由の一つです。</p>	<p>ディスプレイやプロジェクター等の映像表示技術に関するテーマ 音響機器に関するテーマ 医療機器に関するテーマ</p>
<p>とくに印象に残った講義はスーパーコンピュータ入門です。スーパーコンピュータと名前は知っていたが、定義については知らなかったし、時代とともに定義が変わっていることにとっても驚いたからです。また、スーパーコンピュータは、処理速度を上げるために、処理時間を早くしているだけかと思っていたが、並列処理を行うことによって、処理量を増やしていることのほうが多いと知って驚いた。</p>	<p>今後は、携帯電話がどのようにして情報をやりとりしているかの細かい話が聞いてみたいです。</p>
<p>1月19日「画像認識技術」画像認識の例を分かりやすく説明していただいたのが良かったから。</p>	<p>メカトロ、制御、機械に関連するテーマ</p>
<p>『スーパーコンピュータ入門』日本電気（株） 日本電気のスーパーコンピュータについてだけではなく、他社や各研究施設のスーパーコンピュータについての説明もあったのが良かった。また、講義も堅苦しくなく聞いたのがよかった。</p>	
<p>「画像認識技術」（株）東芝 1月19日 画像認識という分野は知っていたが、そこにどのような技術が用いられているか知らなかった。この講義ではエラーの種類など専門用語についても解説して頂いたのでとても勉強になった。</p>	<p>最新の技術について講義して頂くことが多かったが、その他に今後その技術がどのように進歩し、どのような応用可能性があるのかを重点的に教えて頂きたいです。</p>
<p>地上デジタル放送とワンセグ受信技術の講義を聞いて、地上デジタル放送の方式やデジタル放送の利点などが説明されておりとても興味深かったです。また、ワンセグ放送を行うに当たっての携帯電話キャリアなどとの放送と通信との考え方のギャップなどの話などは同じ無線を使うものなのにこうも違う物だということを知って利害関係などが絡むやっかいごとなどがわかりとても印象深かったです。</p>	<p>NFC(Felica) 技術等の新しい携帯電話の技術に関するエピソードなどを聞きたいです。また、新しいデジタル暗号化技術などの先端技術などの講義を聞いてみたかったです。</p>
<p>1月19日の画像認識技術の講義が非常に印象に残りました。私は画像認識について研究しているため、企業での研究の様子をお聞きすることが出来、非常に参考になりました。また、画像認識においては演算処理が非常に重いという話も共感するところがあり印象に残りました。</p>	<p>ハードウェア設計における高位合成技術についてお聞きしてみたいと思います。</p>
<p>バイオメトリックシステムの講義です。理由としては、電気電子の技術で我々のプライバシーを守ることに使われていたと思うと、感慨深いものを感じたからです。</p>	<p>医療機器を開発しているメーカーさんの話を聞いてみたいと思いました。</p>
<p>テーマ「最新 LED プリンタ用書き込みヘッド技術」 自分の研究にも関係があり、説明がうまくわかりやすかったため。</p>	<p>テレビ・パソコン関係 3D テレビ関係</p>
<p>地上デジタル放送とワンセグ受信技術 2011年7月に地上デジタル放送へ完全移行されることもあり、タイムリーなテーマであり良かった。 そのテーマに対して技術的な視点で講義をしていただけたので良かった。</p>	<p>スピーカやイヤホンについての音質の評価方法や評価基準について</p>

JEITA 講座に対する意見・要望等、自由にご記入下さい。

毎回、実際に会社でものづくりに携わっている一線の技術者から直接的な話を聞くことができ、とてもためになった。特に、アカデミックな研究者としかコミュニケーションの機会が少ない学生の立場としては、社会人として、技術者として、先輩として大変頼りになる講師の先生方で、毎回意欲的に受講することができた。大学で受ける講義としては大変新鮮であり、このような試みが大学院講座だけでなく、学部基礎教育から広く行われると、技術者養成の観点からよいのではないかと思った。

水曜日五限から別の時間帯に移動してほしい。
(学内の就職説明会などの行事と重なることが多いため。)

専門性の高い言葉が急に出てくることが多いので、多少解説が欲しいです。

普通の講義では聞くことのできない話がたくさん聞けたのでよかった。

講義のテーマが、全体的に情報 (IT) 寄りに偏っている気がするので、電気に関するテーマをもっと扱って欲しい。

水曜 5 限という時間は就職説明会等の学科行事と時間が重なることが多いので、他の時間に開講して頂きたいです。

とくにありません。

先端技術を研究・開発されている企業の方々のお話をお聞き出来る非常に有意義な講義だと思います。我々修士 1 年にとっては今まさに就職活動の時期であります。そのような時期に、志望している業界の話をお聞かせいただいたことで、業界研究が進んだと思います。これからもこのような機会を提供していただければと思います。

授業の進み方が早いと感じたので、一つのテーマを二回に分けてやったほうが良いのではないかと感じました。

通信関係の内容の講義が多かったが、電気電子工学専攻の学生が大半を占めているので、電気電子により関係ある内容の講義が増えるといいと思う。

HP にて講義資料を配布していただけたので復習が行いやすかった。

特に印象に残った講義と、その理由について記入ください。	今後、聞いてみたいテーマがございましたらご記入ください。
<p>最新 LED プリントヘッド技術です。理由は、携帯電話におけるマルチメディアとセンシング技術の講義が印象に残っています。いつも日ごろから使っている携帯電話についてのお話だったので飽きずに講義を聞けました。講義も構成がちゃんとしていてとてもよかったです。</p>	<p>自動車についての話を聞きたいです。いま自動車はハイブリット自動車、電気自動車、燃料自動車など電気分野の技術が大きく関わっています。自動車と電気の技術の関わりあい、またこれから自動車モデルについてとても興味があります。</p>
<p>IT と地球環境－持続可能な社会の実現に向けて－近年注目されている IT 技術と環境問題に関する内容だったので興味深かった。 国内企業各社の環境に向けた取り組みの比較も興味深かった。 IT とは関係のないように見える、漁業、農業へで IT 化の話も興味深かった。</p>	<p>ロボット技術について</p>
<p>12/1 最新 LED プリント用書き込みヘッド技術（沖デジタルイメージング 企画部 執行役員企画部長 中村幸夫様） 実際に製品になっているプリンタヘッドを見せていただいたり、実際に触れることができたのですごく興味をもって話を聞くことができました。</p>	<p>ソフトを実際に発売して、その商品の著作権をいかにして守っていくのか？そのための部署で働く人の話を実際に聞いてみたい</p>
<p>・スーパーコンピュータ入門 自分の研究テーマに近いこともあり、とても興味深い話でした。年々、性能向上のスピードが速くなるスーパーコンピュータ業界で、いつかまた日本のスーパーコンピュータが首位に立つ日がくると良いな思、さらに、自分も首位になる上でひとりの技術者として協力がしたいと、日々の研究のモチベーションがより高くなりました。</p>	<p>昨年講義では、衛星通信の話などがあったそうなので、今年も聞いてみたかったです。 また、電気電子工学専攻の学生が多かったので、IT などの話もおもしろいのですが、プロセスやデバイスといった関係の話が来てたらよかったですなと思いました。</p>
<p>スーパーコンピュータ入門。 私自身、研究でスーパーコンピュータを使用しており、パソコンと何が違うから、大量の情報を高速に処理できるのか、講義を受ける前は大変気になりました。講義を受けて、少しではあるが、スーパーコンピュータの事を知ることができ、また今、直面している課題があることも分かった有意義な講義になりました。</p>	<p>携帯電話が次世代に移行するにあたって、何ができるかなどが聞いてみたいと思いました。</p>
<p>音声認識に関するテーマで卒業研究を行っていました。その経験から、東芝様の音声認識に関する講義が非常に興味深かったです。特に興味深かったのは、音声認識に対してユーザの求める認識精度は非常に高く、95%の認識率で使える度80%であるのに対して、90%の認識率では使える度が30%にまで落ちてしまいます。この事実を受けて、音声認識を普及させることが如何に難しいことか、再認識させられました。</p>	<p>人と共存するロボットについて興味があります。是非、そういった分野の最先端の研究について聞きたいです。</p>
<p>最新 LED プリント用書き込みヘッド技術についての講義です。理由は、私は、就職先として事務機器を扱うメーカーも考えています。今回の講義で動作原理や業界の現状などを知れて、非常に良かったと思います。</p>	
<p>「インターネットプロバイダーで活用される IT 技術とその最新動向」が興味深かった。特に IPv4 の枯渇と IPv6 への対応が、IANA のアドレス在庫終了もあって特に印象に残っている。</p>	
<p>インターネットプロバイダで活用される IT 技術とその最新動向が最も印象に残りました。自分の学科でよく聞く話だったため、興味が持てたことが一番大きいと思います。</p>	<p>アナログ放送とデジタル放送のように身近な技術についての話を聞いてみたい。</p>
<p>講義を通じて、ICT の持つポテンシャルを認識することができた。そして企業は、自身の持つ強みを活かして環境問題に取り組むことが出来ると感じた。私はこれからどの会社に入り、どんな仕事をするかはわからないが、その会社で出来ること、そして自分の出来ることを通じて、環境負荷の改善・環境貢献の向上を図っていきたいと感じた。</p>	<p>有機エレクトロニクス、3D 技術など</p>
<p>「スーパーコンピュータ入門」 自分が研究でシミュレーションをしていることもあり、スパコンの構造や有用性が分かり、ためになった。</p>	<p>自動車業界における IT・電子技術の必要性について</p>

JEITA 講座に対する意見・要望等、自由にご記入下さい。
公開できる範囲で、最新技術をたくさん知りたい。
授業の参加人数をみて、もうすこし狭い部屋で授業をしてほしい
通常の大学の講義では学ぶことの出来ない最先端の話や大学とは異なる企業としての研究の話を知ることができてよかったです。この講義は、企業研究の一つとして、就職活動としても大変役に立ちました。そのため、本講義は博士後期課程の講義として開講されていますが、是非とも学部うちに開講していただき、より早く社会で働くイメージをつかめればよかったですと思いました。
最新の技術を知ることが出来る重要な機会ではありましたが、その技術がどう活かされるのか不明なものもみられたので、用途なども折り返して教えて頂きたいと思いました。
企業の方々の貴重なお話を伺うことができ、非常に有意義な経験を積むことができました。
水曜日の5限という時間帯は、学内の就職説明会と時間が重複してしまうことが多かったため、違う時間帯が望ましいと感じた。
いろいろな会社の講師から役に立つ話を聞くことができた機会でした。

6. 横浜国立大学（各行は同一受講生のコメントを見開きで示したもの）

特に印象に残った講義と、その理由について記入ください。	今後、聞いてみたいテーマがございましたらご記入ください。
ヒューマンインターフェース 体験実習などを取り入れた構成でわかりやすかったから。	電力会社系統の企業がテーマのお話
スパコンの話でランキングの上位にのることと、計算能力が必ずしも一致しないという話があったことです。	
スーパーコンピュータの講義が印象に残った。 事業仕分けの対象になったことから	
ヒューマンインターフェースの講義 生徒参加型の授業だったから。	クラウドコンピューティングについて詳しく聞きたい
電気自動車の講義 今注目されている話題の一つだし、前から興味があったから。	・ゲーム機についてや、ゲームソフトの開発事情 ・医療工学
実習しながらの講義をして下さったヒューマンインターフェースの講義がとても印象に残っています。	クラウドコンピューティングについて、深く聞いてみたいです。
スーパーコンピュータ入門 スーパーコンピュータは単純に大規模にしたPCという印象であったが、この講義を聞いて、スーパーコンピュータならではの高速化（SIMDやメモリバス容量）があることを知り、またスーパーコンピュータの応用と重用性を知ることができた。	ビュアな情報処理研究分野や、WebやDBを利用したサービスの分野。
・スーパーコンピュータについて 今まで知らなかったことが多かった。特に、世間で発表されている順位が実際にアプリケーションをのせたときに必ずしもその通りの性能を表すとは限らないというのは驚きだった。	・電子、ITに関する講義とはいえ、電子情報工学科なのだから電力とか、電気機器等に関連したテーマを聞いてみたいと思う。
・「次世代ネットワーク（NGN）の動向とNGNにより広がるユビキタス情報社会」 理由 NGNが確立されることによって可能になること（家電同士をネットワーク接続することなど）が多岐に渡ることやより私たちの生活が快適になるのではないかとこのことを考えさせられたから。	情報系の方は全く関係がなくなってしまうのかもしれないが、「電気機器」や「電力工学」に関するテーマの話を知りたいと思う。
ヒューマンインターフェース。 機械的なことだけでなく、人間味を感じることができたから スライドだけでなく実習があったから	
ヒューマンインターフェースの講義。実際にヒューマンインターフェースを体験したから。	横浜国立大学で実際研究されている最新技術について。
コンタクトセンター最新動向。 このような種類の分野がこの講義で聞けるとは思わなかったため。	
「スーパーコンピュータ入門」 内容のことは言うまでもなくすばらしかったが、何と言っても講師の演説力があって、人を引きつけてやまない話し方は良いプレゼンの手本になると感じた。	スペースシャトルなど宇宙航空関係の話 JAXAS、NASAなどのOBがいたらうれしいです。
ヒューマンインターフェース 他とふんいきがちがった。	ソフトウェアに関する内容がふえてほしい
ヒューマンインターフェース。 自分が興味がある分野だったから 実習があっておもしろかった	
プログラム解析技術概説と応用。 もともとプログラム言語に興味があったことに加え、解析手順などの説明とスライドがとても分かりやすかったため。	人工知能に関する研究や応用事例。（情報系に偏ってしまって申し訳ないですが...）
ヒューマンインターフェースについての講義で、インターフェイスということで人と人とのコミュニケーションについて考えることが自分の中では意外であって楽しいという意味で印象に残った講義であった。	
講義だけでなく映像や対話などを取り入れたものは聞いていて面白かった。	技術の他にプロジェクト・マネジメントの分野について
コンタクトセンターの最新技術について、感情分析や素晴らしい（目新しい）テーマが興味深く、今後の学習につながったから。	多様なデータに対する集約技術を、様々な業界についていかに用いられているかを聞いてみたい。
スーパーコンピュータの授業です。現在日本のスーパーコンピュータがどのような地位にあり、どのような性能を持っているか以前から興味があったからです。	現在研究中であれば、量子コンピュータに関する授業などがあれば聞いてみたいです。
個人的に印象に残ったのは、福井さんの「ヒューマンインターフェース」についてのお話でした。 他の方の電子情報工学の専門的な内容とは異なり、インタビューや自己紹介など、コミュニケーションの内容で、実習を通して自分がいかにそのようなスキルに欠けていたかがわかりましたし、本当にためになる講義でした。	特にありません。
ヒューマンインターフェースの講義で、他の講義が講師の話聞くだけだったのに対し、この講義は実習を含めた参加型の内容で、初めて講義に参加しているような気がしたので。	宇宙開発もの。

JEITA 講座に対する意見・要望等、自由にご記入下さい。
自分は5限まで授業があり、いつもこの授業は時間がオーバーして、5限はいつも遅刻していたので、時間はきっちり守って欲しい
この講義と JEITA が何か関係してるのでしょうか。
特になし
特にないです。むしろこういった授業を行ってくると、最近の工学事情が分かるのでありがたいです。
特にございません。
大学ではあまり触れられないようなお話も聞けて、とてもためになりました。
・多くの企業から、実際に現場で働いている人の声を聞くことができ、貴重な機会であった。
たくさんの方々の企業の方々に来ていただいて貴重な話を聞かせてもらい、とても有意義な講義だったと思う。
最先端の技術にふれる機会になったのでよかった。
先端電子工学に触れられる機会はあまりないので、いい経験になった。
専門的な内容を専ら話すのも良いが、講義はやはり聞き手の理解できるようにすることが大切だと思います。
もう少し、しゃべることが上手い講師を呼んでほしい
電情システム、情報コースのどちらの人にも役立つようなテーマが多くて良かった。
特にありません。
テーマが多岐にわたっており、内容も充実したものであったと思うが、もう少しデモンストレーションを増やしてほしかった。

特に印象に残った講義と、その理由について記入ください。	今後、聞いてみたいテーマがございましたらご記入ください。
<p>ヒューマンインターフェース 実際に経験させる講義はなかったので印象的でした。また、その結果に対しての発表をさせた部分で緊張感があったので。</p> <p>生活支援ロボットの講義の参考動画が面白かった。</p>	人工知能について
<p>最後の講義... 実習があったので。 ロボットの講義... 複数の命令を把握して順に実行していくのがすごかったため。 スーパーコンピュータ... 個々の性能に結局並列化がトレンドになってしまった事が残念だったから。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 量子コンピュータ、量子暗号 仮想空間への意識の投影技術 人工知能のブレイクスルー議論
<p>生活支援ロボット デモ映像などがたくさんあって、とても分かり易かったから。</p>	ソフトウェア系のテーマがもう少しあったらなと思います。
<p>ヒューマンインタフェースの講義が特に印象に残りました。2人1組でインタビューやアンケートを実施したこともおもしろかったですし、話がすごく上手だったと思います。内容も非常に興味深く、よかったです。</p>	特にないです
<p>5月17日「情報通信技術が切り拓く金融ビジネスモデル」富士通榎田村雅靖さんです。 クラウド化、ITインフラが今後の社会の基盤になると思うから。</p>	下請け、孫請けや世界的な産業構造について聞いてみたいです。
<p>ロボットに関する講義は具体的で分かりやすくおもしろかった。 LEDに関する講義も少し興味をもてた。</p>	超電導についてなど。
<p>実習のあったヒューマンインタフェースの講義</p>	医療 ICT について
<p>ヒューマンインターフェース。 対話型の講義だったため、新鮮だった。</p>	生体認証システムについてのテーマ
<p>次世代ネットワーク (NGN) により広がるユビキタス情報社会の講義について、特に興味を持ちました。 将来の便利で安全な様々なものが繋がったネットワークについて知ることができ、未来を知ることができたような感じで印象に残りました。また、情報よりの内容で特に興味深かったです。</p>	情報と医療が融合した分野について、聞いてみたいです。
<p>「プログラム解析技術概説と応用」 今までこのような技術があること自体知らなかったが、講義を受けて、有用な技術であると思ったから。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 医療 ICT 画像処理
<p>スーパーコンピュータ入門 スーパーコンピュータの構造や動作原理など、普段の授業では学べないような内容のことを詳しく説明して頂いてとてもためになった。</p>	リニアモーターカーの技術・現状について 太陽光発電について
<p>初回のロボットの講義が良かった。映像・画像を用いて興味をひかせ、そこまで専門的なことは話されなかったため、何を言っているのか分からない、ということがなかったため。</p>	特には思いつかないのでいいです。
<p>ヒューマンインターフェースについての講義 実習が多くて、寝ている人もたたき起こす（先生も使ってしまう）ような講義だったから。</p>	
<p>ヒューマンインターフェイス 実習が伴っていて、他の講義とは違った印象だった。</p>	3D 技術について
<p>高速・大容量無線通信:無線通信での性能(通信速度、通信容量)が日々進化していること、そしてその技術発展の原理について。</p>	半導体デバイスを中心としたテーマ
<p>・生活支援ロボット ロボットというとドラえもんというイメージが自分の中ではあり、果たしてドラえもんのようなロボットは実現できるのかという疑問があった。人と常に一緒にいるロボットを作るには技術面もそうだが、安全面で大きな問題があるということが分かり、ドラえもんのようなロボットは近い将来では実現しないと感じた。</p>	ゲーム開発
<p>次世代ネットワーク (NGN) の動向を NGN により広がるユビキタス情報社会。近未来っぽいかんじで面白い題材で、PVなどをみせてくれたので、わかりやすく伝わった。ただ、それを実現するには仲間をふやすことが大切。(他メーカーでも共通のシステムを使えるようにすることで汎用性に富む製品をつくる。)</p>	プログラム系のものももっと聞きたかった。
<p>もともとスーパーコンピュータについて興味があったので7月12日の講義のスーパーコンピュータ入門がとても印象に残った。</p>	特になし
<p>ヒューマンインターフェース... 講師が独特</p>	
<p>6/7のLEDプリンタ用書込みヘッドの講義が、聴いていてとても興味深かったです。 個人的に好きな分野の内容、ということもありますが、映像を使った説明もわかりやすく、とても有意義な90分間でした。</p>	音響設備などの研究について興味があるので、そのようなテーマなどがあってもいいかと思います。

JEITA 講座に対する意見・要望等、自由にご記入下さい。
講義を聞いてすぐ理解できることはそんなに多くなかったけれど、色々な会社の方から様々なジャンルの話を聞くことができ、就職や興味などの糸口になったと思う。
特になし
毎回別の方がそれぞれの見てきた世界に基づいた価値観で話をされて興味深かった。 一般には公開されない裏事情等もためになった。
たいへん有意義な講義でした。ありがとうございました。
すごく興味深い講義をいくつも受けることができたので、大変満足でした。ありがとうございました。
このアンケート形式では、講義が4ヵ月に渡っているため回答しづらかったです。
色々な業界の最前線で活躍されている方の貴重なお話を聴くことができ、大変勉強になりました。
自分の専門や、そうでない分野から色々な講義があって新鮮だった。
普段接する機会のない方々との交流を通して、幅広い分野の話を聴くことができ、興味を持つきっかけになった。
毎回の授業で様々な分野の先端技術について学ぶことができ、とても勉強になりました。 将来の就職について考える良い機会になりました。
特にありません
講義の形式のいいと思います。レポートが1つのテーマのみというのは、他の講義との兼ね合いも考えると助かりますし、いくつかのテーマの中から自分が専門にしたい分野を見付けるという点でもいいと思います。そういう意味では、逆に、興味がわからない講義もあったので、毎回の出席の紙で、興味を持ったことを書かせるのはどうかと思いました。
電子情報システムコースの内容が中心のテーマよりも情報コースの内容が中心のテーマの方が大きく感じた。半々くらいにしてもらう、もしくはコースごとに講義を分けてもらえると良いと思った。
話し方がねむくなるような人が多かった気がする。 情報系とシステム系を
特になし
十数回の講義を全て受けさせていただきましたが、毎回の90分間があっという間で、それぞれの講義で少しずつ自分の考え方や価値観、知識が増しました。 学生たちには間違いなくよい刺激になるので、これからも是非続けてほしいと思います。

特に印象に残った講義と、その理由について記入ください。	今後、聞いてみたいテーマがございましたらご記入ください。
プリンタヘッド用のLEDの講義 市場にもまだ出回っていないような本当の「最先端」の技術だったのでとても興味がわいた。 スパコンの講義 話し方がとても分かりやすかった。	電子・ITからもう少し拡がったテーマを聞いてみたい。 あくまで工学の分野内で、例えば航空・宇宙系など。
一番最初の生活支援ロボットの講義です。理由は一番最初だったこと。デモムービーで人間が何か言ったら「水戸黄門？」と聞き返したことが面白かったことの2つです。それと、電気自動車の講義も印象に残りました。「若者に求めるのは、困難にもくじけない強い心」等熱い言葉がとてもすばらしかったです。	「ゲームやマンガ」など電情に人気のある分野についてできるならききたいです。
電気自動車の講義について 自分は電気自動車について興味が有り、詳しい内容を聞くことができ、さらに興味が湧いたから。	最先端の医療技術について。 電子情報工学の技術が医療にどのように使われているのか。
「光ファイバセンシングの原理と応用」足立正二さんの講義が個人的には印象深かったです。元々光工学の分野には興味があり、光ファイバをセンサとして使うという技術は非常に魅力的で画期的な応用技術のように感じられたからです。また足立さんの講演もわかりやすく、なおのこと聞いていて面白い講義だと思いました。	光通信に関する分野、ナノエレクトロニクスに関する分野についての講演をもっと聴きたいと思いました。 また電子情報の分野からは多少それますが、個人的には航空工学やフォーミュラ・カー設計などの機械工学についての講演なども聴いてみたいです。
・暗号技術 ・センサー技術 興味を持てる内容だったので。	
次世代ネットワーク（NGN）について。 特に講義の最後に見た日立の考える未来予想が衝撃的だった。1つのデバイスを導入することであらゆる場面に利用できる幅の広さは今まで見たことがなく魅力的だった。	テレビ放送をアナログ→デジタルに変換したように、過去——だった技術が今では～～になりました、という流れがある事柄。または、発展が予想される技術。
高速・大容量無線通信の講義が特に印象に残った。この分野には以前から興味があり、今日企業でどのような研究、開発が行われているのか知ることができて、よりこの分野について興味が深まった。	パソコンのCPUやマザーボードについて、どのような研究や開発が行われているのか興味があるので、その分野についても聞いてみたいと思った。
「コンタクトセンター最新技術動向」 コンタクトセンターに最新技術が使われていることを知らなかったため、とても印象に残った。	自動車や電車、飛行機に用いられる制御系の技術
光ファイバと次世代ネットワークについての講義がとても興味深かった。 光ファイバについてインターネットなどのデータ伝送だけでなく、光ファイバをはりめぐらせることによって神経網のようにつかうことができるということを聞いたときは驚いた。また次世代ネットワークについて、現代の技術動向などの最新の情報を実際の現場の方々にとっても感心をもつことができた。	光ネットワークによって光記録デバイスの最新研究状況、本当に実現可能なのかなどを現場で研究している方々に聞いてみたい。
・コンタクトセンターとプログラム解析技術 一聞き慣れない内容だったのでとても新鮮だった	・ブレインマシンインターフェース ・知的財産
7/12に行われたスーパーコンピュータの講義が印象に残った。事業仕分けで話題になったスーパーコンピュータのことを知れたからである。	パワーエレクトロニクス、光工学、情報、通信など非常に多くの範囲をカバーしていたと思う。それらに加えて聞きたいと思うのは電力関係の話であろう。（最後の講義でスマートグリッドのことをやりました。すみません）
特に印象に残った講義はヒューマンインターフェイスの講義で、その理由は、実際にアンケートをとると言う体験型の講義だったからです。	ロボットに関することを聞きたい。
一番最初のロボットの講義。興味があつたせいもあるかもしれないが、ロボットが動いている動画をはっきりと思い出することができるから。	通信系の話がやや多いので磁気工学などの話があつても良かったのでは。
NGNに関する講義は印象に残った。 イノベーションを一番感じた。	無線での電力伝送について聞いてみたい
やはり、自分がやってみたい（興味があつた分野）分野であるセキュリティ・暗号技術の講義は印象に残っている。 また、私たちの先輩が講義してくださった、ヒューマンインターフェースも印象深かった。他の講義とは違い、実習・演習を取り入れてくださったので、とても有意義であつたと思う。	ゲームやアプリケーションなどの開発の方の話を知りたい。最新の開発の技術や工程を知りたい。
5/24の回 理由：今まであまり興味のなかつた音声認識、音声処理の内容に対して興味をもたせるような話題を提供してくれたから。	
スーパーコンピュータ入門	
なし。	なし。
1番肇の講義の生活支援ロボットの話が特に印象に残った。生活に結びつくロボットの話だったので、かなり身近な話題で、良かった。	情報技術とロボットの話がもっと聞けたらいいなと思った。

JEITA 講座に対する意見・要望等、自由にご記入下さい。
企業の技術力というものがよくわかる講義ばかりで、毎回楽しく聞くことができ、よかった。
研究内容だけでなく、実際の1日の仕事の様子を紹介して欲しいです。そうすると、社会人になったときのイメージがしやすくていいと思います。
様々な分野の最先端技術について詳しい話を聴くことができとてもためになった。 将来自分がどのような職業に就くのか参考にしていきたいと思う。
資料をもう少し見やすいものを用意してほしいです。
普段の勉強がどのように社会に出てから活かされているのかを垣間見ることができ、良い刺激になったと思う。今後もこのような講義を続けてほしい。
特になし
各講師の方が所属する会社で行っている研究の話がほとんどのようでしたが、その会社以外に、他の会社ではどういった研究が行われ、どういった研究での競争が行われているのか、についてもふれてほしい。
毎回様々な講師の方々が異なった内容の最新研究を聞けてとても良い時間を過ごすことができました。ありがとうございました。
今までの興味があったこと、なかったことも実際にその分野のプロの話聞くことで見聞が広がったと思う。なのでこれからも続けて欲しい。
講義の内容や仕方にレベルの差が感じられる。工夫して興味をひこうとしているものもあれば、自己満足なのではと感じたものもあった。電情2年後期の実験にある大ゼミと大して内容が変わらないというのも残念。ただ、電情のテーマを大方網羅しているのは非常に評価できる。通信寄りな話をもっと他のテーマにすればもっと良い。
一人一人の講義のレベルをもう少し上げてほしい。 話が下手すぎて聞く気にならない人が多すぎ
この講座がきっかけとなって、やりたい事や分野が見つかると思うことが多いと思う。なので、事前に学生にアンケートをとって（この講義を次に受ける学年の全学生に）、そのアンケートを基に、講座を組んだ方が良くと思う。
技術職など、より現場に近い人の話をききたい。
なし。

特に印象に残った講義と、その理由について記入ください。	今後、聞いてみたいテーマがございましたらご記入ください。
“光ファイバセンシングの原理と応用”が印象深かった。光ファイバは現代の通信において極めて重要なモノの一つだが、それを用いた通信・それ以外の技術に対して前から興味があったことに加え、横河電気（の三鷹にある建物）が身近だったので。本当にお話が聞けて良かったです。これを期待して受講したと言っても過言ではありません。もちろん、他のお話もおもしろかったのですが、やはりこれが一番印象に残りました。	通信の分野のお話をもっと聞きたかったです。
「ヒューマンインタフェース」 今までの講義は完全に受け身の内容だったが、この回だけはインプットだけでなくアウトプットもしたので非常に印象に残った	携帯電話
ヒューマンインターフェース 実習があると、よかった。	青色発光ダイオードの話
・スーパーコンピュータ 気象予測など身近なシステムから入って、そのコンピュータの中身や仕組みなど「あ、そうか」と思う部分が特に多かったから。また「予測」という点が個人的に興味深かったから。	・自動車関連 特に電子情報という学科にこだわらず聞いてみたかった。
・生活支援ロボット ロボット好きであり、アシストロボット HAL に興味があったため。 ・ヒューマンインターフェース エンジニア的な視点とはまた別の視点は貴重だった。	人工知能、ナノテクノロジー
ヒューマンインターフェース →単一方向ではなく、双方向の授業であったので	医療工学について聞きたいです。
7/12のスーパーコンピュータの抗議がデモンストレーション・講義内容共にわかりやすく、興味深い内容でした。 また講義に流れがあり、聞いていく内にどんどん興味が湧いてきました。	電気・電子・情報分野から、医療・生命工学の仕事に携わっている方の話を聞いてみたいです。お願いします。
アイミーブ（電気自動車）について。 →分かりやすかった。身近に感じられる開発だったから。	デジタル信号処理技術について
「生活支援ロボット」「NGN」など。 これからの暮らしが豊かになるような分野がとても印象的に残った。	・人工知能系 ・データベース（データ処理）系
ヒューマンインターフェース 演習形式で楽しかった。	電子情報工学が将来会社にもたらしうる恩恵とへい害。
情報網が切り拓く金融ビジネス 理系だけでなく日本社会構造を担うものとして興味深い。	太陽光発電のエコ電力など。
最新 LED プリントヘッド技術についての講義が特に印象に残りました。LED 電球や新型 LED など、実際に実物を見せながらの授業と、プロジェクターの映像が配付資料の分だけでなく、アニメーションなどの映像による説明で分かりやすかったからです。また、電球や TV、印刷機などの日常的に普段使用するものや日常の建物などの LED の関連を説明してくれて興味をもてました。考えたことを形にすることができる楽しい学問だと講師の人が述べているのも印象に残りました。	・今はやりの 3D について聞きたいです。 ・iPhone や iPad などタッチ式の製品の仕組みと今後の動向について聞きたいです。 ・ソフトバンクの仕事の孫さんなど、大手企業の社長さんの成功秘話が名言格言について聞きたいです
情報セキュリティの講義では、公開鍵・秘密鍵の仕組みが一般の授業より分かりやすかった。 スーパーコンピュータの講義では、具体例で内部構造を示してくれたので非常に分かり易かった。	AI の研究テーマや画像・音声処理の研究テーマを聞いてみたい。
セキュリティの時の、求められるセキュリティの部位やレベルが違うという話はおもしろかった。 ユビキタスは実生活に（わかりやすい）大きな効果を与えるだろう。	社会論や経済論と結びついたテーマは検討しがいがあると思う。
・コンタクトセンター最新技術動向 最新技術を紹介するとともに、それによって何ができるか、自分たちの生活にどのような影響を与えるかが細かく説明され、興味深かった。また、資料の最後に用語集があり、講義を理解するのに役立った。	レーザ最新技術について
電気自動車の話 環境に配慮し、かつ性能が従来の自動車に劣らないように設計し、電気スタンドを配置するなど、これからの発展にとっても関心があったから。	デジタルカメラ、スキャナ、etc などの画像系の話を聞きたい。
(i) 電気自動車 (5/10) (i) については、講義内容がおもしろかったという事もあるが、講義をして下さった和田さんのプレゼンテーションの上手さが印象的だった。時間が経つのも早く感じたし、内容もとても理解しやすかった。	

JEITA 講座に対する意見・要望等、自由にご記入下さい。
この講座はとても有意義なものだと思います。わざわざ企業の方が来てくれる状況はそうあるものではないでしょうし ...。ただ、内容によっては「もっと話す・プレゼンをするのが上手な人」に来ていただきたかったなと思う回がありました。
各テーマの先端分野の内容なので仕方ないと思うが、理論の分野で分からないことが多かった。(自分の知識不足もあるが...)
いつか自分も講師側となってこの授業をしたい。
・もっと講義して下さる方の経歴や、体験からくるアドバイスなどを聞きたかった。
最新の情報はやはり聞いていて気になることためになることが多い。
(4) で書いた内容の講義を是非来年度設置していただきたいです。
15回の講義で電子情報工に関するあらゆるテーマが網羅されていてよかった。欲を言えば、その技術による会社への利潤など、裏の部分の話も聴きたかった。つまり電子情報工学以外にも経済学等にも言及して欲しかった。
正直、興味のある分野と、そこまでの分野でのモチベーションが全然違っていたが、色々な分野を開けたのは面白かった。
パワーポイントのプレゼンテーション形式だと聞く側はつまらないので板書も多少あった方がよいのでは。
特になし
今回の講座で様々なテーマ内容のものを聞いただけでなく、もし、自分が将来講義をすることになった時、どのように講義すれば、せいとの興味・関心を持ってもらうことができるのか(生徒のインタビューさせたりなどの参加型の講義にする。VTRやアニメーションを多く用いるなど。)も考えさせられました。
興味のある講義が多数あって、非常に研究テーマ決めの役に立った。次年度も続けてほしいと思う。
今回の講義のような専門家の話を聴ける機会が多く欲しい。また、企業の人だけではなく、大学教授の研究している話について聴きたい。普段の講義では研究室の宣伝をしてはいけないようで、研究内容の話を聴く機会はあまりない。
これからもっと色々講義してほしい。

特に印象に残った講義と、その理由について記入ください。	今後、聞いてみたいテーマがございましたらご記入ください。
7/12 実施「スーパーコンピュータ入門」 スーパーコンピュータの性能などを、過去と現在で比較しながら教えてくれたので、現在のスーパーコンピュータの性能の高さおよび今後の課題などが明白に分かり理解しやすかったです。特に、講義内で行った、「スーパーコンピュータを用いた地球温暖化シミュレーション」は、約100年間分のシミュレートを約3ヵ月で計算したということで、その早さに驚きました。	現在注目を浴びている「スマートフォン」の技術について知りたいです。
5/10 の電気自動車 iMiEV の回です。どの講義も技術中心に話をされ、その技術の機能や詳細について話されていましたが、この講義では各技術の生まれた背景、そして、その技術と世界との関わり（標準機構など）も話されていたからです。またプレゼンの内容として、どれも結論→理由→具体的な内容を話されており、プレゼン自体が上手で感動したからです。	研究分野ではなく、ビジネスで使われる Web プログラミングなどを知りたいです。perl, php や java、データベースなどの各技術の実践的な使用例、また twitter などを利用したソーシャルアプリのマーケティング活用例など。
高速・大容量無線通信 面白かったです。	半導体とかもいいと思います。
生活支援ロボット 最先端の研究で、実用化されているものを紹介して頂いたので、とてもおもしろかった。	金融工学の実際の利用等
特に印象に残ったのは、5/10 に行われた、三菱自動車工業の和田憲一郎さんによる「電気自動車」の講義でした。昔から車が好きだったことでもあります。近年注目されている分野の内容だったので、とても興味深かったです。中でも、自分も疑問に感じていた電気自動車のバッテリー問題も最近の研究で改善され、更に予想以上のものになっていたことにはとても驚きました。	理系の専門職のテーマもとても興味深いのですが、商社などで、元々は理系だった人が活躍している人の講演が聞いてみたいです。(例えば、その仕事のどこで理系の知識が生かされているか)
7/5 の次世代ネットワーク (NGN) の講義について興味をもった。 具体的な画像、動画、図が示されていて、非常に分かりやすかった。また将来性について考えること、ビジネスモデルについて考えることの大切さを知った。	情報工学コースよりの講義が多かったような気がした。もう少し半導体技術、無線通信技術、パワーエレクトロニクス技術や通信の ITS についての話を聞きたかった。
7/21 のヒューマンインターフェースの講義は他とは変わった風で新鮮だった。実習のようなことをしたので、印象に良く残っている。内容的にあまり興味のないものだったのが残念だった。	
「スーパーコンピュータ入門」という講義が印象的でした。 概要説明→細かい中身→具体的な利用方法→最新技術の紹介という流れそのものは他の講義と変わりはありませんが、話にアクセントがつけられていて、聞きやすく分かりやすかった。	半導体工学・送電工学など、普段の講義で取り扱われている学問。
安全・安心を支えるセンサ技術の講義の動画でロボットの動きが予想以上にスムーズで印象に残りました。 スーパーコンピュータ入門の講義は事業仕分けで話題になっていたテーマで印象に残りました。 ヒューマンインターフェースの講義は2人組でも実習、講師のユーモアを交えた話し方等講義の仕方が独特で印象に残りました。	
「スーパーコンピュータ入門」の講義が印象深かった。 コンピュータの性能などがわかりやすく、また時代とともに性能が向上していることがよくわかった。またシミュレーションの結果が出るまでに要する時間が性能により大きく変わるのも興味深かった。	携帯についての講義を聞いてみたい。
「情報通信技術が切り拓く金融ビジネスモデル」 理系の技術が文系分野に大いに貢献している内容であったから。	宇宙系。
暗号技術の講義 プリンタとインクの関係について知らなかったのが驚いた。	電話回線→ISDN→ADSL→光ファイバーへの移り変わり
・スーパーコンピュータの講義。 地球温暖化問題は興味があり、今では温暖化による具体的な影響の話をよく聞いたが、実際にスーパーコンピュータによるシミュレーションによる数年後の地球の様子を表した動画はとても面白く興味深かった。	同期発電機など今期の実験で扱った機器などが実社会でどのように応用されているかという講義が聞いてみたい。
・スーパーコンピュータ 現在の世界一のスパコンの性能やスパコンについて知りえないことがいろいろわかったため。 普通のパソコンでは演算しきれないことを演算しいろいろシミュレーションしていくということはおもしろいことだと心から思ったから。	発電機やモーターといった電気やエネルギーに関する技術を聞いてみたいと思った。エネルギーを作るためには損失が出て、その損失をどんな技術で最小限におさえて効率化をはかっているのかということを知ってみたいと思った。(実験の影響やエネルギーの枯渇問題などから)
生活支援ロボットについて。 理由：高齢化が進む日本では、これから先、重要となる技術だから。現在の開発がどの程度まで進んでいるのかや、課題、デモなどが90分枠にコンパクトに収められて、とても分かりやすかったです。	医療工学について。

JEITA 講座に対する意見・要望等、自由にご記入下さい。
全般的に、各会社でどのような開発が行われているかなどの技術的な話が多かったですが、学生時代にどのような勉強をすべきかなどの実践的な意見やアドバイスも頂けたら嬉しいです。
自分の浅い知識、視野が広まりました。ありがとうございました。
満足しました。 とても役立ちました。
大学3年生という時期に、様々な仕事、企業の内容に触れることができるのは、将来の事を考えるのにとっても貴重な体験だと思います。今後もこのような講義を設けて行ってほしいです。
今後もこのような講座をきいてみたいです。
質より量というわけではないけれど、内容が分かりづらい講義が多かった。(難し過ぎたり、専門用語が多かったり)
メールで質問するコーナーがあったらいいと思う。
技術的な話だけでなく、話してくださった講師もいたが研究や開発に必要なものの考え方なども聞けると良かった。
就職支援
レベルが高すぎて理解しづらい講義がたまにある。
講義は最先端の技術を毎回色々な分野において聞けておもしろいと思うが、レベルが高く理解出来ないものがあるのが残念であった。(専門的に勉強していなくても初見でわかるレベルに下げて講義をしてほしかった)

特に印象に残った講義と、その理由について記入ください。	今後、聞いてみたいテーマがございましたらご記入ください。
<p>光ファイバについての講義 光ファイバの使われ方について色々話が聞けて面白かった。</p>	<p>宇宙工学みたいなもの。</p>
<p>ヒューマンインターフェースの回、インタビューやアンケートの方法でいかに技術が素晴らしくても話す方法が間違っていると、伝えることができないので、伝え方が大切なのだと思います。</p>	<p>モーター制御（VVVFインバーター）について。</p>
<p>『最新 LED プリンタ用光書き込みヘッド技術』 自分としては、一番興味があった内容の講義でした。近年 LED の技術が発達していて様々な製品に応用されているので、今後の研究にも期待がかかると思いました。また、LED をプリンタに応用する技術のすごさにも驚きました。</p>	<p>この授業では電機系・情報系の様々な研究分野についての講義でとてもためになりました。今後は、文理問わず、電気・情報系が関与できるような分野があれば聞いてみたいです。</p>

JEITA 講座に対する意見・要望等、自由にご記入下さい。

もっと、JEITA が何であり、どういう理由でこの講義があるのかを説明してほしいです。

特にありません

7. 東北大学（各行は同一受講生のコメントを見開きで示したもの）

特に印象に残った講義と、その理由について記入ください。	今後、聞いてみたいテーマがございましたらご記入ください。
富士通さんの環境に対する取り組みに関する講演が印象に残りました。 私たち情報技術を学ぶ人間にとっては、環境対策は無縁だと考えておりましたが、この講演を拝聴して、ITを導入できる部分が多くあることを知りました。 特に、農業、漁業に関する取り組みは興味深かったです。	どりたかというベンダー側の企業の方が多かったようなので、ソフトウェアやサービス中心の新しい企業（Google、マイクロソフトなど）の方のお話も伺ってみたいです。
最終講義。 ITを必要としない人もいるという話に考えさせられた。	
It gave me an image about Japanese work culture. Also, what kind of technologies are used, what products are made by which company,	
情報システムのセキュリティ設計について 情報セキュリティの話題に興味があった。具体例をあげていてわかりやすかった。	IT業界全体に関する動向について
11月25日ソフトウェア工学の実践—ソフトウェア開発における改善— ちょうど就職活動を始め、色々とIT業界の話を知りたいと感じていた時にソフト開発に関するフローやその時々どのようなことに注意して作業を行うのかといった事をプロフェッショナルの方から直に聞けたから。	携帯電話網を用いたシステム開発などを行っている会社様からこれからのモバイルネットワークの〇〇〇〇先について話を聞きたい
1月13日 サイドチャネルアタックの話が非常に興味深かった。	
セキュリティの話はおもしろくて、げんざい、きぎょうはどうやって、セキュリティのmondaiをなoshiteいるかとかわかってきました。	セキュリティとちかいけど、プライバシーについてのmondaiを聞きたいです。
東芝ソリューションさんの、ITシステムのセキュリティ技術 プログラム屋以外でのセキュリティ保持のための取組みを行っていることが興味深かった。 プログラム面でも、設計からセキュリティを考慮したものになっていることも印象的だった。	プログラム言語系の話
プログラム静的技術解析について 自分の興味に合致し、新たな知見があったから。	先端技術を用いたプロダクト開発・企画・産業化
1/27 ITと地球環境 環境への取り組みについて、各社の説明があり分かりやすかった。また、農業と漁業というITと縁のなさそうな分野での話は興味深かった。	プログラムやシステムのテスト、デバック等についての話
東芝ソリューション株式会社の守安様の講義が特に印象的でした。 文書を扱う技術について詳しいお話を聞く機会にはめったにないため、紹介していただいた技術や手法は大変面白く、興味深いものでした。	今後も企業で利用されている最先端技術を紹介していただきたいです。 また、トピックとしてはICTや環境問題に関連する技術を主に取り上げていただけますと嬉しいです。
NGNが実現するユビキタス社会～次世代のネットワークはどこへ向かうのか？～ 現在のネットワークに関わる様々な問題に最近興味があり、話がリンクしているから。	
富士通の功刀さんのお話です。 色々な会社の環境対策などのお話が身近でわかりやすかったからです。	JR東日本さん、JR東海さん、東京電力さんなどインフラの社員の方々から、今後のビジョンなどお聞きしたいです。
最終回の講義にて、エコで経済を回す考えがあって新しい視点が得られた	金融、商社辺りに応用されている最新技術
システム開発における要件定義の重要性とモデリング技術 要求、要件、仕様の考え方がわかりやすかった。 現在の自分に反映できる内容であった。	google社の様々なサービスについて
「システムエンジニアの仕事」というテーマで、NECの方の講義が特に印象に残った。 システムエンジニアに求められるものを研究室での研究活動と関連させて、自分たちの研究活動のどんなところが今後社会に出て役立つのかまで含めて説明を受けた際に、自分にとって非常に得るものが大きかった。	クラウドの概念についてくわしく話しを聞いてみたい。 クラウド化はどの程度進んでいるのか、またそれらを支えている技術にはどのようなものがあるのか興味がある。

JEITA 講座に対する意見・要望等、自由にご記入下さい。

普段私たちが研究している内容がこういった形で世の中に出ているのかがわかりました。

本当は授業後のフリートークにも参加したかったのですが、都合上参加出来なかったことが残念です。

I'd like to see people from Non-IT companies, companies that have large IT departments.

同じ題目に対して、それぞれの会社による考えの違いについて聞きたいと思った。

学校での勉強としての側面にプラスして、対 M1 ということで就活の情報収集にも有益という一石二鳥の授業となっているので是非とも今後とも続けて行ってほしい。

企業員からちょくせつに聞くとは、やくにたつと思います。

特になし

もう少し年齢の若い方を招いて、インタラクションを増してみてもどうか
研究者・技術者の方だけではなく、意志決定層の方の話を聞いてみたい。

資料を電子化して HP にアップしてほしい。

実際に働いているエンジニアの方々に、業務内容を聞くことは普段では体験することはできないので、大変貴重な体験ができる講座であると感じた。

特に印象に残った講義と、その理由について記入ください。	今後、聞いてみたいテーマがございましたらご記入ください。
<p>12/2 の、「システム開発における要件定義の重要性とモデリング技術」 理由：講義の中に、Q&A 形式の事例解説が組み込まれており、わかりやすかった。また、配布冊子は今後自分の研究にも活かせる教材であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2011～のソーシャル・ネットワーク ・現実世界とインターネット融合 リアルワールドに関連付けられたソーシャル・アプリ ・企業における文理融合の事例 ・大学生と企業のコラボレーションの可能性
<p>「プログラム解析記述概説と応用」 「ソフトウェア工学の実践—ソフトウェア開発における「改善」—」 「システム開発における要件定義の重要性とモデリング技術」 私の研究内容は主にソフトウェア開発についてですから、これについての技術に興味があります。 上の講義によって、いろいろお勉強になりました。</p>	<p>私は卒業した後でプログラムに向けて企業を就職したいと思いますから。ソフトウェア開発について技術やプロセスなどのテーマを聞きたいと思います。</p>
<p>IT と地球環境 様々な分野、広い世界で ICT が役に立っていることが具体例と共に聞いたので、ICT に対する関心が高まった</p>	
<p>12/9 システムエンジニアの仕事 顧客とのコミュニケーションや課題の把握など、SE の仕事をこなす上で重要なことを詳しく聞けたこと 1/6 IT パラダイムシフトと IT アーキテクトの役割 講師の方の人柄がとてもフランクで内容もわかりやすかった。</p>	<p>Google や GREE といった Web コンピューティング関連の企業の技術や業務内容など。</p>
<p>12/2 「システム開発における要件定義の重要性とモデリング技術」(富士通 (株)) プロジェクトを進める上での要件定義の大切さがわかり、自分の研究の方向性を考える上での参考になったから。 さらに講義のところでクイズが取り入れられていたのが、自分で考えるきっかけとなりおもしろかったから。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車や家電などの身近なハードウェアに組み込まれているソフトウェア技術 ・グーグルなどの大規模なシステムで使われている技術
<p>ソフトウェア開発における改善の講義 (三菱) で、顧客と開発側企業がうまくコミュニケーションをとらないと求められているソフトウェアが開発できないというお話があり、知識だけではなく計画性も磨かなければいけないと実感しました。 他にも、IT パラダイムシフトとアーキテクトの講義 (IBM) のイノベーションを定義しているセクションが分かりやすく且つためになり、印象に残っています。</p>	<p>これといった事は思いつきませんでした</p>
<p>日本電気株式会社さんの NGN についての講義 私は情報通信に興味があり、将来はそのような業界・職種で社会に貢献したいという思いがあります。講義では次世代ネットワークの仕組みや現状について詳細に説明していただいたので、特に印象に残っています</p>	<p>マルチメディア (音響・画像) 関係の研究、開発</p>
<p>NGN の講義 (1 月 20 日)、NGN がどのような物で目的等が分かりやすかった為</p>	<p>IPv6、スマートフォン、Linux</p>
	<p>データベースに関するの話題が聞きたい</p>

JEITA 講座に対する意見・要望等、自由にご記入下さい。

今年の講座のスタイルは図1のように思われた。

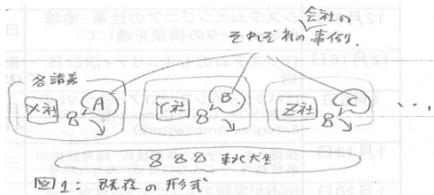


図1: 既成の形式

これを発展させ、図2のようにになったらさらに面白い。

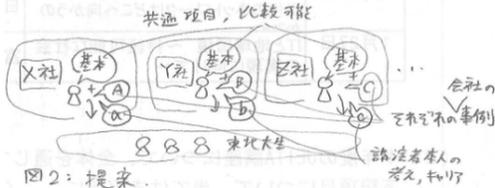
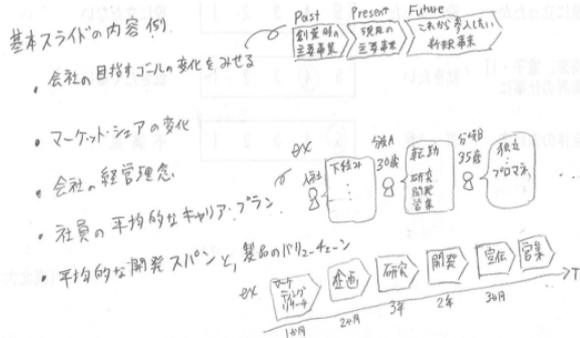


図2: 提案

現状では、個々の授業は充実しているが、それぞれの授業を比較しながら理解するのが難しい。たとえば、全講義で共通の「基本スライド」と、各社オリジナルの「フリースライド」、講演者本人のキャリアや仕事に対する考え方を紹介する「キャリア紹介スライド」の3つをフォーマットにはいかがでしょうか。



なし

もう少し範囲を広げ、多様な分野の話が聞けると良かった。

企業の第一線で働いている方々の様々な話を聞くことが出来て、とても勉強になり、非常に面白かった。
今後もこういった講座を受講したいと思ったので、これからも続けてほしい。

本来は企業の方がどのようなお仕事をされているかを聞くのが目的だとは思いますが、発表されている方の細かいプロジェクト内容などはそんなに興味のない事が多々あったので、より企業や技術あるいは手法そのものに集中した講義の方が正直聞きやすかったです。

もっと分野を含んで欲しい

8. 岐阜大学（各行は同一受講生のコメントを見開きで示したもの）

特に印象に残った講義と、その理由について記入ください。	今後、聞いてみたいテーマがございましたらご記入ください。
6/2のスマートフォン、ARの講義 最先端でつか身近な技術であったから。	CPUの技術
スマートフォン、生活支援ロボット 身近であること、やたら専門的な内容を講義されても困るので	
電子カルテの講義 医の問題点から入っていき、非常に分かりやすかったから。	スマートグリッドの今後の展開
脈派センシング技術についての講義に興味があった。 研究で生体情報を扱っているの。	パソコンのハードウェアやOSなどの話に興味がある
セイコーエプソン様の、ディスプレイに表示されている色と、プリンタで印刷したときの色を同じにするためにとても努力をしているという内容の講義は印象に残った。色の三原色を使えば、理論的には黒となる場合でも、現実にはそうはならず、最終的には人間の技によって修正されている。当然と思う技術のウラに人の努力があると思った。	ロボットの研究を現在行っており、特に人とロボットのコミュニケーションについて興味があります。そういった内容が増えたらおもしろいです。
AR 本当に未来を感じさせる楽しい話だった。	
7月14日の「あなたはなぜ就職活動で失敗するのか」 グループで話し合いがあったりと参加型の講義だったから。 また、自分がこれから就活をする上で大変なためになった。	今のままで十分だと感じました。
スマートフォンの動向と拡張現実での活用 この先、何年後かを予測する先見の明が必要だということを感じた。 もし、これから iPhone が 10 年後シェアを独占していると考えた時、様々な側面から見たときの根拠と自分の感性を混ぜて予想することが大事であると感じた。	自動車業界の話を知りたい。 トヨタ、ホンダ、マツダの子会社、関連会社の話を知りたいです。
脈派センシング技術への期待/セイコーエプソン 脈派から体の情報が読み取れ、それを活用する技術に驚き、大変興味をもったから。	研究職の社内における具体的な位置づけについて知りたい。 研究職がどれほど必要とされているのか、組織内での重要性など。
6/2 ユニシス 携帯の未来が特にいま、破壊的イノベーションになっている事が肌で感じられ、とても身近に感じた事が印象に残った最大の理由です。	電気自動車
スマートフォンの動向と拡張現実での応用 スマートフォンは現在話題であったし、私が情報学部を志望したのは元々 AR への興味があったから興味深かった。	3DCG や VR などについて聞いてみたい。
スマートフォンや就職活動等の講義は身近なテーマであったため印象に残っています。	
・暗号技術 パソコンや携帯電話などに用いられる暗号技術について興味があった。 ・富士通さんの「発想力と気づき」 学生参加型で楽しみながら就職活動の事情が理解できた。	
地上デジタル放送の講義で身近で日常から疑問に感じていたことを分かりやすく教えていただけました。	ネット関係はいろいろ聞いてみたい
7/14 テーマ「あなたはなぜ就職活動で失敗するのか」 企業が求める人物像や企業ではどんな心がまえで働いていけばよいのかという話をよりリアルに聞けて就活に対する思いが強くなりました。 グループワークを通し、他人と同じイメージを共有することは難しいが、グループの全員が納得できる結論を出す事がとても重要なことだと実感しました。	iPhone、iPad といった最新の機器を用いて医療や福祉や日常生活に生かすためのアプリやネットワークを開発している企業の話を知りたい、未来では iPhone、iPad がどのように活用されるかを想像してみたいと思います。 「タッチパネル」市場の今後の動き、タッチパネルは本当に世間は求めているのか・・・。
「ソフトウェア工学の実践」 情報処理試験の試験範囲であった「ソフトウェア開発の工程」が実際にそれに沿って進められているということを実感した。	オブジェクト指向言語でのソフトウェア開発の流れを設計段階から実例を含めながら、どのように完成されていくのか聞いてみたい。
富士通（株）さんが行ってくださった就職活動に役立つアンケートはとても役立つと思った。 社会に必要な人材がどのような人か分かった。 とても面白い内容でした。	今回の講義では仕事内容をとても詳しく話して頂いた。 できれば、どのような人材が社会にほしいかを少しでもいいから話して頂きたいと思った。
富士通の方の講義が面白かった。 面接の練習のようだったし、話の節々に深く染みる言葉もあった。	車関係の企業がないように思えたため電気自動車やハイブリッドカーの話等も聞きたかった。

JEITA 講座に対する意見・要望等、自由にご記入下さい。
教室が狭かった。 講義資料を紙に印刷して全員に配るのはもったいない気がする。 AIMS に pdf でアップして、必要な人が各自持ってくれば良いのでは？
せっかく企業の人から話を聞けるのに、大学の講義のような学問的な話を中心になってしまっているものもある。 スマートフォンの回に講義資料を配布してほしかった。 水曜日の午後は就活イベントと被るので別の日にしてほしい。
貴重な話が聞けて良かった。
全体的に満足でした。人が多く席が足りないみたいな状況は改善してほしいです。
就活する前に生の社会人または会社の声が聞けるのは大変重要な事だと思います。学部3年でも開講するとより良いと思いました。
懇談会に参加したい回もありましたが、受講している講義と時間が重なってしまった。
学内で社会を感じる良い機会だと思った。
講座の資料を配布していただけるのは大変助かりますが、アニメーションなどで文字が被ってみえないものや文字の大きさがつぶれてみえないものがありました。
受講人数に対して若干教室がせまく感じた。
普段聞く事のできない実際に働いている方の話が聞ける為、非常に良い講義だと思います。
非常に興味深い話をいろいろ聞くことができた。
実際に企業で行っていることやそれにあたっての専門知識など興味深かったです。また、これからの就職活動や企業で働くにあたって参考になりました。これからもこの講座を続けて欲しいと思いました。
とても満足です。
実際に企業の方の話や研究開発についての話や情報を聞けるのは、日常ではめったにない機会なので強い関心を持って話を聞くことができました。 全体の講義の後にも少数で話ができる機会を用意して頂けたので、ネットや資料には載っていないことを質問でき、今後の就職活動の時の参考になりました。他にはない物を作りだす、ということの重要性を感じる事ができました。
大学で勉強している事が応用されて製品やシステムが作られている事を実感できた。 このような講座を大学側は積極的に取り入れていくべきだと思う。
講義では社会の内容を把握でき、とても良かった。 学部の中でも聞いておきたかったと思った。
全体を通して面白かった。 このような形式の講義はあまりないし、企業の話は M1 にとっては良い刺激になると思う。

特に印象に残った講義と、その理由について記入ください。	今後、聞いてみたいテーマがございましたらご記入ください。
スマートフォン ハードウェアとアプリを両方そなえたシステムとして、消費者が付加価値を感じ、広がっていくと思われるため	燃料電池や二次電池に関する運用方法やシステムの構築など
4/28 情報セキュリティの基盤技術 情報の暗号化がどのように行われているか興味があったのでおもしろく聞けた。RSA 暗号があと3,4年ぐらいでやぶられるのではないかとおっしゃられていたので、けっこう磐石だと思っていたので意外だった。	
日本ユニシス(株) 中川靖士先生の、スマートフォン(iPhone P/Android)の動向と拡張現実(AR)での活用の講義が、身近な所で使っている人がいるスマートフォンについての話題だったので、とても興味深かった。この講義ではスマートフォンの市場の概説だけでなく、最近まで知らなかった拡張現実を利用したビジネスチャンスについてもお話があったので、近年の技術の進歩に驚くとともに、その応用についていろいろと勉強になった。	情報の分野については、あまり知識がなかったので、最近の応用・発展例などを大まかに紹介してもらえるような講義が1度あるとより親しみやすいのではないかと感じた。また、個人的には、医療分野における胃カメラやCTといった画像診断系の技術について説明してもらえるようなテーマがあるとよかった。
(富士通)の印象が一番深いと思います。皆さんが全員で参加していた感じである。最初から最後まで先生と生徒たちがずっと交流していました。	ロボットについて聞きたいです。 ロケットについて聞きたいです。
セイコーエプソンの講義は具体的な企業の動きが聞けて面白かった。	スマートフォンとARは興味があったが、出席出来なく、聞いてみたかった。
7/14 あなたはなぜ就職活動で失敗するのか 自分と他人との思考の違いをスライドなどの講義説明だけでなく、実際にグループワークを通して体験できたので身を持って知ることができ、理解が深まりました。	デジタル放送やインクジェットの講義など身近な内容の話に興味を持って聞くことができたので、最近話題になっている電子書籍など新しい情報分野の機会について聞いてみたいです。
日本電機(株)の加藤明先生の「地上デジタル放送とワンセグ受信技術」あと1年で日本のテレビ放送はアナログから地上デジタルに移項するので興味があり、アナログ放送と地上デジタル放送の違いが大変よく理解出来ました。また、その1chの中にセグメントが13個あり、その内の1つが移動端末用、12セグが固定受信受けということを知り、興味をもった。普段何気なく使っている携帯電話のワンセグ機能であるが、実用化するまでに様々な苦労があったことがわかった。	私は電気電子工学専攻に所属して、電子回路の分野について研究しているので、半導体の分野や、回路の分野についても聴いてみたいと思いました。就職活動の面においても、どんなことをやっているかを聴くことで、イメージを掴むことができていると思いました。
結局どれも正確に理解できない、という点でどれも似たり寄ったり。	
7/14 グループワークがあり、その内容の説明があったため。楽しみながら、理解できた。	
7/14 の講義 一方的な講義ではなく、作業したりゲーム感覚で良かった。	
7/14 の講義 理由：自己分析がためになった	
7月14日のあなたはなぜ就職活動で失敗するのか印象に残った。講義の進め方がうまく、ずっと興味をもってきくことができた。	自動車関係のテーマも聞いてみたい
脈派センシング技術への期待 日本は2008年には65歳以上の高齢者の割合が22%を超え、まさに少子高齢社会を迎える。これに加えて、労働力の減少により、人間の介護サポートが自動化はますます重要となり、生体情報を用いて医療機器の開発が必要である。	電子化とエネルギーについて地球に関するのテーマが聞きたい。
スマートフォンの動向と拡張現実での活用。 iPhoneとAndroidの違いの説明から将来どうなっていくのかを聞いて興味を持った。自分ももしスマートフォンをもつとしてどちらにすればいいのかの判断材料になった。	PS3、PSP等ゲーム機につかわれている技術紹介。 処理エンジンの特殊なところ等。
7/14 の講義 聴き手が参加するタイプの講義は少ないから。	
あなたはなぜ就職活動で失敗するのかの講義がとてもおもしろく、印象に残った。	自分の研究テーマである有限要素法のテーマの講義をききたい
特に印象に残っている講義は、7月14日の富士通の方による“あなたはなぜ就職活動で失敗するのか”という講義です。 パワーポイントによる講義が多い中で、この授業は絵を描いて、グループで見せ合うといった参加型だったからです。 また、内容も興味深く良い刺激になりました。	私の専門は生命工学なので、やはりITと医療が結びついている内容に興味があります。
脈派センシング技術の講義では自分が行っている研究と内容が近いこともあり、興味を持って受講出来ました。生体情報を工学的に分析して、人間の利益になるような製品を發明しているのか、自分が将来就きたいと思っている仕事そのものだったので、印象に残るとともに、研究に対するモチベーションや漠然としていた将来のことを考える良い機会になりました。	医療機器において電子情報技術がどのように応用されているか。 人工知能や人型ロボットの今後。 宇宙産業におけるIT技術。

JEITA 講座に対する意見・要望等、自由にご記入下さい。
企業の第一線で働いている人たちのお話を聞いてよかった。
情報技術の進歩はとてはや、分野外にいただけでは、現在どのようなことが実現できるのかといったことについてさえ、正確に把握できない。 このため、今回のような講義は大変参考になったが、所々やはり難しい所があったので、講義に関係する補足的資料などを電子化して AIMS などに掲載して頂けると、後々見直すことができるのでより理解出来るのではないかと思えた。
スライドを印刷した資料では文字がつぶれていたり見にくかったりするのので、AIMS 上でスライド自体をダウンロードできるようにしてほしいです。
様々な企業の方に来て頂いて、やっている内容を聴くことで、色々興味が湧いて楽しかったです。学生はなかなか企業と関わりを持つことがないので、このような授業を聴くことができ、良いと思いました。
質問タイムの学生の茶番っぷりがひどい。
授業内容以外にも就職に関する話や業界の話が聞いて参考になった。
聞いているだけだと眠くなってしまいます。このアンケートの (1) もまとめてではなく各講義毎に書くようにしないと内容を忘れてしまう。
全体的によかった。企業の方の生の声をきくのはいい経験だった。
もと就職に関するのメッセージを伝えて欲しい。
最先端の現場にいる方の話をきけてモチベーションがたかまりました。
視聴者参加型が増えると楽しいと思う。
教室がせまい
専門的な授業が多い中で、JEITA 講座では企業の方々のお話が聞け、最先端の情報技術などを知ることができ非常に面白かったです。
JEITA 講座では企業の第一線で活躍する方々の生の声を聞くことが出来、非常に興味を持って講義を受講することが出来ました。講義のテーマも毎回様々な分野での IT 技術の応用となっており、どのテーマの時も非常に興味深く受講することが出来ました。 要望としましては、毎回 powerpoint を紙媒体で配布し、講義を受講するのですが、白黒印刷の為 powerpoint で協調するための色使い等が分からず後で見返した時、内容が分かりづらいということがあったのでカラー印刷にするか AIMS 上で講義で使用した powerpoint を uplove して頂けると助かります。

特に印象に残った講義と、その理由について記入ください。	今後、聞いてみたいテーマがございましたらご記入ください。
日本ユニシスのスマートフォンの動向と拡張現実での活用が特に印象に残った。 アップル社などの独自の営業や開発方針からなぜ大ヒットを生み出したか、また今後どのような動向に注目すべきかの予想などとても面白く、ためになったから。	windowsのOSはXP、VISTA、7と変わっているが、VISTAは一般に使い勝手が悪いと評価され、7でもXP型のOSに戻っている。 この辺の個人的には、Microsoftらしくないと思う迷走がなぜ起こったのか、様々な視点から話を聞いてみたい。
7/14「あなたはなぜ就職活動で失敗するのか」 就活で大事なことを、様々な観点から講義していただき、就活をひかえた今の時期に良い刺激となった。	社会インフラを支える裏側のシステム・技術など。
エプソンのインクジェットの講義 プリンターえらびのときによくそのがいようを目にしていたから	えきしようディスプレイかんけいのテーマ
どの講義も先進的な内容で印象的だったが、スマートフォンに関する講義が、話題として知名度や好奇心が高く、その分印象に残った様思う。	生活に技術がどのように関わっていくのか、ということには強く興味がある。
東芝・松日楽さんの人間共存環境を目指したロボット研究開発。 ロボットの話には少し興味があったため。 また、これから先あらゆる所でロボットが働くことがある可能性があるから。	IT系以外のテーマがもう少しあると良かった。 少しJEITAの分野からは外れるかもしれないが。
富士通の講義では抽象語を絵にしたり、犬から連想したりと実体験を通じて理解することが出来た。特にやりたい事に対する防げる要因＝言い訳という説明は身にしみて痛感した。	blu-ray等の工学ディスク技術
インクジェット。 説明がわかりやすい。	検索エンジンについて。
「あなたはなぜ就職活動で失敗するのか」が印象に残って、やはり就活は今の僕たちの最大の関心事であるので、興味をそそられ、またその内容をクイズ形式にしてください、それをグループディスカッションとして周りで相談しながら講義を受けられたのがとても楽しかったです。	宇宙開発・ロケットなど宇宙が関係しているテーマを聞いてみたいです。 または深海の調査など（近年まで）（今でも）人の手が届かない地での開拓に関係する話をぜひ聞きたい。
あなたはなぜ就職活動で失敗するのかの講義では、他の講義と比べて、仕事の紹介ではなく、今まさに欲しい情報である就職での話であり、また、実際にグループを作ったの話し合いは面白かった。	テーマで具体的な例ではないが、岐阜の企業をよりこの授業に参加していただいて、身近な物としてみたい。
富士通（株）の「あなたはなぜ就職活動で失敗するのか（発想力と気付き）」という講義が一番印象強かったです。理由としては、講義の中でグループワークや個人で作業を行い、面白く講義を受けることが出来たし、話を集中して聞くことができたからです。 話の内容はこれからの就職活動に役立つもので興味深かったからです。	宇宙産業について
あなたはなぜ就職活動で失敗するのか（発想力と気づき） 理由：これから就職活動をするのでとても参考になったから	人間が使うインターフェースについて
日本ユニシス株式会社様によるスマートフォンの動向と拡張現実での活用が興味深かった。客層が何をもとめているのかの考察、特にQコードの失敗談からの考察や、他の会社との次世代携帯の競争における戦略の比較や今後の動向についての話が印象的だった。iPhoneに関してはCM等の宣伝も多く、話題として身近なものに感じられた。 AR技術に関してはわかりやすい例としていくつかアニメがとりあげられていたが、利便さや悦楽の観点から個人的に早く実用化されてほしい近未来的な技術だと感じた。 講義全体を通して話が大変わかりやすかったこととクイズ形式でおもしろい講義だった	ロボット分野を専攻しているのでロボットに関するテーマがあればと思います。 個人的にはHONDAさんのASIMOの開発経緯などが聞きたいです
自然言語処理技術の業務への応用という講義が一番印象に残りました。 特に、文書の室に関する話がとても印象に残り、文書で情報を正確に素早く伝えるために必要なこと、海外の企業との文書でのやり取りの際気をつけることなどを学びました。また、自然言語処理の必要性や重要性なども学ことができ、とても勉強になりました。 この講義で学んだことを今後、様々な場で生かしていきたいです。	地球温暖化の緩和技術である自然エネルギーを用いた技術についての我が国での取組などを詳しく聞いてみたいと思いました。
6/2の日本ユニシスの講義では最先端のスマートフォンやその技術を利用したシステムの話で興味をもって聞くことができた。7/14の講義では就職に関して貴重な話を聞くことができた。	海外の企業等の話も聞いてみたい
富士通さんの「あなたはなぜ就職活動で失敗するのか」という講義が印象に残りました。様々なテストをすることで、具体的にわかりやすかったからです。また面接官の経験の話も聞くことができ、とても参画になりました。	特にありません
なぜ就職活動に失敗するのか	
スマートフォンの動向と拡張現実での活用 身近な携帯電話の話であり、今後のスマートフォンについてくわしい人間の話が聞けたところ。	
光ファイバセンシングの原理と応用 光ファイバという言葉は聞いたことはあるが、それについてまったく知らなかった。しかし、詳しい説明を聞くことによって、少し興味を持つことができたから。	なし

JEITA 講座に対する意見・要望等、自由にご記入下さい。

どの企業の話も興味深く、楽しんで聞くことが出来た。今後もぜひ続けて欲しい講義だと思います。

就活のテーマから iPad の技術開発に至るまで、幅広いテーマを学ぶことができて知識が豊かになった。

企業の方からいろいろな話が聞けてためになった

全般的に興味深く、役に立つ内容だったと思う。

非常に貴重な話を聞けて良かった。

実際の企業の方による最先端技術を講義していただけたのでとても有意義な講義だった。

満足です。

知らない知識、学校では触れることのない知識を「外部の方」に講義をしていただいて教えてもらえるので、とても新鮮で楽しいものとなりました。今後もぜひ続けていってください。

特になし

とても満足です。よい講座だったので今後もぜひ続けてほしい

毎回、その分野の専門の方々のお話を聞くことができ、とても勉強になりました。
このような場を設けていただき、大変ありがたく思っています。

特になし

特にありません

なし

特に印象に残った講義と、その理由について記入ください。	今後、聞いてみたいテーマがございましたらご記入ください。
「あなたはなぜ就職活動で失敗するのか」 就活間近で興味があり、内容も参加型でおもしろかった。	・電気自動車について 今、話題の内容について詳しく聞きたいから。 ・CAE 関連の内容 今回の講義は情報よりだったため、自分の専門である CAE が企業でどのように使われているかの話を知りたい。
「あなたはなぜ就職活動で失敗するのか（発想と気づき）」 後期、就職活動を行うので、面接官側からの話が聞けるのはとてもためになりました。	・CAE 関連 ・自動車 ・飛行機 ・ソフトウェア開発
印象に残った講義は6月2日の講義です。理由はこれから発展していく分野の話だから。世の中の最先端の話題について聞くことができるのはありがたい。	半導体デバイスの話を聞いてみたい。日本は世界一位の半導体技術をもっているのだから、是非聞いてみたい。
なぜ就職活動に失敗するのかという講義が最も印象に残っています。働くに当たって、何が必要で何がいけないかなど聞くことができよかったです。ワンセグやスマートフォンについての講義も身近になりつつある技術なので印象に残っています。	私は CAE に関係している研究室に在籍しているので、情報分野についての話は新鮮でした。しかし、やはり自分の専門としている分野についての話も聞いてみたいので、CAE に関連する話が聞いてみたいのです。
7月14日の「あなたはなぜ就職活動で失敗するのか（発想と気づき）」 人間の脳の考え方やメカニズムについて、昔と今の思考の違いや特徴をとらえながら分かりやすく説明していた。また、今後の就職活動にあたって、新しい発見などがあり、とてもためになる話があった。	メーカーや製造業の中での情報技術や役割、これからの発展などに関して聞いてみたかった。
7月14日の富士通の濱野さんの講義が特に印象に残りました。 只、解説するだけでなく、実際に参加型のインタラクティブな講義で、かつ聞き手をひきつけるようなプレゼンだったり、この人がいかに楽しく、積極的に仕事をしているかが、ひしひしと伝わるほどでした。	もう少し自分たちに近い先輩社員の話などが聞けるとより業界に現実味が持てると思います。
7/7：富士通さんの会社にとっても興味がわきました。（講義をしてくれた方（ハマダさん）の話がとてもためになったしおもしろかった） 7/21：色についての話がおもしろかった。色について興味が深まりました。	画像処理技術について（テレビなどの）
富士通（株）さんの「電子カルテが拓く未来の医療」 これからの医療にかかせないと思いました。それとともに日本の医療設備や体制制度などを知ることができ、設備はよいのに、他国との違いを知ることができたのが印象的でした。実際に、電子カルテ以外にも、医療のIT化によって、ミスの軽減や迅速な治療ができるのではないかと期待できるので、これからガン検診や出産などのお世話になる医療に対して安心できる日も近いのではないのでしょうか。	
特に印象に残った講義は「あなたはなぜ就職活動で失敗するのか」という講義です。 講義内容は、先端技術というわけではなかったが、人とのコミュニケーションや人が複数人集まっておこなうプロジェクトなどで、個人個人の考え方やそのとらえ方、内容などが異なり、自分の意見をしっかりと出して、意識を共有することが重要であることを感じられたことである。また、自身の研究が自然言語処理に関するものなので、「自然言語処理技術の業務への応用」という講義も興味をもって聞くことができた。実際に、言語処理の技術が業務などで利用」という講義も興味をもって聞くことができた。実際に言語処理の技術が業務などで利用される場面を知ることができて、それのみを扱うところ以外でもニーズがあるので、知識を広げる意欲がわいた。	テーマとしては少しひろくなってしまいが、モバイル技術に関するテーマを聞いてみたいと思う。 また、クラウドコンピューティングについてや3Dディスプレイ、エネルギー技術に関するテーマを聞けたらおもしろいと思った。
6/2 スマートフォン（iPhone、android）の動向と拡張現実（AR）での動向 各携帯電話会社が最近競って販売している端末について詳しく理解できた。身近な内容で興味が持てた。	
もともと iPhone に興味が一番あったことと話を聞く側に振っている点から特に印象に残った。 7/14 の講義は話もおもしろく参加型であったこと。	インテル OS について
Android、富士通	インターネット
日本ユニシス 今後流行しそうな技術だったから。	3D 技術の今後について
NGN、スマートフォンについての講義。 最新のネットワーク技術に関する話を聞くことができたので。	やはり最新の研究についておしえてくださるような内容には興味がある。
7/14 の「あなたは就職活動で失敗するのか（発想力と気づき）」の講義で行ったグループワークが大変印象に残っています。 同じ事象に対して、人はそれぞれ異なることを考えており、中々共通な認識を持つことは難しいということを感じました。	通信ネットワーク系の企業の話
7月14日の就職活動の話がよかった。	スマートフォン等自分たちの生活と結びつきの強いもののおもしろいと思うので、そのような物についてのテーマをきいてみたい

JEITA 講座に対する意見・要望等、自由にご記入下さい。
大学院生になって研究室に所属所属するようになると、自分の分野の話しか聞けなくて視野が狭くなってしまいますので、JEITA 講座で幅広い分野の話が聞けたことはとても自分にとって有意義だった。
企業の方々に、お話を聞ける機会はあまりないので、よい経験ができたと思います。今話題である、ワンセグやスマートフォンについては詳しく聞くことができてよかったです。今後、どのようなものを目指していくかについてもお話を聞けたらいいと思いました。よい経験ができてよかったです。
情報系の中でも様々な業界の現状や目標等を知ることは出来たが、参加して下さった企業の独自の理念や強みといった面はあまり多くの企業の方は語らなかったため、就職活動する際の印象付けということでも企業そのもののプレゼンもしてほしかったです。
情報や機器等の専門的な知識を持っていなかったため、難しいなと感じる講義もありましたが、新しい発見ができた講義も多々あり、ためになりました。 これからも、最新の情報や新たな発見を与えてくれるこのような講座を続けていってほしいと思います。
JEITA 講座で聞ける講義の内容で、その技術の紹介だけでなく、その技術に応用されている知識なども話せる範囲で話して欲しい。
参加型が多いと楽しく聞けると思う。
とても今後の生活の参考になりました
最近、はやりのスマートフォンなどのようなものに関する研究はいろんな分野で応用されて使われているので、今後一番身近なものとして発展していくと感じた。
多種多様な講義が聞けてとても良かったです。 ただ、できれば講義を聞く人数が多いのももう少し大きな教室でやっていただけると嬉しいです
とても参考になるのでつづけてほしい

特に印象に残った講義と、その理由について記入ください。	今後、聞いてみたいテーマがございましたらご記入ください。
<p>「あなたはなぜ就職活動で失敗するのか」が印象に残った。 他の講義も、先端技術を学べ良かったですが、少し難しく知らない用語もあり理解できないこともありましたが、その点この講義は分かりやすかった。 あと、一番身近ですぐ初まる就職活動だったので興味がありました。</p>	<p>自分が研究しているテーマでもあるので、画像処理について聞いてみたいです。</p>
<p>地上デジタル放送とワンセグ受信技術 身の周りに当然のように存在するようになった技術がどのように今日の姿になったのか、ということには非常に興味がある。 この講義ではそういった面を強く感じる事ができたから。</p>	<p>アミューズメント、エンターテインメント系技術の話を知りたい</p>
<p>ロボットと医療分野の内容については、自身も関連しており、個人としても身近に関わる技術であったため、どの程度まで実現できているのか聞くことができ、非常にためになりました。 全般として、各企業の動向や講師の苦労話などが聞け、貴重な経験でした。</p>	
<p>第7回の講義が今後発展していきそうな技術をもっとも実感することが出来た。 第13回の講義で行ったリクリエーションも新鮮で良かった。</p>	<p>引きつづき IT 技術の最先端の話が聞きたい。</p>
<p>7月14日の“あなたはなぜ就職活動で失敗するのか(発想力と気づき)”が印象に残りました。理由としては、グループワークがあり、能動的に受けるタイプの講義だったからです。5月19日、6月2日のテーマも通信の技術や利用法、インターフェイスとしてのスマートフォンについてなど、興味深い内容だと感じました。</p>	<p>HDD、SSD、USBメモリ等（あるいはブルーレイ、DVD、CDなど）、データを記録するデバイスの技術的な解説や実際に企業がカスタマーとしてインフラを提供した具体的な事例などが聞いてみたいです。（権利上の問題があるかも知れませんが） 他には、映像ケーブルやUSBケーブル等、そういうデータを伝達するためのケーブルについての先端技術に関する話が聞いてみたいと思いました</p>
<p>情報セキュリティの基盤技術 自分が暗号を研究しているから。 正直どういった場面に役に立つかわからなかつたけど、そういった部分を補えたから。</p>	<p>テーマというわけではないけど、これらの技術を身につけるために必要な知識の手に入れ方などがあると、より深く理解できるかもしれない。</p>
<p>講義の仕方でも印象強いのは、富士通さんの「あなたはなぜ就職活動で失敗するのか」でした。やはり、聞くだけよりも自ら動いて考える時間が存在すると分かりやすいです。 また内容では、地上デジタル放送とワンセグ受信技術が印象的でした。現在の状態に至るまでの経緯や問題等、開発者側から視点がよく見えました。</p>	<p>私は愛知県の出身でまだ就職先も愛知県内を強く志望しています。そこで、愛知県の企業と言うと自動車関連の仕事も多く、情報技術は自動車においても利用価値が高いと考えています。 よって、自動車関連企業の情報分野の話を知りたいです。このご時世だからこそその考えや、新しく検討している技術の話をお聞かせ願いたいです。</p>
<p>スマートフォンの動向とARでの活用 目玉のおやじの頭が上下にカクカク触れるのがシュールだった。</p>	
<p>スマートフォンやPCの拡張現実が印象的だった。 どのデバイスでも段階をふみ、同じような道をたどっているのが面白かった。未来を感じさせた。</p>	<p>同じ企業の人も何人かいたが、より多くの会社の話を知りたい。</p>
<p>「人間共存環境を目指したロボット研究開発」東芝研究開発センター 松日榮信人さん。 自分の研究に近くもっとも興味があったから。</p>	
<p>脈派センシング技術への期待の講義は実際に脈派を計測できる腕時計の実物を触ることができてスライドで見ただけでなく、体験することができたことが印象に残っています。また、この脈派時計を開発する開発費と実際に市場に出そうとした場合、開発費を回収できるような値段設定では、実際に販売する上では値段が高くて販売してもらえない会社とギャップが生じてしまうことがあり、ただ作るだけでなく、その後の売るといことも見据えてなくてはならないと思いました。</p>	<p>近ごろ、3D映画や3Dテレビ、ニンテンドー3DSなど3Dが目ざれているので、3Dに関する現在の技術とこれからの生活への関わり方を聞きたいです。</p>
<p>富士通様の講義は他の講義と毛色が違い、周りの人との相談もあったので印象深かったです。東芝様の講義は大学の延長上にあるような感じがしたので印象深かった。</p>	<p>コミュニケーションロボット等のエンターテインメント性のあるロボット関係</p>
<p>情報セキュリティの基盤技術暗号技術の最新動向（三菱電機）の講義は、自分が暗号を勉強していることもあり、あの松井充さんに話をきけたのはよかった。 また、富士通の方の講義は、今までと違ってグループをつくり、先端技術とは違いかも知れないが、会社の方の話がきけて大変興味深かった。</p>	<p>今はやりという点でクラウドやスマートフォン、LTEといったテーマや、ここで思いつかないような自分の知らない、異なる分野の最新技術に関するテーマ</p>
<p>「電子カルテが拓く未来と医療」の講義で、良いシステムでもふきゅうには時間がかかること</p>	
<p>光ファイバーについては研究室においてとりあつかっている人がいるので興味深かった</p>	

JEITA 講座に対する意見・要望等、自由にご記入下さい。
講座を取っている人数が多いため席に余裕があまりなかったのもっと大きい教室にしてもらいたかった。
これからも学生に刺激を与えてほしいと思う
IT アーキテクトの役割 (5/12) は配布資料の半分しか講義が進まず残念であった。講座の内容によって、時間の最後の方になると簡略化してしまうことが半分程度あったと思います。
実際に作成した物をもっと見せてほしかった。 空想上のロボットや技術が可能かどうかの検証もしてほしい。
講座児たちには現在のままでいいと思うのですが、他の授業との兼ね合いで、懇談会と授業が重ならないようにした方がよいのではないかと思います。
話し方によっておもしろい話もつまらなく感じることもある。 少し改善した方がよいものもあると思う。
様々な企業側からの視点を見ることができ、開発者側の意識している事やものごとの捉え方等に触れられる、良い機会となりました。 また、自分が行っている研究と無関係かと考えていた企業との意外な接点を知り、今後の就職活動の対象となる業種が増えました。ありがとうございました。
全体的に固い話が多く、頭に入らなかった。 職業適性検査やインターンシップと被っていた。
毎年入れかえて、一度授業をとった人でも、また聞きにこれたらいいと思う。
興味深い話がたくさん聞けて非常に楽しかった。
席が足りずに立って講座を受ける人が出ていたので全員席がたりるような場所でおこなってほしい。
企業の話が聞ける機会をいただきありがとうございました。
このような最新の技術動向と、その一線で活躍している人から聞けるのは、とても有意義なことだと思う。 懇親会で直接お話をきける、というのもいい点だと思った。 ただ、懇親会に来てくださった方でなく、学校の先生が長々と話しているようなときもあったので、それは少し本末転倒な気もした。
ためになる講義でした。
さまざまな企業の方のお話がきけたのでよかったですと思います。 就職活動で企業を選ぶ際、どのようなことをおこなっているのかわかり参考になった。

9. 北陸先端科学技術大学院大学（各行は同一受講生のコメント）

特に印象に残った講義と、その理由について記入ください。	今後、聞いてみたいテーマがございましたらご記入ください。	JEITA 講座に対する意見・要望等、自由にご記入下さい。
・通信技術系の会社 ナノテクノロジー分野の技術力の低下、GDP の低下の原因、世界情勢 ソフトウェア、コアプロセッサ、並列計算処理に関すること←専門的な分野（特に PC、cell phone 系）	光通信用材料について、聴きたかった。(光ファイバー、フォトニクスデバイスなど)	携帯電話が多機能化してきているが、その必要性はあるのか？今後の携帯の進化は？
・水平思考 角度を変える→（研究開発に要した時間 vs 効率、最初は伸びるが後はあまり伸びがない。） →何が必要 促進のために	優良企業、成長企業の見分け方	私は、M1 のころにイノベーションセミナーに 3～4 回参加しましたが、どれも素晴らしいセミナーばかりでした。
わくわく感がなければ、良いものにつくれないこと、という考え方が、自分の考え方と合っていて共感ができた	学生に望むこと	
イノベーションを起こす、集団の在り方と今回の話が結びつくものがあつた	エンジニアの方々の苦勞話、経験	
マネジメント力等、会社に入ってからのことをあまり考えたことがなく、これから考えなければと思った	Sier からみた、開発の現場が抱える問題など	
意思決定をする際に、苦しいことを将来の自分にプラスになるんだという価値観を持つことが印象に残りました。理由は、自分自身が成長する鍵の一つになると感じたからです。		
ウォーターフォールモデルについて引っかかるような表現があつたのが気になった。		
トップダウンだけでの開発は良くない（問題がある）とお考えなのかと思いました。		
会社独自の IT スキル標準のしくみ等、社会人（IT 技術者）も将来について不実？悩んでいること。		
技術者は今コンテンツとしている、悩んでない奴は、技術者じゃない。		
全体的に難しい話だと思った。		
理解できない、知らない単語がたくさんでてきて、わからない部分が多かつた。		
もっと知識を増やしていかなければいけないと思った。		
技術を通じてお互いの見解を深めていく		

付録 2 2010年度JEITA講座講義テーマ

付録2 2010年度 JEITA 講座講義テーマ

No	講義テーマ	講義概要
1	センサネットワーク最新動向	近年、注目を集めているセンサネットワークの概要を説明し、事例などをまじえて最新のトピックスと展望について説明する。具体的には、以下の項目について講義を行う予定。 ・センサネットワーク概要 ・要素技術の動向 ・事例紹介 ・今後の展望
	沖電気工業（株）	
2	対話によりユーザの真のニーズを見える化する「ラダリング型検索サービス」	2007年から3年間、経済産業省「情報大航海プロジェクト」の実証事業として開発したラダリング型検索サービス「ラダサーチ」について、その概要／価値／技術／ビジネス展開を紹介する。ラダリング型検索サービスとは、利用者に質問を投げかけ対話を繰り返すことにより、利用者自身では明らかにできない心の中を「見える化」し、その得られた情報で外部情報とマッチングを行うことができるシステム。
	沖電気工業（株）	
3	最新 LED プリンタ用光書込みヘッド技術	電子写真方式プリンタ（光学式プリンタ）の書込み光源に使われているLEDヘッドについて、その基礎であるLEDデバイスからヘッドアッセンブリまでの概説及び、書き込み光源としての技術課題とその解決について講義。また第5回新機械振興賞で経済産業大臣賞を受賞したエピフィルムボンディング技術を紹介する。 1. LED 開発の歴史と市場 2. LED 応用事例 3. 電子写真方式プリンタ方式説明 4. プリンタ光源の課題 5. LED ヘッド キー技術 6. エピフィルムボンディング技術
	(株) 沖デジタルイメージング	
4	ソフトウェア・プロというキャリア ～カナダ赴任経験を交えて～	今日の企業におけるソフトウェア開発はプログラミングそのもの以外に多岐にわたる能力・スキルが要求される。このセッションではカナダのソフトウェア R&D 拠点との連携の実際、企業におけるソフトウェア開発のプロセス及びエンジニアリングの両面での取り組みの現状、カナダの大学における産学連携事情と日本の事情との比較などを通して、企業で国際的に活躍するソフトウェア・プロに求められるものを紹介する。
	セイコーエプソン（株）	
5	実装イノベーションが切り拓く高付加価値型電子デバイス	実装イノベーションと称する超高密度の Wf スケールパッケージング技術が、電子デバイスの付加価値向上にどのように結びつくかを概説する。インクジェット実装技術、W-CSP(Wafer level - Chip Size Package) 技術、TSV(Through Silicon Via) 技術、Embedded W-CSP 技術、樹脂コアバンブ技術など最先端の実装技術とその技術の持つ意味をわかり易く説明する。
	セイコーエプソン（株）	
6	地球温暖化と電子デバイス業界における課題と対応	地球温暖化の影響と、電子デバイス業界における環境影響を紹介し、今後のデバイス産業における環境配慮工場・デバイスについての方向性を議論したい。その中では、たとえば、デバイスプロセスで多用される温暖化ガスPF6のインパクトや、削減活動の紹介をおこない、その中で開発されたPF6の簡易計測方法の開発背景も説明したい。その後、この簡易計測方法は”エプソンメソッド”として国内業界で標準的な計測方法となり、JEITA・SEAJでのデファクトの計測方法として、ガイドライン化されており、それらの背景や意義を説明したい。環境技術に対する本質的な議論になればと思います。
	セイコーエプソン（株）	
7	インクジェット技術で広がるカラーイメージングの世界	インクジェットプリンタのキーデバイスであるヘッド・インクについて簡単に紹介した後、これらのデバイスの特性を生かして写真画質を達成する画像処理技術について詳細に解説する。最後に、画質の評価技術についても簡単に触れる。
	セイコーエプソン（株）	
8	脈波センシング技術への期待	循環動態の概要を説明した後、ウェアラブル型生体計測の具体的な開発事例と今後の展開について解説する。具体的には、以下の項目について講義を行う。 ・循環動態の非侵襲的計測とは ・ウェアラブル型生体計測の開発事例 ・社会基盤となるための課題 ・今後の展開
	セイコーエプソン（株）	
9	次世代自動車（電気自動車、ハイブリッド車、燃料電池車）の電源システム	電子化が加速する自動車。伸張著しいハイブリッド車に搭載が進むパワー・エレクトロニクス・システムについての紹介と次世代自動車向けに開発の進むパワー・エレクトロニクス・システムの未来の可能性について。
	TDK（株）	
10	ナレッジマネジメント	企業の競争力の源泉である知識資産を有効に活用・運営するためのナレッジマネジメント手法、および、知識検索、マイニング、コミュニケーションマネジメントなどの技術について事例を交えて紹介する。
	東芝総合人材開発（株）	
11	ヒューマンインタフェース	企業におけるヒューマンインタフェース技術の活用について、実習を交えて解説する。
	(株) 東芝	
12	音声認識	音声認識の基本原則から応用、現在のビジネス状況などについて解説する。
	(株) 東芝	

No	講義テーマ	講義概要
13	生活支援ロボット	最近のロボット技術の動向と東芝の取組みについて紹介する。ビデオでロボットの動作を紹介し、現状の技術レベルや今後の課題などを分かりやすく解説する。
	(株) 東芝	
14	高速・大容量無線通信	無線通信の分野において、より高速・大容量な通信を実現するための技術について説明し、最近の研究・開発の動向を紹介する。
	(株) 東芝	
15	画像認識技術	画像認識技術は安全安心を始めとした様々な産業分野でコア技術になることが期待されている。コンピュータビジョンやパターン認識技術のITSやセキュリティ等での具体的な適用事例を通し、画像認識技術の基礎的な知識と最近のトピックスについて解説する。
	(株) 東芝	
16	情報ネットワークと危機管理	情報ネットワークの利用に関わるリスクと、その対策、管理の方法に焦点を当てます。各論の一つとして、情報セキュリティのあり方を検討します。個人情報や技術情報の漏洩、映画・音楽などデジタルコンテンツの不正利用などの事象に対する危機管理方法を検討します。各論のもう一つとして、各種の業務情報の管理のあり方を検討します。投資判断ミス、ソフトウェアの品質問題などのリスクを取り上げます。
	東芝ソリューション (株)	
17	自然言語処理技術の業務への応用 ～業務文書の整理分類、 内容チェック～	企業や官公庁の業務では、様々な文書が作成され、交換され、役割に応じてその文書を見直したり、承認したり、あるいは他の企業に送付したり外部に公表したりします。また文書は蓄積され、組織の知識として活用されたり、業務の証(あかし)として監査などで参照されたりします。こうした業務文書に関し、不適切な表現や、表記の誤りを発見し、文書の品質向上を支援する技術、大量の文書を業務の目的に沿って分類整理したり、文書間の関係を探り、文書群としての管理を支援する技術について紹介します。
	東芝ソリューション (株)	
18	ITシステムのセキュリティ設計技術	ITシステムのセキュリティ構築、とくにその設計技術を概観する。 セキュリティは暗号だけで成り立つものではないが、そのことはほとんど認識されていない。そこで本講では、ソフトウェア工学とセキュリティ技術の学際領域であるこの分野の「いま」を、わかり易く講義する。 また上記を主題としつつ、企業研究者に求められるリテラシーと姿勢、仕事の現実、キャリアなどの話題をサイドストーリーとして絡ませることで、企業人として生きる現実が立体的に伝わるよう試みる。
	東芝ソリューション (株)	
19	ITパラダイムシフトとITアーキテクトの役割 (SOA, Cloud Computing そして Enterprise Architecture)	ITアーキテクチャのパラダイムシフト、SOA、Cloud Computingの価値、Enterprise ArchitectureとITアーキテクトの役割を講義する。 ITの世界はイノベーションの連続であるが、いまSOAやCloud Computingが話題となり、一段と劇的なパラダイムシフトを迎えつつある。このようなパラダイムシフト自身の意味を解説するとともに、鳥瞰的な視野でイノベーションをリードできるIT職種としてITアーキテクトが重要な役割を担うことを解説する。
	日本アイ・ビー・エム (株)	
20	コンタクトセンター最新技術動向	コンタクトセンターは企業の顧客接点として重要な役割を担っています。最近では交換機のIP化やアプリケーションのSOA化により、企業全体のコンタクトセンターを統合し、オペレーションの最適化によるコスト削減や顧客満足度の向上を目指す動きが出て来ています。最新のコンタクトセンターにおける技術動向について、分かり易く解説します。
	日本アイ・ビー・エム (株)	
21	企業における情報共有 ～コラボレーション 2.0の世界～	企業の中で仕事をするときどうやって情報共有をしているか興味ありませんか？ 企業内の情報共有やコラボレーションの方法は時代とともに変化しています。実は、皆さんが使っているインターネットの世界で最近話題になっているWeb2.0やSNS(Mixiに代表されるソーシャル・ネットワーク・サービス)の技術や考え方が、企業内にも次々と導入されているのです。この講義では、IBM内の身近な例を紹介しながら、企業内情報共有基盤の動向や製品について紹介します。
	日本アイ・ビー・エム (株)	
22	ITアーキテクトの価値と重要性	経済産業省が2002年末に発表したITスキル標準(ITSS)でITアーキテクトという職種が規定されました。本セッションでは、ITアーキテクトが主体的に取り組むITアーキテクチャとはいかなるものか、なぜ重要であるかについて説明するとともに、ITアーキテクトがシステムを構築する上で他のITプロフェッショナルとどのように関わるのか、また、ITアーキテクトを目指す技術者にとって、どのようなキャリアが想定されるかについて解説いたします。
	日本アイ・ビー・エム (株)	
23	日本社会におけるセキュリティリスクとセキュリティ対策技術	現代社会で発生している事件に関する公的レポートを分析し、情報セキュリティにおける一般的なリスク及びその対策方法について解説する。
	日本アイ・ビー・エム (株)	
24	NGNが実現するユビキタス社会 ～次世代のネットワークは どこへ向かうのか?～	2008年から商用サービスが始まったNGN(Next Generation Network)の概要を紹介し、個人、企業、社会へ与える影響を解説する。以下のような内容を想定。 ・NGNとはどのようなもので、なぜ今NGNの構築が進められているのか？ ・NGNによってどのようなユビキタス社会が実現するのか？ ・NGNで我々の暮らしや企業活動はどう変わるのか？ ・IPv4アドレス枯渇の状況と次世代のインターネットへの影響は？
	日本電気 (株)	

No	講義テーマ	講義概要
25	次世代PC動向	PCの家庭への普及が進み、家庭に一台の時代から一人に一台の時代に移ってきています。このためPCユーザの年齢層、利用目的、利用場所も多様化する状況で、今後PCはその多様なニーズを満たしていく必要があります。本講演では、上記多様なニーズに対応したPCの最新商品トレンドを紹介するとともに、次世代PCを支える将来の技術トレンド(高速ネットワーク技術、メディア処理技術、ユビキタスコンピューティング技術、ユーザビリティ技術など)をわかりやすく解説いたします。
	NECパーソナルプロダクツ(株)	
26	安全・安心を支えるセンサ技術	非冷却赤外/THzセンサおよび冷却赤外センサの要素技術、つまりセンサ用材料技術、デバイスプロセス、評価技術に関して、講演することができます。
	日本電気(株)	
27	地上デジタル放送とワンセグ受信技術	日本の地上デジタル放送(ISDB-T)技術の特徴を説明した後、携帯電話搭載のワンセグ受信機技術動向などを解説する。具体的には、以下の項目について講義を行う。 ・日本の地上デジタル放送概要 ・ISDB-T放送技術 ・ワンセグ放送/デジタルラジオ放送サービス ・ワンセグ放送における通信・放送融合サービス ・ワンセグ受信機技術動向、課題 ・今後の展望
	日本電気(株)	
28	インターネットプロバイダーで活用されるIT技術とその最新動向	インターネットプロバイダーの基盤であるネットワーク、データセンタ、それらを監視・運用しているシステムについて、IT技術をどのように組み合わせて実現しているか概説する。また、最近の話題であるNGNとインターネットとの関係や、データセンタサービスからクラウドコンピューティングへの発展の過程等について紹介する。
	NECビッグロブ(株)	
29	宇宙通信システムの研究開発動向と将来	宇宙通信システムの研究開発について、わが国で開発された技術試験衛星8型(ETS-VIII)、超高速インターネット衛星(WINDS)を中心に紹介するとともに将来に向けた技術開発課題と展望について講義する。
	日本電気(株)	
30	組み込みシステムとは何か?	最近新聞で「組み込みシステム」という言葉が使われているが、この組み込みシステムとは何か?をマイコンの活用例を含めて紹介する。組み込みシステムの市場動向。
	日本電気(株)	
31	システムLSI設計方法論	システムLSIの設計、デバッグ、検証 FPGAの活用法、LSIのマーケティング 単なる理論的な話ではなく、企業でのLSI製品化経験も含む
	日本電気(株)	
32	ユビキタス社会における情報活用技術	ユビキタス情報化が進展し、Web上に発信された様々な情報に加えて、センサーやカメラを介して実世界の人・物の情報までもが、コンピュータ/ネットワーク側に取り込まれるようになった。このようなサイバー世界/実世界の多種多様で膨大な情報を収集・分析し、安心・安全、便利・快適、正確・効率、エコ・省エネ等へ活用していくための技術開発について紹介する。
	日本電気(株)	
33	バイOMETリックシステム	バイOMETRICSによる個人認証技術について、特に指紋および顔の特徴抽出処理、照合処理の原理、精度評価方法、国際標準化動向などについて述べる。
	日本電気(株)	
34	マイクロ波リモートセンシングとインテリジェンス	マイクロ波リモートセンシング技術の基礎を概説した後、特に合成開口レーダ(SAR: Synthetic Aperture Radar/映像レーダ)の原理・特徴およびSAR画像の実利用について紹介します。また、可視光とは全く波長が異なる電磁波であるマイクロ波で撮影した写真の見方(判読方法)について述べます。 さらに、取得した画像を有効活用するために必要不可欠なインテリジェンス(意思決定のために必要な知識)の生成~インテリジェンスシステムについて紹介します。
	日本電気(株)	
35	システムエンジニアの仕事ー地球シミュレータの構築を通してー	世界一高速なスーパーコンピュータの構築事例を通して、システムエンジニアの仕事を紹介し、コンピュータ技術だけでなく、企業での業務には問題解決とプロジェクトマネジメントの能力が必要であることを示す。 講義の前半では、システムエンジニアの業務概要を紹介し、顧客の課題解決のためにICT技術を駆使していることを紹介し、後半では地球シミュレータ構築時の苦労話を通してプロジェクトマネジメントの方法を紹介する。
	日本電気(株)	
36	スーパーコンピュータ入門	現在の代表的なスーパーコンピュータのアーキテクチャを概観しながら地球シミュレータを代表とするベクトル型スーパーコンピュータの特徴を示し、高速計算の手法を紹介する。高速計算を今後必要とする学生へのコンピュータアーキテクチャの入門とした位置づけの内容である。
	日本電気(株)	
37	時空間ユーザーインターフェースと情報システム	時空間情報の扱いに特徴のある携帯電話とWebアプリケーションを組合せたシステム事例を元にして、情報システムに関する近年の話題について説明する。 ・実装技術ーWebアプリケーション、タブレット、RIA、Google Maps API、など ・企業内情報システムとパブリックな情報システムの特徴 定型データと非定型データ、システム統合とマッシュアップ、Web2.0、集合知、フォークソノミー、クラウド、など
	日本ユニシス(株)	
38	スマートフォン(iPhoneやAndroid)の動向と拡張現実(AR)での活用	スマートフォンを携帯電話の進化系ではなく、クラウド・コンピューティングの入出力デバイスとして捉えている。スマートフォンがデバイス機能だけでなくサーバ機能やハブ機能を有する場合について述べる。拡張現実(AR)の一例としてセカイカメラやLayarを例に今後の活用について述べる。合わせて日本ユニシスでの実証実験や事例を紹介する。
	日本ユニシス(株)	

No	講義テーマ	講義概要
39	技術者視点からみた IT 企業における技術者キャリア (スキル) アップについて	IT技術者に必要な専門性が多様化してきています。また、技術進化のスピード、ITの利活用のシーンの変化を受け、技術者に求められる素養も変化してきています。そのような中、今の業界にいるIT技術者がどのような課題や環境に直面しているか、IT業界での技術者像やスキルアップについての状況を、Sierの技術者視点で社内外の育成体系に関わってきた経験を活かしてわかりやすく解説します。
	日本ユニシス (株)	
40	VOC(Voice Of Customer) の全社的活用を妨げる “壁”	顧客志向経営とVOCの重要性は多くの企業で認められてきています。その一方で、実際にVOC活用を志しつつ、その道程でさまざまな壁に阻まれ、ゴールに行きつかない企業も散見されます。本事例研究では、VOCの全社活用を阻害する課題を整理するとともに、活用推進に至った企業の事例を紹介します。
	日本ユニシス (株)	
41	在宅率予測と架電スケジューリング	顧客イメージアップ、不在時の架電を削減のために時間帯別に顧客が在宅している確率である在宅率を予測し、在宅しているようなタイミングで架電することができるスケジューリングシステムの技術紹介。
	日本ユニシス (株)	
42	今後の企業におけるセキュリティ対策	企業におけるセキュリティ対策は、個人情報保護法や金融商品取引法などの様々な法令、規格などに基づいて行わなければならない。そうした中で企業は、投資対効果および有効性の高いセキュリティ対策を模索している。本講義では、今後の企業におけるセキュリティ対策について、幅広い視点から、効果、有効性を高めるための工夫、方法などについて紹介する。
	日本ユニシス (株)	
43	業務の可視化	最近、日本においても業務の可視化への関心が高まっている。日本ユニシスではビジネスプロセスの可視化を中心とした業務の可視化サービスを提供している。お客様にとっての業務の可視化の目的としては、ビジネス改革、システム開発など様々である。本講義では、業務の可視化の手法の紹介とともにその意義・目的について説明する。
	日本ユニシス (株)	
44	薄膜化技術	各種薄膜形成評価技術についての基礎と、原子オーダーで制御されて機能する金属、誘電体薄膜の設計・合成と機能評価ならびにその応用について授業を行います。
	パナソニック (株)	
45	ITと地球環境 ～持続可能な社会の実現に向けて～	人類共通の緊急課題である地球環境問題。講義を通じてその現状を認識するとともに、課題解決に向けた電機電子業界の取り組み、特に製品・サービスにおける取り組みを解説する。そして、一見、地球環境との関わりが無さそうなITが、実は最重要課題である地球温暖化を解決に導く可能性を秘めていることについて論じる。
	富士通 (株)	
46	ソフトウェア開発技術	ビジネスアプリケーション開発に関して、全体像と新しい要素技術、適用事例などを解説する。 ・日本のソフト開発の現状 ・開発プロセス ・設計技術 (UML)、開発環境 ・新しい要素技術 (XML, Web サービスなど) と事例 ・今後の展望
	(株) 富士通研究所 (兼: 富士通)	
47	ソフトウェア開発のモデル ～ベンダにおける実践例を中心に～	富士通のソフトウェア開発部門で実際に行っている大規模開発プロジェクトを例題として、ソフトウェア開発モデル、特にソフトウェアの品質を如何に高めていくかについて具体的な方法論を中心に解説する。
	富士通 (株)	
48	電子カルテが拓く未来の医療	安心安全な医療の実現、病院経営の改善と効率化、地域の医療供給体制全体の効率化など今日の医療が抱える課題解決のキーテクノロジーとして電子カルテが注目を集めている。 電子カルテを始めとする医療情報のIT化について、歴史及び現状、目的と機能、課題と今後の方向性について紹介する。
	富士通 (株)	
49	大規模ICTシステム開発に必要な基本知識・原理原則	言語や技術などの専門教育ではなく、ICTシステムの構築 (ソフトウェア開発) について、いろいろな観点から広く捉える講義です。 身近な例を使いながら、基本的でかつ本質的な知識を身に付けてもらうのが本講義の狙いです。また、技術系学生向けには、ソフトウェア方式設計の重要性や方法論についても事例ベースで学んでもらいます。 主な内容は下記。 まず、ICTシステムが大規模な社会システムになってきたこととそのため高い信頼性や高い品質が求められることを事例等を通じて紹介します。 次に、実際に大規模社会システムを構築する上でどんなことが期待されているのか、どんな課題があるかをいろいろな観点から紹介し、また、一部についてはそれをどう解決している、しようとしているかについても紹介します。 また、実際にソフトウェア開発を行う上での基本的な考え方を説明します。 具体的には、大規模ソフトウェア開発はどのような手順で行うか、たくさんの人から構成されるプロジェクトとして行うこと、プロセスや言葉の標準化が重要なことなどを説明します。プロジェクトマネジメント、ソフトウェアエンジニアリングの基礎とも言えます。 また、技術実際に起こった社会システムトラブルの原因を分析し、ソフトウェア方式設計のための基礎となる技術を理解してもらいます。 最後に、日本の ICT 業界の環境として、ICT人材の観点から、日本の社会・産業環境をインド・中国などと比較しながら紹介するとともに、どのような人材が求められているか、国・企業・大学の取組状況や日本のグローバルソーシング状況も紹介します。
	富士通 (株)	

No	講義テーマ	講義概要
50	事例から学ぶ高信頼性システム構築・ソフトウェア開発技術	<p>高信頼性システムの構築やソフトウェア開発の技術について、幅広く解説する講座です。メタレベルの枠組みや位置付けなどや企業の現場で必要とされているスキルや問題解決の方法も解説します。</p> <p>内容的には、官（経済産業省等）、産（ユーザ、ベンダ）の取組状況を紹介し、全体フレームとしてまず理解してもらう。</p> <p>そして、実際に起こった社会的なトラブルについて、その事象・原因を分析することにより、高信頼性システムを構築・開発するための基本としている技術・ノウハウなどを紹介します。また、品質を保证するためのソフトウェア設計・開発技術も紹介します。</p> <p>最後に、日本のICT業界の環境について、ICT人材の観点から、日本の社会・産業環境をインド・中国などと比較しながら紹介するとともにどのような人材が求められているか、国・企業・大学の取組状況や日本のグローバルソーシングへの取組状況も紹介します。</p>
	富士通（株）	
51	衛星打上げ運用を支えるシステムエンジニアの仕事	<p>宇宙開発分野におけるシステムエンジニアの果たす役割について、人工衛星の追跡管制・軌道決定システムを実例に、その技術面、ならびに高信頼性実現のためのシステム管理面の観点から、現状と将来について概説します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇宙開発分野におけるシステムエンジニアの役割 ・人工衛星追跡管制システムと軌道決定業務 ・ソフトウェア開発と信頼性の確保 ・衛星打上げに関する一連のエンジニアリング作業 ・今後の人工衛星における展開 <p>なお具体的に紹介する実例については、適宜新しい内容に変えながら講義していきたいと思えます。</p>
	富士通（株）	
52	コンピューターシステムの品質保証と知的財産について	<p>職業人によるコンピューターシステムの品質保証、知的財産創造におけるノウハウを伝授する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. ソフトウェアの品質管理 ・プログラム開発と品質指標 ・ISO9001 ・ISO20000 2. 創造力養成手法 ・発明のポイント ・特許法 ・ヒラメキのつくりかた
	富士通（株）	
53	1. 社会インフラにおけるIT（物づくりの本質とコミュニケーションの重要性） 2. あなたはなぜ就職活動で失敗するのか（発想力と気づき）	<p>1. 【社会インフラにおけるIT】 ITベンダーが世の中でどのような役割を担っているかについて、自身が富士通のシステムエンジニアとして経験した25年間を生々しく語り、物づくりの本質について考えさせる。講義には情報の取り扱いやセキュリティに関する話題及びコミュニケーションができないことに対する警鐘について理解を深め、自身を振り返ってもらう。</p> <p>2. 【就職活動必勝法（あなたはなぜ就職活動で失敗するのか）：発想力と気づき】 プロジェクトマネジメントにおいて最も重要なものは、発想力とコミュニケーション力である。物づくりの本質において、既存のものからジャンプして新たなものを作り出す発想がないと日本経済は競争力を失う。本講座は物を考える思考について考えさせ、複数人が協力したゲームを通して、自分自身の所作や考え方に対して気づきを得ることができる。</p>
	富士通（株）	
	プロジェクトマネジメント講座全般に対応可能だが、近年の講義においては上記のように分かりやすいタイトルをつけている。	

No	講義テーマ	講義概要
54	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウド時代の品質管理 ・メンタリングを活用した品質管理スキルの向上 ・システム開発における品質改善／品質保証 ・システム開発における品質管理の実践方法 - ISO9001の呪縛にとられない品質マネジメント ・システム開発部門における小集団改善活動の取り組み - 生産ライン以外での「カイゼン」の進め方 	<p>システムサービスにおける品質管理のポイント メンタリングを活かした品質スキル向上 ソフトウェアシステム開発に関して、品質改善の概要と適用事例を解説する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・システム開発における品質改善の考え方と実践事例 ・ISO9001のソフトウェア分野での活用事例 ・ISMSのソフトウェア分野での活用事例 <p>ソフトウェアシステム開発における品質管理／品質保証の考え方および実践的手法を解説する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・品質マネジメントの基礎と実践 ・品質保証の事例 <p>ソフトウェアシステム開発部門における小集団改善活動の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小集団改善活動の特色と活動事例 <p>ソフトウェアシステム開発における品質スキル向上</p>
	富士通（株）	
55	プロジェクトマネジメント	企業の経営戦略や事業戦略および各プロジェクトを成功に結びつける実践的なマネジメントを解説する。プロジェクトの計画から運用運営に不可欠なマネジメント力を身につける。プロジェクトマネジメント概論、プロジェクトの知識体系（PMBOK等）、プロジェクト計画の策定手順。プロジェクト企画書の手順。プロジェクト失敗の条件と成功の条件。プロジェクト事例紹介、失敗パターン
	富士通（株）	
56	銀行業務におけるITの役割	銀行業務内容（融資・企業分析・経営計画・ALM等） IT業界における銀行業務知識の役割
	富士通（株）	銀行業務におけるITの必要性和その役割（日本と米国との比較） 銀行業務におけるシステム監査
57	講義テーマ例 1)「非機能要件をどう合意するか？」 2)「大規模システムの設計と構築」 3)「ITアーキテクトという仕事」 4)「技術が世に出るまで」 5)「実学のススメ」など	講義概要例 1) 近年、設計構築されるシステムはますます複雑化し、大規模なものも増加している。こうしたシステムがどのように設計され、構築されているのか技術的な側面から詳説する。 2) 非機能要件：システム発注者側と受注側ですれ違いの起きやすい非機能要件、これが現在ではシステムのトラブルのもっとも大きな原因となっている。非機能要件をどう見える化するかなど「非機能グレード検討会」や「ユーザレビュー検討委員会」、「グレード評価委員会」での経験を含めて幅広く語る。 3) ITアーキテクトとはなにか？ 求められるスキルからアーキテクトの役割、エンジニアとしての仕事のやりがいまでざっくばらんに語る。 4) さまざまな研究が応用・実学をへて製品やシステムとなる流れを語る。負荷分散技術やセキュリティ技術などを例に、学問と産業の両側面からアプローチする。
	富士通（株）	
58	システム開発現場におけるプロジェクトマネジメント	テースタディーで開発現場でおきるさまざまな問題をどのようにマネジメントしていくのかを体験してもらう。 ・PMBOKの解説と理解。 ・理論と現場のギャップを把握し、課題を抽出し解決策を議論。 ・要件定義からシステム開発、移行、運用、メンテとシステムライフサイクルをとおして体験。 ・マネジメントの80%をしめるコミュニケーションの技術習得。
	富士通（株）	
59	情報通信技術が切り拓く金融ビジネス・モデル	情報通信技術の革新によって金融業がそのビジネス・モデルをいかに変革してきたかその歴史について事例を中心に振り返りながら、今後、「金融サービス業」として新たなビジネス・モデル展開の可能性などを解説する。 ・主要な業態（銀行、証券、保険およびノンバンク）における情報システム化の歴史 ・IT適用による金融業のビジネス・モデルの変遷（決済、資金調達、資金運用、保険 他） ・クラウドやSaaSなど新たな情報通信基盤の登場による新たなビジネス・モデルの可能性に関する展望 ・その他
	富士通（株）	
60	人を動かすリーダーシップとシステム開発の楽しさ	会社生活は個人の方だけではどうにもならない場面の連続です。システム開発においては、顧客、上司、部下、協力会社と様々な人を動かすリーダーシップ力が求められます。本講義では、人間関係や行動パターン、人を動かす仕組みなどエンジニアに求められる「人を動かすリーダーシップ」について、演習やロールプレイなどにより楽しく学び、システム開発のエピソード、楽しさを合わせてお伝えいたします。 ・システム開発と将来のリーダー ・システム開発の楽しさと人間 ・動機付けの構図 ・リーダーシップ・パターン ・人を動かす仕組みとリーダーシップ
	富士通（株）	

No	講義テーマ	講義概要
61	分かりやすい品質管理入門 —人間重視の品質マネジメント—	ソフトウェア・システム開発における品質は永遠の課題であるように言われ、その一方では品質トラブルが後を絶たない状況にあります。本講座では、品質確保の秘訣である「人間重視の品質マネージメント」について、現場で実践し効果を上げた事例に基づいて、品質保証体系と効果的な実践法、適用事例等を解説いたします。著書：「人間重視の品質マネジメント ソフトウェア品質保証システムの構築と実践」で著した内容のエキスをお伝えしたいと思います。
	富士通（株）	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトウェア品質保証システム体系の構築 ・プロセス改善と人間 ・ソフトウェア品質保証の効果的な実践法と事例 ・協力会社と連携した品質保証
62	「カイゼン」と「プロセス改善」入門—無限の可能性を生む改善の知恵—	システム開発におけるプロセス改善のモデルであるCMMI®と自律型改善である「カイゼン」を取り上げ、会社生活を送る上で、簡単な改善の知恵が無数の可能性を生み出し、組織全体のカルチャーを向上させることをお伝えします。いかにして組織的な改善活動をデザインしたら良いのか、真の自律型に進化させるコツなど、ミニ演習を取り入れながらお伝えします。組織を日本初のCMM®レベル5達成に導き、品質成果を上げた苦労話も交えて解説します。入門編として分かりやすい講義内容に致します。
	富士通（株）	<ul style="list-style-type: none"> ・システム開発と改善モデルCMMI ・高品質を達成するための秘訣 ・真の自律型「カイゼン」とは ・品質を良くするための改善活動パターン ・自立型から自律型への進化 ・改善活動の効果とポイント
63	次世代型エンジニアの心得とモチベーション向上法	若手エンジニアに対するアンケート結果では、「将来に期待が持てない」などモチベーションクラシス現象が起きていると言われていています。本講義ではエンジニアの「価値観」や「生きがい」に照準を当て、世界に通用する一流のエンジニアに求められるヒューマンスキルについて講義します。心理学的な方法論やケーススタディにより「気づき」が得られる内容にしたいと思います。
	富士通（株）	<ul style="list-style-type: none"> ・システムと人間関係 ・アサーティブな行動パターン ・モチベーションの向上法 ・EQとIQ ・エンジニアへの期待
64	「わくわく」感を生み出す人間力醸成とコミュニケーション力の向上法	組織活動から良好な製品が得られても、組織を構成する人々が疲弊しては、活動も効果も持続しない。人々の「わくわく」感を伴った活動の結果として、良好な製品が生み出されなければならないのである。本講義においては、エンジニアに必携の「人間力の醸成法」と「わくわく」感を生み出すコツ、コミュニケーション力の向上法などについてお伝えする。ミニ演習を通じた疑似体験により、自ら「気づき」を得ていただくと共に、方法論を会得できる内容を準備する。
	富士通（株）	<ul style="list-style-type: none"> ・人間力とは ・人間力醸成と人を動かす仕組みの考案 ・コミュニケーションの向上法 ・メンタリング・コーチング
65	ヒューマン・エラー防止のための「動機付け」法と改善の仕組み	昨今、ヒューマン・エラーによるトラブル発生が後を絶たない。繰り返される失敗を防ぐためには、個人を責めるのではなくその根源となるヒューマン・ファクターに光を当て、「わくわく」感および「生きがい」を生み出し、改善の知恵が日常化する組織土壌を形成しなければならない。そのための「自己啓発」実践法について、演習や事例などを交えて講義する。
	富士通（株）	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒューマン・エラーと知恵 ・人間力醸成のためのアサーティブな行動パターン ・失敗の構図と「動機付け」 ・失敗を繰り返さないための改善の仕組み ・失敗を繰り返さない組織風土の構築
66	システム開発を成功に導く「見える化」とは？	システム開発は、製品として出来上がるまで、その状況はなかなか見える化（可視化）されてきません。稼動した後の品質問題やリスクの顕在化は、システム開発が失敗であった証と言えます。システム開発成功の鍵は開発途上の早い段階から、リスクや品質を見る化して、問題として顕在化しないように対応策を採る事であると言えます。本講義では、リスクと品質の見える化の仕組みについて、分かりやすく講義します。
	富士通（株）	<ul style="list-style-type: none"> ・見える化と定量化の違い ・真の見える化 ・リスク管理と品質管理 ・リスク見える化の仕組み ・品質見える化の仕組み ・システム開発と実践サイクル
67	システム開発における要件定義の重要性とモデリング技術	とかく実装技術に偏りがちな情報工学の中で、システム開発の成否の50%以上を握ると言われている要件定義の必要性、難しさ、役割・責任論、および特に必要とされるモデリング技術のポイントについて講義する。
	富士通（株）	

No	講義テーマ	講義概要
68	富士通におけるプロジェクトマネージャーの仕事といかにプロジェクトマネージャを育成するか	PMBOK をベースにしたモダン PM をベースにするものの、富士通の伝統であるKKD（感・経験・度胸）をフルに活用した富士通のプロジェクトマネージャーの仕事ぶりを語ることで、プロジェクトマネジメントの面白さを伝える。 また、富士通ではどうやってプロマネを育成しているか？について説明する事で、プロマネにとって必要なスキルとは何か？を伝える。
	富士通（株）	
69	システム開発 ～プロジェクトの現場から～	システムエンジニアの職務と実際のシステム開発について事例をもとに解説する。 ・システムエンジニアの役割 ・システム開発のプロセスについて 各工程毎に作業内容とポイントを説明する（実際のプロジェクト事例より）
	（株）富士通関西システムズ	・マネジメント手法（QCDD） ・今後の展望（IT 業界活性化のために）
70	携帯電話におけるマルチメディアとセンシング技術 「ヒューマンセントリックケータイへの取り組み」	・携帯電話における各種のマルチメディア技術とセンシング技術の開発、今後の動向 ・センシング技術とモバイルクラウドによるヒューマンセントリックなケータイとサービス
	富士通（株）	
71	情報セキュリティの基盤技術 暗号技術の最新動向 －こんなに身近になった暗号－	暗号技術は、かつては軍事・外交がその主要な活躍の舞台でしたが、現在では、個人のプライバシー保護や企業機密保護という新しい役割を担い、いまや現代ネットワーク社会にとって必要不可欠なキーテクノロジーとなっています。 本講義では、PCや携帯電話などで実は我々が日常的に使っている暗号技術のメカニズムについて説明するとともに、暗号の応用の広がりや、世界における暗号標準化動向をわかりやすく解説します。
	三菱電機（株）	
72	ソフトウェア工学の実践 －ソフトウェア開発における「改善」－	ソフトウェアの社会的重要性がますます増大している今日、高品質なソフトウェアをタイムリーに提供するためのソフトウェア開発プロセスの改善について、わかりやすく解説する。特に、ソフトウェア工学の成果の1つとしてCMMIを例にとり、個人の能力依存体質から脱却して、組織に合った標準化を行い、更に定量的な視点を持ってソフトウェア・プロセスを改善していく様子を、事例を示しながら解説する。 （注）CMMI（Capability Maturity Model Integration）：カーネギーメロン大学 Software Engineering Institute で開発されてきたソフトウェア・プロセス改善のフレームワーク。
	三菱電機（株）	
73	ビジネスとITシステム －モノ作りの観点から－	今や、それなしでは私たちの日々の生活が成り立たないほどの重要な社会基盤になっているITシステム。その見た目や実体はさまざまだが、それぞれのシステムには、必ず、販売促進、サービス向上、コスト削減などビジネス上の要件がある。 講義では、これらビジネス要件から実現されるITシステムを、情報システム産業におけるモノ作りの観点で概観し、技術者がどのようにビジネスに関わってゆくか見てゆく。
	三菱電機（株）	
74	情報セキュリティガバナンス におけるアイデンティティ管理技術	増加、多様化するセキュリティ脅威によるデータ破壊や情報漏えい事故など、情報セキュリティ対策の不備が原因で被る経済的な損害は、社会的責任も含めると膨大なものになります。そのための対策として、個別のセキュリティ対策では限界があり、体系的な統制＝ガバナンスが有効であると考えられています。 本講義では、「誰が」「何を」といったヒト・モノ・コンテンツを集中管理して、ユーザ認証・アクセス制御をトップダウンで実行するアイデンティティ管理技術を中心に、情報セキュリティガバナンスについて解説します。
	三菱電機インフォメーションシステムズ（株）	
75	企業ウェブサイトの構築・ 運営の課題とマネジメントシステムの活用	企業ウェブサイトは、製品・サービス・会社情報の発信手段から、顧客とのコミュニケーションツールとしての役割を経て、ビジネスに必要な販売促進支援ツールへと進化しつつある。 また、近年、個人情報保護法等の法整備等の社会的環境の変化から、企業ウェブサイトは、よりレベルの高い情報セキュリティ、システムの信頼性向上、新サービス導入が可能な柔軟性等が求められるようになった。 このような課題に対し、「三菱電機オフィシャルウェブサイトの構築・運営」を題材に、講師が直接取り組んでいる品質、情報セキュリティ、ITサービスのマネジメントシステムについて述べるとともに、そこで使用されている新しい技術について解説する。
	三菱電機インフォメーションシステムズ（株）	
76	プラント制御システムの信頼性	今日世界中で、様々な業種（石油、化学、電量、鉄鋼等）の様々な規模（小から超大規模）のプラントが数多く稼働しています。これらのプラントを制御するプラント制御システムには高い信頼性が要求されます。本講義では高信頼性を実現するプラント制御システムの高信頼化設計技術を解説します。 トピックスとしては、究極の故障検出率を持つ制御 CPU 冗長化、超大規模プラント向けの制御通信の高信頼化技術等のシステムのフォールトトレラント技術が中心となります。
	横河電機（株）	
77	光ファイバセンシングの原理と応用 －光ファイバを測る！ 光ファイバで測る！－	光ファイバセンシング技術は、従来の点／多点計測では知り得なかった距離方向に連続的な温度や歪みのデータを、一本の光ファイバで測定できる画期的な技術である。本講義では、光ファイバセンシング技術の原理、応用例・実用化例について紹介するとともに、最近の開発の取り組み、今後の展望について紹介する。
	横河電機（株）	

No	講義テーマ	講義概要
78	プラントの安全計装	プラントの安全を守る手段の一つとして注目されている安全計装システムの紹介をする。安全計装システムが規範とする国際規格 IEC61508 はリスクベースの安全管理指針を示したものであり、リスク低減の定量的目標（安全度水準＝ SIL : Safety integrity Level）が導入されている。この内容説明を通し安全計装システムの骨子を紹介し、所定の安全度水準を満たすために安全計装システムで実現している卓越した自己診断機能の内容、徹底度などを解説する。
	横河電機（株）	
79	安全システム・制御システムの信頼性技術	国際安全規格（IEC61508）でもとめられる安全性設計の考え方とユーザから求めら得る高稼働率の考え方を踏まえ、安全システム・制御システムの信頼性技術のキーポイントや課題について外観する。
	横河電機（株）	
80	マイクロマシニング技術で圧力を測る	最近注目されているマイクロマシニング技術の動向と横河電機の取り組みを簡潔に説明し、事業部で既に製品化された内容についての詳細説明を行う。 1. マイクロマシニング（MEMS）とは 1.1 最近のMEMS動向 1.2 横河電機におけるMEMS開発と応用製品 2. シリコン振動式 差圧発信器 2.1 シリコン振動式センサとは？ 2.2 動作原理 2.3 センサ製作工程 2.4 微細加工技術 2.5 アセンブル技術 3. 今後の展開・展望（差圧センサ）
	横河電機（株）	
81	計測トレーサビリティ概論	取引するときに、相手のはかりが信用できなかったら？ 自分のはかりで計ってみましょう。日頃何気なくいろいろな物を買っていますが、重さは正しいでしょうか？ ガソリンスタンドの流量計やタクシーのメータは間違っていないでしょうか？ もめごとが起きないように、取引が円滑に進むように、計量単位や計量器が社会に供給され、維持管理されています。このような仕組みについて、分かりやすく解説します。最近、開発が進められている遠隔校正（e-trace）についても全体概要を紹介します。
	横河電機（株）	
82	多様化する社会で求められるマルチキャリア	一つの専門分野の学問や業務を続けるには、常に最前線の能力が求められるばかりでなく、陳腐化するリスクもあります。これから多様化する社会において、一つの専門に拘らず、様々な経験をプラスに転じ、かつ他にはない価値をいかに創造していくかについてお話しします。
	富士通（株）	
83	次世代ネットワーク（NGN）の動向とNGNにより広がるユビキタス情報社会	ユビキタス情報社会の発展を、ネットワークの視点で解説する。 ・ネットワーク技術の変遷と次世代ネットワーク（NGN）への期待 ・NGN の需要、技術動向 ・NGN により広がるユビキタス情報社会のイメージ
	（株）日立製作所	
84	ロジカル / フィジカル・アクセスセキュリティ向け指静脈認証技術	ロジカル・アクセス（例えば端末、PC へのログオン）や、フィジカル・アクセス（例えば部屋への入退室管理）のセキュリティ向上のため、生体認証に対するニーズが高まっている。本講では、(1) セキュリティソリューション、(2) 生体認証、(3) 指静脈認証の順を追って、具体例をあげながら、市場ニーズと事業としての対応について説明する。
	（株）日立製作所	
85	「①プログラム解析技術概説と応用」 「②アスペクト指向技術概説と応用」 「③反復型ソフトウェア開発プロセスの概要」の何れか	①プログラムスライシング技術を中心としたプログラム解析技術の概略と適用例 ②アスペクト指向技術の概略と適用例 ③ウォーターフォール型と反復型のソフトウェア開発プロセスの比較と反復型プロセスとしての Rational Unified Process (RUP) の概要
	（株）日立製作所	

付録3 JEITA講座実施要領（2010年1月作成）

JEITA 講座の実施要領

2010 年 1 月

JEITA 講座運営 WG

目 次

1. JEITA 講座「IT 最前線」開設の背景と目的
2. JEITA 講座の実績
3. JEITA 講座の運営
 3. 1 JEITA 講座運営 WG
 3. 2 JEITA 講座の前提条件
 3. 3 講座運営の概要フローと年間スケジュール
 3. 4 JEITA における実施事項
 - (1) 講座開設に関する大学側の意向確認と新規大学の開拓
 - (2) 講師リストの作成
 - (3) 派遣講師の確認
 - (4) 講座運営に関する大学側との最終確認
 - (5) 各大学における講義タイトルの JEITA ホームページへのアップ
 - (6) 講義の傍聴
 - (7) アンケート／意見交換の実施
 - (8) 総括
 3. 5 大学における実施事項
 - (1) 講座開設に関する学内手続き
 - (2) 講師の選定と講義日程の調整
 - (3) 講座実施要領（学生向け、講師向け）の作成
 - (4) 講師に対する講座実施要領の送付
 - (5) 講義当日又は直前における作業
 - (6) 成績評価
 - (7) 開講報告書の提出
 3. 6 講師における実施事項
 - (1) 講座実施要領の確認
 - (2) 講義内容の検討
 - (3) 講義資料の作成と大学及び JEITA への送付
 - (4) 講義の実施
 - (5) 講師アンケートへの回答
- 添付 1 講師派遣の運営手順(1/2・2/2)
- 添付 2 JEITA 講座の講師の皆様へ

1. JEITA 講座「IT 最前線」開設の背景と目的

学生の理工系離れや基礎学力の低下が指摘される中、このままの状態が続けば、技術立国として発展してきたわが国の産業競争力が低下し、近隣諸国の後塵を拝する事態となりかねないと危惧されている。そこで、(社)電子情報技術産業協会(JEITA)では、21世紀の科学技術を支えるキーテクノロジーであるIT分野の最先端技術研究開発を担う人材の強化を目指し、産業界の立場から大学と協力して人材育成プログラムを立ち上げるようになった。

その一環として、JEITAに加盟する企業から、ビジネスや研究現場の第一線で活躍している社員を大学に派遣して講義を行うというJEITA講座「IT最前線」を2002年度に開設した。IT分野の最先端技術だけでなく、企業研究開発の現場で求められる資質、プロジェクト管理、ビジネス戦略および困難に立ち向かい成功した体験談等も交えて講義することによって、学生にIT業界で働くことの楽しさを理解してもらうことを狙いとしている。

2. JEITA 講座の実績

大学	講座名	対象	開講期間	備考
東京大学	協力講座 (電子情報学特論Ⅰ)	大学院情報理工学系研究科電子情報学専攻の修士課程ならびに博士課程 他	2002年度～	隔年開講 前期
早稲田大学	JEITA 寄附講座 「IT 最前線」	理工学部及び大学院理工学研究科 電気電子情報系 他	2002年度～ 2004年度	前期
東京工業大学	総合科目 C： IT 最前線	大学院情報理工学研究科 他	2002年度～ 2003年度	ケーススタディ講座方式 後期
立命館大学	企業連携講座	情報理工学部 3 回生、1 回生	2003年度～	前期、後期
電気通信大学	情報システム学基礎1 「IT 最前線」	大学院情報システム学研究科 他	2003年度～	遠隔教育 後期
慶應義塾大学	21COE/G-COE 教育 プログラム (情報・ 電気・電子分野)	COE 研究員 (博士後期課程の学生)	2004年度～	前後期 2名/1回
東京農工大学	科学特論VI「JEITA」講座	大学院工学府	2006年度～	後期
横浜国立大学	先端電子情報工学	電子情報工学科 3 年生	2007年度～	前期
東北大学	情報科学特別講義 (I および II)	ASIST 参加学生 (国費留学生) 及び一般の希望学生で、学年は、大学院修士1年生がメイン。	2008年度～	後期
岐阜大学	学際科目「先端情報 技術特論」	工学研究科の全専攻の学生	2009年度～	前期
北陸先端科学技術大学院大学	イノベーション セミナー I	知識科学研究科、情報科学研究科、マテリアルサイエンス研究科の博士前期及び後期課程学生	2009年度～	前後期

3. JEITA 講座の運営

3. 1 JEITA 講座運営 WG

JEITA 講座の運営をサポートするために、JEITA 講座運営 WG を設置している。本 WG の主な活動は以下のとおりである。

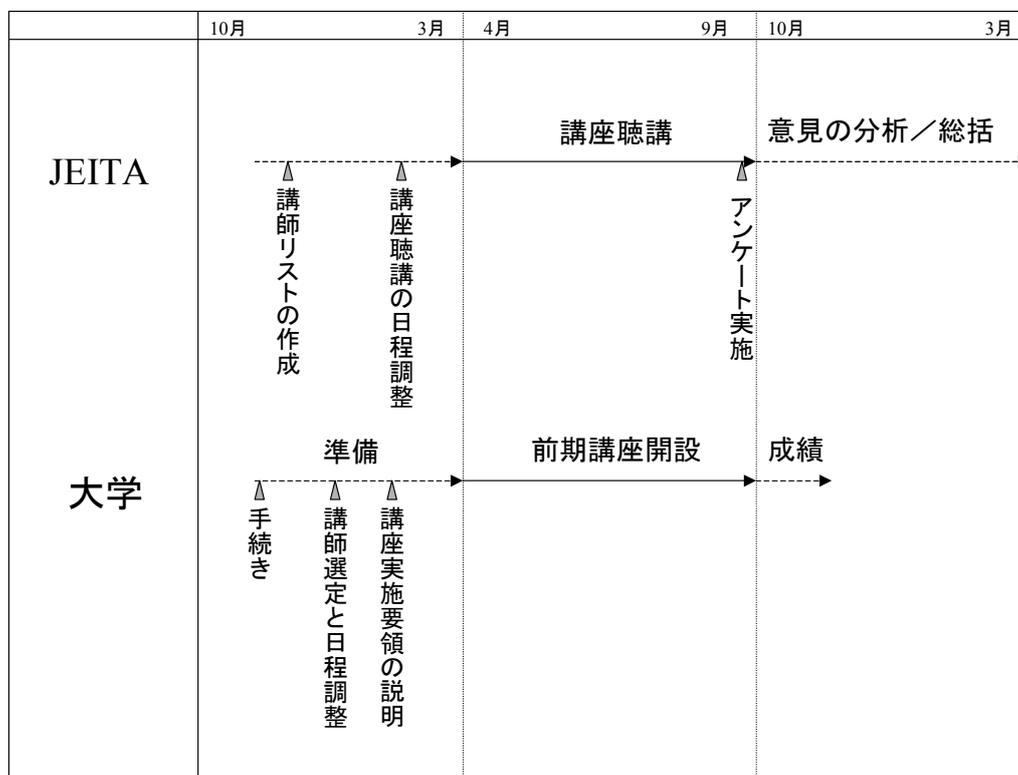
- (1) JEITA 講座の講師として、各企業の優秀な技術者・研究者を JEITA 事務局に推薦する。
- (2) WG メンバによる講義の聴講、学生に対するアンケートの分析等により、JEITA 講座の実態を常に把握し、良質な講義が提供できるように環境を整備する。
- (3) JEITA 講座を開設する大学の開拓及び調整を行う。

3. 2 JEITA 講座の前提条件

- (1) 進路決定の際に、本講座で得たことを活用してもらいたいとの思いから、大学学部の3年生又は大学院修士課程1年生を主な対象とするが、それ以外でも特に問題はない。
- (2) 各企業から派遣する社員が1限分の講義を担当し、スライド等を利用して講演を行うことを基本的なスタイルとする。各講義には、本講座の担当教官が同席する。
- (3) 本講座は大学の正式な単位認定講座とする。
- (4) 講師に対するインセンティブとして、大学の規程上可能であれば、非常勤講師としての処遇を行う（名刺に非常勤講師の肩書きを許可する等）。
- (5) 成績評価は大学側で行う。出席点及びレポート／試験による評価を原則とする。
- (6) 講師に対する謝金及び旅費は、大学の規程に応じて、大学が各講師に支払う。
- (7) 講義時の会場のセッティング、講義資料の準備、学生の出席確認等の講義に付随する作業は、大学側が行う。そのため、必要に応じてティーチング・アシスタントを配備することが望ましい。

3. 3 講座運営の概要フローと年間スケジュール

前期に講座を開設する場合の講座運営の概要フローと年間スケジュールを以下に示す。



3. 4 JEITA における実施事項

- (1) 講座開設に関する大学側の意向確認と新規大学の開拓
事務局は、現在 JEITA 講座を開設している大学が次年度も開設する意向があるかどうかを開講時期の半年前頃に確認する。また、半期の開設大学は3校程度を目安とするので、必要に応じて、新規の大学を開拓する。新規大学の開拓に際しては、運営 WG がサポートする。
- (2) 講師リストの作成
事務局は、JEITA 講座運営 WG に参加する各社に対して、派遣する講師の登録を依頼し、その結果をもとに講師リストを作成する。リストには、企業名、講師名、所属・役職、講義タイトル、講義概要、講師プロフィールを含める。
- (3) 派遣講師の確認
事務局は、大学から派遣講師の決定連絡があった段階で、講師の所属する企業に最終確認を行う。
- (4) 講座運営に関する大学側との最終確認

開講前に、JEITA、大学、講師の役割分担を最終確認する。

- (5) 各大学における講義タイトルの JEITA ホームページへの掲載
JEITA 講座の活動を広くアピールするため、各大学における講義タイトルの一覧を JEITA のホームページに掲載する。また、講師の了解が得られれば、講座終了後に講義資料一式（PDF 化）も掲載する（現在ペンディング）。
- (6) 講義の傍聴
各講師の講演内容や様子、学生の反応等を直に把握するため、運営 WG のメンバ及び事務局が講義を傍聴する。運営 WG メンバは、各開設 JEITA 講座に対して、自社の講師の講義 1 回と他社の講師の講義 1 回程度、傍聴することが望ましい。
- (7) アンケート／意見交換の実施
本講座に対する受講生の意見を入手するため、事務局が最終回の講義時にアンケート票（付録 1）を持参し、アンケートを受講生に記入してもらい、回収する。また、担当教官の意見を聞くために、運営 WG メンバとの間で適宜意見交換を行う。
- (8) 総括
よりよい JEITA 講座へと発展させるために、アンケートや担当教官の意見を分析し、改善項目を検討して、次年度以降の講座での反映を図る。

3. 5 大学における実施事項

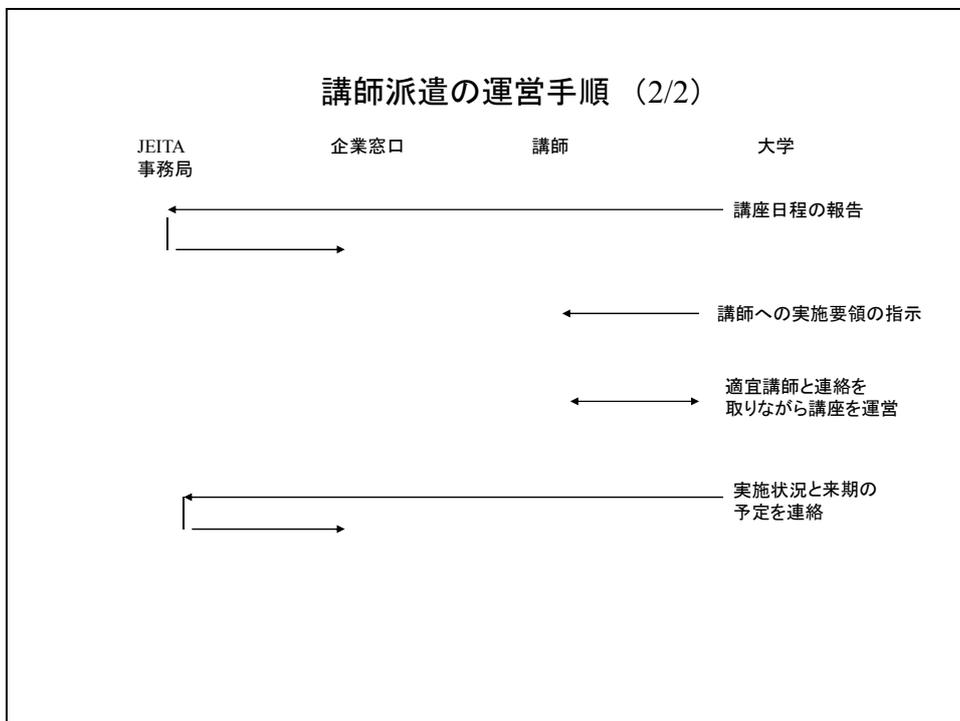
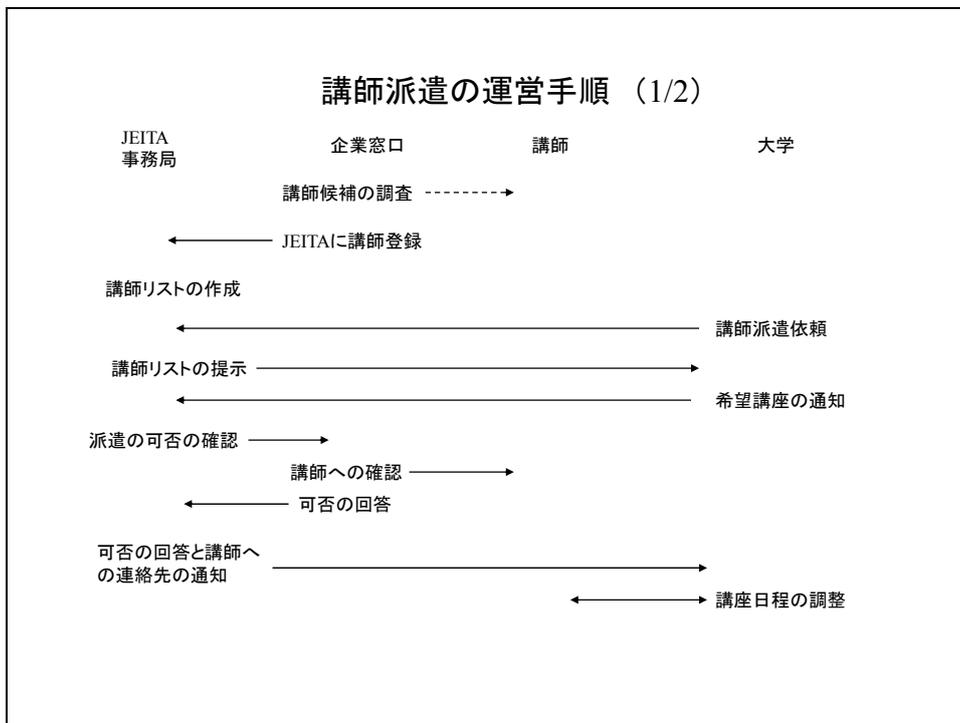
- (1) 講座開設に関する学内手続き
JEITA 講座の受け入れに関して、学内手続き（オーソライズ）を行う。講座名、講座日程及び担当教官の決定、シラバスの作成等も行う。
- (2) 講師の選定と講義日程の調整
JEITA 事務局から提示された講師リストをもとに、講座に相応しい講師（講義タイトル）を選定する。また、JEITA にて派遣講師の最終確認が行われた後に、各講師と講義日程の調整を行う。
- (3) 講座実施要領（学生向け、講師向け）の作成
学生及び講師に対するガイドライン的なものとして、講座実施要領を作成する。講師用の講座実施要領には、事務的な事項の他、受講生の専門領域、知識レベル等、より適した講義を行うための各種情報を記述する。
- (4) 講師に対する講座実施要領の送付
講師に講座実施に関する注意事項を周知するため、メールにて講座実施要領を送付する。また、可能であれば、全講師を対象とする講座説明会を実施する。
- (5) 講義当日又は直前における作業
①講義資料の電子ファイルの送付を講師に依頼する。必要に応じて、講義資料の保存場所を学生に周知し、事前に目を通せるようにしておく。

- ②PC を講師持込にするか大学側で用意するか確認する。
 - ③講義資料を配布する場合には、事前に印刷し、当日、受講生に配布する。
 - ④当日、必要な機器（PC、プロジェクタ等）のセッティングを行う。
 - ⑤講義の冒頭で、担当教官が講師の紹介を行う。
 - ⑥講演終了後、質疑応答の時間を取る。
- (6) 成績評価
- 通常の場合、「レポート+出席」で成績評価を行う。一例として、レポートは講師の中から2名程度を選び、講義内容をまとめ、調査等によって問題を掘り下げ、批評・展望・感想等を述べるものとする。なお、出席は、レポートを提出する講義だけでなく、全ての講義を対象とする。
- (7) 開講報告書の提出
- 講座終了後、講座の実施状況や担当教官の所感等を記述した開講報告書を JEITA 事務局に提出する。

3. 6 講師における実施事項

- (1) 講座実施要領の確認
- 大学から講座実施要領が送付されるので、内容をよく確認し、疑問点等を大学に問い合わせる。
- (2) 講義内容の検討
- 講義内容の検討に際しては、以下の項目を考慮する。
- ①対象となる学生の学年、専攻等を考慮し、理解し易い内容とする。
 - ②技術の説明だけでなく、背景、課題、困難を克服した経験／失敗談等、企業での実際の経験を交えた内容とする。
 - ③業界としての取組みであることを念頭に置き、自社製品の PR だけを目的とする講義は避ける。また、他社製品との比較を行う場合、関係者間で意見が一致していない事項に関する優劣の表現は避ける。
- (3) 講義資料の作成と大学及び JEITA への送付
- 講義当日に使用する資料を電子ファイル（PDF 化したもの）で大学に送付する。また、JEITA のホームページ上への掲載に同意する場合には、同じもの（事情により一部割愛や変更したものでも可）を JEITA 事務局に送付する。（現在ペンディング）
- (4) 講義の実施
- 講義当日、指定された場所（待合室又は直接教室に行くケースがある）に行き、担当教官と簡単に打ち合わせた後、講義を行う。
- (5) 講師アンケートへの回答
- 講義終了後に、後日、JEITA 事務局からアンケート票が送付されるので、回答する。

別添 1



JEITA 講座の講師の皆様へ

JEITA 講座運営 WG

【JEITA 講座の目的】

本講座は、JEITA に加盟する企業から、ビジネスや研究現場の第一線で活躍している社員の皆様に大学に行っていただき、IT ビジネスに関する最先端のトピックスについてオムニバス形式で講義をするものです。

講師の皆様には、企業の第一線で企画・研究・開発・設計など実際に体験されたことを中心にお話をいただきますようお願いをいたします、そのなかで、IT 産業界が必要としている人材像、技術者としての姿勢、創造の厳しさ・喜びなどを自らのことばで直接学生に伝えていただき、共有することで、高度化、多様化する産業界で将来活躍できる人材を育成することを目指しています。

技術そのものを講義するのではなく、「IT 業界で働くことの面白さ、やりがい」を伝えることによって、学生の皆さんが大学時代に何を学んだらよいか、気づきを与えるとともに、IT 業界の仕事に対する理解を深めることを狙いとしています。

【JEITA 講座で講義をする際のポイント】

1. 仕事の企業・産業・社会における意義を強調

講師の皆様の仕事が、企業内や、日本・世界の産業、経済、社会にどのように影響を与えているのかを強調することで、学生の皆さんがIT 業界で仕事をする意義を実感することが重要です。

2. 自らの経験を臨場感をもって

仕事への興味、成功談・失敗談、達成感など、経験を生々しく学生の皆さんに伝えていただくことで、仕事の「面白さ、やりがい」を共有することが重要です。

3. 技術的説明は必要な範囲で

学生の皆さんは、学年・専門分野・興味などが一律でないことがありますので、あまり立ち入った技術的説明をしても理解できない可能性があります。

したがって、技術的説明は上記 1、2 を理解するのに必要な範囲にとどめる必要があります。

付則：大学訪問を新たな出会い・発見の場に

本講座により大学で授業をされる機会を活かして、先生方や学生の皆さんと議論をする機会を設けるなど積極的に交流していただくことで、新しい出会いや、発見をする場として活用していただくことも重要です。

